

資 料

昭和戦前期ダンス・音楽関係雑誌目次総覧(7)

永 井 良 和

Cumulative Contents of Japanese Music and Dance Magazines
in 1920s-1930s (7) The Dansu Jidai (The Dance Time)

Yoshikazu NAGAI

Abstract

In the 1920s and 30s, Modernism was the distinctive feature of Japanese urban culture. To understand that period, an appreciation of jazz music and ballroom dancing are particularly important. Relevant information for reconstructing these phenomena is, however, lacking. This time, three magazines from this period published in Osaka and Amagasaki, *Dansā* (The Dancer), *Dansu-Fan* (The Dance Fan), and *Dansu-jidai* (The Dance Time) have been studied with the help of several informants and public libraries. Although there may be many missing numbers, the found issues contain a lot of valuable information that detail the taxi-dance halls that existed in Osaka, Amagasaki, and the Kansai area. Therefore, as a result of the study, I created a log of all the issues that I could find, and reprinted several important articles.

Keywords: Modernism, Japanese taxi-dance halls, Jazz, Ballroom dancing, Music magazines, *Dansā*, *Dansu-Fan*, *Dansu-jidai*

抄 録

1920年代から1930年代にかけて、わが国の都市ではモダン文化が開花した。なかでも、ジャズ音楽と社交ダンスの大衆化は、その象徴的現象である。しかしながら、当時の史実を再構成するために必要な基礎資料の整備は、いまだじゅうぶんとはいえない状況にある。この資料では、昭和戦前期に大阪・尼崎で刊行されていた雑誌のうち、『ダンサー』・『ダンスファン』・『ダンス時代』の3誌について、未発見の号や欠号などがあるものの、関西に存在したタクシーダンス・ホールの詳細を知る手がかりとして、目次を復刻し、重要な記事の一部を翻刻する。なお、この作業は、1995年から1996年にかけて連載した、東京で発行されていた雑誌の目次総覧についての資料の続編にあたるものである。

キーワード：モダニズム、都市文化、タクシーダンス・ホール、ジャズ、社交ダンス、音楽雑誌、『ダンサー』、『ダンスファン』、『ダンス時代』

(7) 『ダンス時代』 1932年～1938年

【凡例】

1. 復刻にあたっては掲載当時の目次の体裁を生かした。目次と本文で情報がくいちがうばあいは、その旨を記載した。また、目次に記載がない記事についても〔 〕を付して補っている。ダンスホールの名称については、一部を略記した（尼崎ダンスホール→尼崎、キングダンスホール→キング）。
2. 本文の組版は基本的に縦組であるため、原文ページのノンブルは漢数字で記載されている。ここでは算用数字にあらためた。
3. 一部の記事を翻刻したが、翻刻にあたってはなるべく掲載時の表記にしたがい、かなづかいや、促音や拗音の文字の大きさもそのままとした。変体がなや異体字などは、可能なものは原文のままとし（「ゐ」「ゑ」、「江」）「ネ〔子〕」など元の漢字を補足したものもある。踊り字など横組で表記するのがむずかしいもの、たとえばくりかえしを示す「くの字点」は〔くの字点〕というように補った。漢字については旧字体を新字体に置き換えたが、人名や固有名詞などの一部は旧字体のままとした。
4. 記事の翻刻においては、明らかな誤植や脱落、また誤りの可能性が高いとみられる文字であっても原文のままとし、疑問点については〔カ〕などと補うなどして説明した。ただし、読みやすさを考慮して、改行箇所を1字アケに置き換える、行頭行末の禁則処理について必要に応じて変更するなどしている。
5. 現代にあっては不適切とされる表現、地名・固有名詞に関しても、原資料の時代背景や当時の価値観をしめすものとして、そのままにしてある。

【時代背景】

雑誌『ダンス時代』は、1932（昭和7年）秋に尼崎で創刊された社交ダンスの専門誌である。すでに紹介した『ダンサー』（1927年創刊）および『ダンスファン』（1930年創刊）につづき、これも関西圏のダンスホールの事情を中心につたえる雑誌だが、公共図書館・大学図書館などにはほとんど所蔵されない。

『ダンス時代』の創刊時の編集人兼印刷発行人は下村等正という人物になっており、ときどき下村も記事を投稿している。しかし、主筆ともいえるのは下村澪子という女性で、実質的な編集長だったとみられる。下村澪子はかつて『ダンスファン』で記者をしていた。下村澪子が『ダンスファン』で原稿を書いたのは1932年2月発行の第3巻第2号で、「別府市の招待で社交ダンスの公演」というレポートを書いている。肩書は「婦人記者」とある。1932年8月発行の第3巻第7号にも寄稿がある。こちらは下村の記者生活の一端をしるしたもので、彼女がダンス雑誌の専属記者ではなく、夕刊新聞紙とのかけもちだったことが示唆されている。ただ、その新聞社の正社員であったわけでもなさそうだ。第3巻11号からは、澪子が「下村みを」の名で編集人兼発行人になっている。なお、等正と澪子は同じ下村姓だが、夫婦なのか親子なのか、あるいはきょうだいなのか、関係の確定にはいたっ

ていない。また下村桃咲という名前も見られるが、これは等正の号である可能性が高い。

前号の解説でも書いたとおり、下村澪子は『ダンス時代』に創刊からかわった。それまでは八木亮輔の『ダンスファン』にいたわけだから、突然、ライバル雑誌に引き抜かれたかたちだ。八木にとってはおもしろくなく、そのいきさつを編輯後記などでうらみがましく書いていることもあった。その後、八木は『ダンスファン』誌上で記事化されたダンスホール関係者の座談会に下村澪子を参加させるなどして、関係はあるていど修復されたかに見える。ただ、1935年初頭に生じた尼崎ダンスホールと西宮ダンスホールとのあいだのトラブルに澪子がかかわったとする噂があり、それを材料に八木が『ダンスファン』誌で攻撃をくわえる局面もあった。けっきょく、並び立つ両誌が協力的になることはなかった。

『ダンス時代』と『ダンスファン』とは緊張感をともなうライバル関係にあったが、誌面構成や記事の色あいにもいささか隔たりがあった。重視される内容、たとえばダンサーの写真や近況、ダンスホールの情報、さらに最新の技術解説やダンス音楽の紹介といった項目だけをくればれば、一見さほどのちがいがあがるようには映らない。しかし誌面を読みすすめると、下村澪子の方針がはたらいたせいか『ダンス時代』のほうがより文芸的で、ダンス以外のさまざまな文化領域への目配りがある。一言でいうと読物のバリエーションが豊富で、幅ひろい情報によって誌面が構成されている印象だ。いっぽう八木が主宰した『ダンスファン』ではダンスの技術面にかかわる記事が重視され、その傾向はライバル『ダンス時代』の創刊後いっそう顕著になった。差別化の必要があったのだろう。

印刷所についてもふれておく。『ダンスファン』誌は、ナニワ印刷所（現・NPCコーポレーション）が長く担当した。これに対し今号で紹介する『ダンス時代』は、創刊からしばらくは三光社が手がけ、第1巻第7号以降、第3巻第11号までをプラトン社が印刷している。プラトン社といえば、化粧品メーカーの中山太陽堂（現・クラブコスメティック）が創設した印刷部門であること、大正時代を代表する雑誌『女性』や『苦楽』を出していたこと、才能ある書き手を擁した編集のセンスや高い印刷技術で関西の出版文化をリードし、支えていたことなどで知られる。ただその黄金時代は短く、1928（昭和3）年には廃業したとされる。けれども印刷の事業はその後継承されており、大阪市西区江戸堀に工場において商業印刷物を取り扱ったという（小野高裕「プラトン社の興亡」吉川登編『近代大阪の出版』創元社 2010）。この『ダンス時代』も、大阪江戸堀時代のプラトン社によって印刷されていたのではないかと考えられる。そのプラトン社が、なぜ第3巻までで担当を終えたのか、その経緯は不明だ。あとは大阪市港区のアサヤマ印刷所が引き受け、そ

の後再び三光社にもどり、現存する戦前最後の第6巻第1号は奈良の中川三陽堂から送り出されている。

『ダンス時代』には、ダンス界にかかわらず、ダンス愛好者だった文学者の寄稿もみられる。徳田秋聲、國枝史郎らはダンスホールに主題した作品を書いたことで知られる。徳田は『ダンスファン』でも動静を報じられたが、本誌でも写真入りの記事で紹介されており、望まれて関西のホールの印象を述べたり、俳句を寄せたりしている。

いっぽう國枝には小説「ダンサー」がある。これは『婦人公論』に連載された作品で、『國枝史郎伝奇全集 補巻』（1995年 未知谷）で復刻され、山蔦恒による詳細な改題もある。國枝の文章には関西のダンスホールの印象を軽快な筆致で綴ったものも多く、それらは資料的な価値も高い。末國善己編『國枝史郎伝奇風俗／怪奇小説集成』（2013年 作品社）には、『ダンス時代』に掲載された「ダンス一家言」、「ダンス無駄話」、「ダンス与太話」、「関西のダンス界 思い出す事ども」の4編が翻刻されている。これらについては、末國の改題もふくめ同書を参照されたい。なお、「関西のダンス界」は掲載時には堀寅造の挿画が添えられている。堀は、大阪の老舗や街並みの絵を多く残している画家で、画材店として知られるカワチのマークなどもデザインした人物であった。ダンスホールの絵も描いている。

國枝は、この『ダンス時代』で1935年5月刊行の第3巻第8号から9月刊行の第3巻第12号まで小説「ダンサー殺人事件」を連載していて、5回でいちおうの完結をみた。この作品については、作品発表までの経緯の確認や、他の媒体での発表との照合など、必要な作業ができていないこともあり、翻刻は見送った。

ミュージシャンでは、服部良一の寄稿を2点翻刻した。服部は大阪の生まれ、出雲屋の少年音楽隊を経て、のち阪神国道のキング・ダンスホールで演奏していた時期がある。東京に出る前後の服部の所感が示されている興味深い文章だが、一部が未発見である。

ダンサーに関するものでは、上海のダンスホールでの見聞を書いたダンサーによる手記を翻刻した。『ダンス時代』は、日本人資本のホールが中国大陸に進出した時期に刊行されていたので、「外地」のホールの広告や、それらに関する記事も豊富だ。このうち、上海や青島、大連、また、ダンスホールが公認されることがなかった朝鮮半島の事情を伝える記事を翻刻した。上海については、フロリダのマネージャーだった津田又太郎の視察旅行の記録がホール関係者ならではの観点に立つ。そのほか、関西のホールについての回顧記事として、大阪堀江遊廓につくられたホールに関するもの、大阪の初期のダンサーたちのようすを描いたものなども翻刻した。

さきほど書いたとおり、この雑誌の特色は、ダンスホールやダンサーの情報、ダンスの

技術や音楽にかかわることだけでなく、多様なジャンルの記事を掲載している点にある。ファッションや美容についての記事も多い。そして、1933（昭和8）年の第2巻第1号からしばらくのあいだ、ペンネーム「淀川生」による映画の紹介欄がもうけられた。映画評論家・淀川長治の若い時期のものだと推定されるが、断じることはできない。淀川生として初出の第2巻第1号「シネマ・ランド〔しねま・らんど〕」（1933年10月）を翻刻する。

編集長が女性だったこともあり、同性であるダンサーたちの寄稿が多い。これも、本誌の目を惹く特色だといえる。ダンサーは客のダンスの相手といくらかの会話の相手をするのが仕事であり、酒の相手をする女給や、歌舞音曲で楽しませる芸妓、さらには性的なサービスを提供する娼妓とは法律のうえでも厳格に区別されていた。だが、ダンサーも許可制で鑑札が下附されるしくみだったから、女給や芸妓と同じ範疇の職業だという世間の評価につながった。意識のうえでだけでも他の職業との差別化をはかるとすれば、教養があるということアピールするのはひとつの方法だった。じっさいに高等女学校などを卒業して当時の女性としては高い教育を受けたダンサーもいる。そういう女性たちが、筆をとって歌を詠んだり、小説を書いたりすることができる場として、『ダンス時代』誌は存在していた。文才があることを世間に知らせることでダンサーという職業の威信を守り、またそういう資質があることをアピールしてダンサーとしての人気を高めることが可能だった。

文芸志向をうちに秘める関西ダンサーたちが残した作品については、いずれ稿をあらためて分析したい。とくに、関西のダンスホールがPRのために発行していたホール独自のパンフレットやニューズレターには、ダンサーたちの投稿が少なからず採録されている。『ダンス時代』誌だけでなく、これらホールの出版物に寄せられた作品群を分析対象にふくめた作業が必要だろう。

また、『ダンスファン』誌もそうだが、各号に掲載されたホールの情報には、多くのばあい、バンドのメンバーが記載されている。ミュージシャンの移動は激しく、メンバーは目まぐるしく入れ替わる。半月、一か月の期間を過ぎれば別のホールに転じるということもよくあった。それらの情報を整理して、戦前期のジャズやタンゴの普及過程や、それが敗戦後にどういう人脈をつうじて継承されたのかを確認していく作業も残された。

以上に総括したとおり、ダンサーたちの文芸作品の評価と、ミュージシャンたちの移動の追跡のふたつが、今回の復刻作業を終えるにあたって残された「宿題」だといえる。

『ダンス時代』は、1938（昭和13）年1月発行の第6巻第1号が「終末号」となった。刊行断念の理由は経営上の事情というより、状況がダンス専門誌の出版を許容しなくなって

いたことによるものだろう。この号の巻末には、次の号から装いを改め『社交界』と題して刊行すると書かれているが、そのようなタイトルの雑誌が下村濤子らの手によって出された形跡はいまのところ確認できていない。

今回の復刻対象とした3誌については、作業までに入手あるいは閲覧できなかった号があり、他にも刊行されていたことはわかっているものの対象にふくめることができなかった雑誌もある*。とくに1934（昭和9）年11月に大阪で創刊された『舞踏公論』（1934年11月～）や『ザ・ニッポンダンスタイムス』（1934年？～）については数冊を確認できたものの全容をつかめないままになっている。

※ 『ダンサー』誌については、この目次総覧(5)の脱稿後、山路勝彦による紹介がなされた。この場で掲載を控えた写真などの図版も収録されているので参照されたい。山路勝彦 2021「女給が輝いていた時代 近代日本のカフェ文化(2)」『関西学院大学社会学部紀要』136 所収。

また、ダンスホールごとに発行していたニューズレターがあることはすでに記したが、現状で収集がすすんでいるのは、尼崎の阪神会館ダンスパレスが刊行していた『ダンスパレスニュース』（1934年12月～）の一部、神戸の花隈舞踏場が出していた『ダンセ・ハナクマ』（1934年9月？～）の一部、京都の三大ホール、東山会館の『ヒガシヤマ』（1934年6月～）、京阪ダンスホールの『京阪ダンスホールニュース』（1935年？～）、桂ダンスホールの『桂ダンスホールニュース』（1936年5月～）の、いずれもごく一部、琵琶湖ダンスホールの『琵琶湖ダンスホールニュース』（1936年6月？～）の一部にすぎない。これらの資料の未発見部分については発掘収集をさらにすすめ、一定の期間をおいたのち、東京・横浜、その他の地方のものもふくめた「補遺」となるリストを作成したいと考えている。

この『ダンス時代』も、第二次世界大戦後に復刊している。時期は1947（昭和22）年の7月と早い。8ページだでの小冊子あるいは4面だでの小型新聞のかたちで情報量は少なく、印刷や紙の質も粗悪だが、それでも敗戦から2年で復刊にこぎつけたのは驚くべき事実だ。東京の『ザ・モダンダンス』が復刊したのが1949（昭和24）年7月（1950年3月から『ダンスと音楽』に改題）、ライバル誌の『ダンスファン』の復刊が1950年1月だったことと比較すれば、時期的に抜きんでていたことが理解できよう。大戦後のダンスホールは、まず占領軍兵士を慰安する娯楽施設として開業するのだが、日本人を客とする民間ホールもじょじょにつくられ、ダンス愛好者も活動を再開した。その時期に、人的交流や情報交換の貴重な媒体として『ダンス時代』は復刊されたのである。他の雑誌が復刊するまでのあいだに消滅した踊り場をふくめ、敗戦まもない大阪ダンス界の状況を伝えるきわめて貴

重なる資料となっている。なお、復刊後の『ダンス時代』はプランゲ文庫に収められており、誌面は国立国会図書館で閲覧可能である。そのため、ここでは目次の復刻や記事の翻刻はしない。復刊後の発行所は戦前からひきつづきダンス時代社だが、所在地は尼崎ではなく、大阪市南区坂町35番地となっている。また、その後もダンス時代社の所在地は大阪市内でなんとか移転した。復刊後の『ダンス時代』は1949（昭和24）年2月刊行のものまでしか発見できていない。

1950（昭和25）年2月、大阪で『浄化』（日本新報社）が創刊され、下村澪子はこの雑誌の編集にもたずさわった。政治、経済、産業、防犯、伝染病対策、失業対策や青少年の教育問題などをひろく扱う誌面には、当時のカストリ雑誌などに横溢していた退廃的な雰囲気を一掃しようとする強い意志を感じる。大阪府知事をつとめた赤間文三はじめ、新村出や佐々木信綱、大谷智子らが執筆者として目次に名を連ねた。敗戦後のダンスホールは戦前に比べると風紀の乱れが顕著だった。業態の区別もあいまいになり、キャバレーのように飲酒のういで踊らせる店舗もあった。性の自由化により男女間のトラブルも頻発し、道徳的墮落や青少年への悪影響が問題視された。そのような風潮が、やがて下村澪子をダンス業界から遠ざけ、社会問題に対してより真摯に向き合う雑誌に近づけさせた可能性はある。

【資料の所在と留意点】

今回掲載する『ダンス時代』誌については、資料の所在確認や複写その他に関して、以下の個人、機関にひとかたならぬお世話になった。ここに謝意を表したい。

肥田皓三さん 西村貴久男さん 桃谷和則さん 尼崎市立歴史博物館 国立国会図書館

関西大学の元教授・肥田皓三先生には、今回の作業に関して深いご理解をいただき、成果の発表をたのしみにしているとお言葉をちょうだいした。それが作業の励みになった。前々号で復刻した『ダンサー』誌の目次の抜刷をご覧になり、そのなかにあられた人物についての情報を後日ご教示くださったのだが、そのお手紙が最後のものとなった。雑誌の収集整理や目次の復刻作業をふまえての研究成果を目にさせていただくことなく、肥田先生は2021年2月に逝去された。ここにご冥福をお祈りしたい。今回復刻の対象とした雑誌のなかには、かつて肥田先生がおもちだったものも含まれている。

雑誌の現物はいずれも個人蔵である。保存状態の悪いものもあり、修復が必要な号も少

なくない。誌面のデジタル化作業をしたうえで、いずれ公開したいと考えている。また、これまでの翻刻作業の際と同様、図版については転載や引用をせず、文章による説明にとどめた。発見できた冊子が比較的多く、目次の分量もあるため、この『ダンス時代』誌についても、記事の翻刻および広告の紹介は最小限にとどめる。

【編集者・出版社ほか書誌データ】

第1巻第1号〔定価25銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 三光社印刷所（大阪市此花区草開町32）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第2号〔定価25銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 三光社印刷所（大阪市此花区草開町32 電話 福嶋794番）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第3号〔定価25銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 ダンス時代社印刷部（大阪市此花区草開町32 電話 福嶋794番）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第4号〔定価35銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 ダンス時代社印刷部（大阪市此花区草開町32（三光社） 電話 福嶋794番）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第5号～第6号〔定価30銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 ダンス時代社印刷部（大阪市此花区草開町32（三光社） 電話 福嶋794番）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第7号～第8号〔定価30銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市東桜木町29）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第9号～第10号〔定価30銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第11号〔定価40銭／編集人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第1巻第12号 = 未発見

第2巻第1号〔定価35銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第2巻第2号～第3号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第2巻第4号〔定価40銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第2巻第5号～第8号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市別所村340）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2丁目）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414 電話 尼崎254番）

第2巻第9号～第10号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り1）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414）

※プラトン社の所在地が江戸堀南通り1になっているが、広告では2丁目のまま。

第2巻第11号〔定価40銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り1）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414）

第2巻第12号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り1）／発行所 ダンス時代社（尼崎市別所村414）

第3巻第1号〔定価40銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2）／発行所 ダンス時代社（神戸市葺合区坂口通5-1）

第3巻第2号〔定価35銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2）／発行所 ダンス時代社（神戸市葺合区坂口通5-1）

第3巻第3号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り2）／発行所 ダンス時代社（神戸市葺合区坂口通5-1）

第3巻第4号〔定価35銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通 9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り 2）／発行所 ダンス時代社（神戸市湊区都由乃町 1-4）

第3巻第5号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通 9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り 2）／発行所 ダンス時代社（神戸市湊区都由乃町 1-4）

第3巻第6号 = 未発見

第3巻第7号～第10号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村等正（尼崎市神田北通 9-238）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り 2）／発行所 ダンス時代社（神戸市湊区都由乃町 1-4） ※住所移転の告知があるが、奥付はそのまま。

第3巻第11号〔定価35銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市昭和通 1-23）／印刷所 プラトン社（大阪市西区江戸堀南通り 2）／発行所 ダンス時代社（尼崎市昭和通 1-23）

第3巻第12号～第4巻第3号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市昭和通 1-23）／印刷所 アサヤマ印刷所（大阪市港区石田呉服町 3-111）／発行所 ダンス時代社（尼崎市昭和通 1-23）

第4巻第4号～第4巻第6号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市難波新町 2-144）／印刷所 アサヤマ印刷所（大阪市港区石田呉服町 3-111）／発行所 ダンス時代社（尼崎市難波新町 2-144）

第4巻第7号～第4巻第?号 = 未発見

第5巻第1号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市難波新町 2-144）／印刷所 アサヤマ印刷所（大阪市港区石田呉服町 3-111）／発行所 ダンス時代社（尼崎市難波新町 2-144）

第5巻第2号～第5巻第3号 = 未発見

第5巻第4号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市難波新町 2-144）／印刷所 記載なし／発行所 ダンス時代社（尼崎市難波新町 2-144）

第5巻第5号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市難波新町 3-274）／印刷所 三光社印刷所（大阪市此花区草開町32）／発行所 ダンス時代社（尼崎市難波新町 3-274）

第5巻第6号～第5巻第?号 = 未発見

第6巻第1号〔定価30銭／編輯人兼印刷発行人 下村みを（尼崎市難波新町 3-274）／印刷所 中川三陽堂印刷所（奈良市北向町22）／発行所 ダンス時代社（尼崎市難波新町

3-274)

1932 (昭和7) 年

第1巻第1号＝創刊号 1932年10月号 (1932年9月19日印刷／9月20日発行)

目次では「第一号 昭和七年九月」と記載される

表紙 後列左ヨリ 桂みよ子〔みや子 カ〕、生田まり子、大村マキ、小西三四子、
 中段左ヨリ 九條壽美子、山中えみ子 美鈴愛子、奥原まさ子、
 前列左ヨリ 中村八重子 花村君子、小畑しげの、河野銀子
 グラフの頁 (一) 宝塚会館〔ムーランルーデユ ジャズバンド〕
 (二) ダンス・パレス〔の全景〕 (三) 吉田貞一氏〔の近影〕
 (四) 西宮ガーデン・ホール (五) 琵琶湖ダンス・ホール
 (六) 尼崎ダンス・ホール〔中屋敷岩夫氏〕
 (七) キングダンス・ホール〔全景〕 (八) 杭瀬ダンスホール
 (九) ダイヤ・クラブ〔近影〕〔姫野宏亮〕
 (十) 山本威雄氏〔の近影〕

巻頭言		1
ニュー・スケーターズ・ワルツ	エム・スチュワード著 キスミ・トシミツ解説	2
ダンス二題	大阪朝日新聞記者 白石凡	5
〔言葉のこぼれ		5〕
ダンスホールの照明	里見元秋	6
〔男と女		7〕
ホール同人歌集	中屋敷岩夫・下村滯子・谷口正夫・下村桃咲	8
従業員に望む十箇條	尼崎ホール経営者 中屋敷岩夫	10
私とダンスホールの因果関係	ダンスパレス代表 吉田貞一	12
ダンサーにもてるには		10
〔美容のこと		13〕
ダンスホール秋の触感〔触角〕		14
舞踏の文字		14
〔キャピトル支配人 西山氏		15〕
アイロンのかけ方	X・Y・Z	16
〔名士の知識		16〕
蒼白なステップ		18
マネヂャーの口上		22
チケツトの壺	南蛮生	19
〔大阪舞踏教師協会〕臨時エキジビションの概評〔評カ〕	黒頭巾	20
社交ダンスに就いて〔付いて〕	宝塚会館顧問 加藤兵次郎〔下村滯子筆記〕	23
祝創刊之辞〔創刊を祝ふの辞〕		24
〔レビュウ〕断然ダンス花まちまち〔くの時点〕	だん吉	28
和歌山城下にステップ踏んで	桑山裕	30

〔芸術的良心に鞭つて シンホニーの組織へ 尼崎ホールの川島氏	31]
かく語る人々	岸正治・吉桑英文 32
〔ダンサーの謳へる	32]
〔各地ホール街	32]
「夜話」上海の女	大阪日日新聞記者 水野正虹 36
全関西ダンスホール覗き歩く記〔のぞき歩く記(一)〕	下村澁子 38
祝創刊之辞	大阪舞踏教師協会長 山本威雄 41
写真の頁	〔ゲイヤ倶楽部〕アン・トニー 〔ソシヤル〕川崎きくゑ
パレスのムーランジュージュ 〔尼崎〕吉田愛子 〔パレス〕水岡君子	
〔キング〕廣田君代〔君子〕〔パレス〕花村欣子 〔尼崎〕菊池〔菊地〕るい子	
〔杭瀬〕東銀子 〔パレス〕里見勇子 〔琵琶湖〕伊藤よしゑ〔よし子〕	
〔キング〕岩田蝶子 〔パレス〕梅澤ジャズバンド	43~50
〔表紙の詩 パレスの花形ダンサー	51]
バビロンの詩集を抱いて〔故山岸貞子女史に贈る〕	杭瀬・ホール 谷本蘇牛 54
全関西ダンスホール現在形勢	本社調査 56
ゴシップメーカー〔の閑話〕	大阪日日新聞記者 岩佐忠朝 52
〔点滴	53]
女性の輪廓〔廓カ〕	下村澁子 57
「創作」貰つた名刺	下村桃咲 58
創刊を祝ふの辞	国際舞踏教授聯盟副会長 山口武雄 65
秋の美容室を訪れて〔堂ビル中山太陽堂クラブ美粧院〕	33
ダンスホールを讚へる	〔下村澁子〕 34
えんま帳	62
〔秋	すみ子 64]
〔祝創刊	画家 堀寅造 64]
ダンス界往来	65
原稿募集規定	66
編輯後記	66

【創刊号の解題および翻刻】

表紙は、ダンスホール「阪神会館ダンスパレス」の玄関ホールから2階にあがる階段部で撮影された12名のダンサーたちの写真で、ブルーグレーで印刷されている。全員が洋装、断髪だ。本文51ページにダンサーの名前が列挙されている。桂みよ子とあるのは桂宮子の誤りだろう。ほかに、生田まり子、大村マキ、小西三四子、九條壽美子、山中えみ子、美鈴愛子、奥原まさ子、中村八重子、花村君子、小畑しげの、河野銀子。桂宮子や九條壽美子、美鈴愛子、花村君子、河野銀子らは、いずれも当時のトップ・ダンサーである。標題「ダンス時代」の文字は丸ゴシックのフォントをベースにデザインされ金色がもちいられている。右に「拾月号」の、左に創刊号という表記がある。

創刊号の広告を以下に列記しておく。表紙裏は尼崎の洋品店、山本婦人洋装調進所のもので、ダンサーが身に着ける衣裳やアクセサリー一式を扱っていたらしい。以降、祝創刊の広告がつづく。ダンスホールやダンサーの写真の撮影にあたった吉田写真館（大阪市東成区森小路）、高級酒場のキャバレーフェビアン（京都市上京区烏丸鞍馬口）、目次をはさんで喫茶店の白薔薇（大阪市此花区福島）、カフェーのヤナギ（大阪市此花区下福島）。グラフのページのあとに本文がおかれ、本文中にも適宜広告が配されている。13ページには杭瀬ダンスホールのムーンライトダンシングオーケストラ（バンドマスターは平原正信）、15ページに合資会社キャピトル・ダンス・ホール（支配人の西山茂恭名義）、16ページに生駒ダンスホールの成田エンドシルバーフオックスジャズ・メンバー（成田七五三夫）がある。17ページに宝塚会館および同会館の教授部、26ページに花隈ダンスホール、27ページに大阪舞踏教師協会（本部は尼崎ダンスホール内）、31ページに尼崎ダンスホールの川島エンドヒズノービリテー・ボーイス、35ページはキングダンスホールのアオヤマス・ブルー・プロアース（青山定雄）、37ページに花隈ダンスホールの杉原泰藏のバンドとなる。当時の阪神間のホールの広告あるいはホール出演バンドの広告がほとんどで、創刊にあたってご祝儀的な資金提供を募っただろうことが推察される。写真のページをはさんで、その後、奥付までは以下のとおり。50ページにダンスパレスの梅澤ジャズ・バンド（梅澤清一）。51ページには尼崎ダンスホールの「フリー・タイム会」と称する同好会の広告、55ページにダンスパレスの教授部の広告がみられる。67ページには地元名士の名刺型広告で、尼崎市長の桜井忠剛、尼崎市会議長・原正巳、兵庫県会議員・田中源之助、弁護士・深川重義の名が並ぶ。桜井尼崎市長は、ダンス界にも理解があり、阪神間モダニズムを体現する存在であった。以後、国際舞踏教授聯盟、元木婦人洋服仕立部（尼崎市東難波）、小川（北新地）、福の家（尼崎ダンスホール横）、上金楽器店（大阪市西区京町堀通^{じょうきん}）、大阪社交ダンス研究会（尼崎ダンスホール別室）とつづく。裏表紙には、ダンス靴の販売で知られた島田靴店（神戸市下山手通）の広告がある。

翻刻 巻頭言〔著者不詳〕

碧空玲瓏として涼風新たに万物颯爽として健やかに伸びんとする時 茲に創刊するに至つた本誌は、生れるべきものが生れたゞけの話である。

顧みるにダンスホール設立認可のことあつて此方、ダンスの社会的浸潤は屢々デイナーナリストの報ずるところにして、大衆も亦双手を挙げて歓迎するところであつた。それにも拘らずホール其れ自体が一般に認識されるには今猶ほ各府県に依つて異つてあると言ふのが詐らざる今の実際である。

目下経済界は未曾有の不況に直面してある時、独りダンス界のみは超然として四方を睥睨しつゝ、大

空に其の旗幟を翻へしてゐる。然かも最近に於ける斯界の事實は内外共に活気横溢なるものがある。蓋し数県にわたり新設ダンスホールが営業を開始するに至つたことは明らかに一般社会意識を促進したものである。斯くてホールは級数的に発達してオール日本に展開して行くも亦近き将来に期待出来る。

ダンス全盛ホール万能、我々の心の奥に横〔た〕はる本統の希望、實際の欲求は真に此の二つの声に尽きる。

此の意味よりして輝かしい前途を眺めつゝ、所謂ダンス時代を作らんとするのが本誌の使命である。

翻刻 社交ダンスに就いて〔付いて〕 加藤兵次郎 〔下村濤子筆記〕

社交ダンスは、何処までも国際的でなければ偽だと思ひます、そしてそれによつて我々の社交性が助長され、対外人の接触が対人的 換言すれば社交的、交誼的にならなければならぬと信じます、

私が外国へ行つて痛切に感じましたことは、あちらのダンス教師と名のつく人が、皆立派な人格者であつて、一寸合つても如何にもゼントルマンライフの感じを受けることです、そして何処までも先生として、親しい仲に尊敬の念を起されられました、それに比べてまだまだ〔くの字点〕我国などでは、教師と肩書のつく人の洗練されてないことです、何かこうキザな所があつたり、妙な型にはまり切つたやうな感じを受けます、又中には随分人格をも云々されるやうな人があるやうですが、ダンス教師の向上はダンスの普及発達を量る上に於て最も重大な地位にあるものだと思ひます、

現今のやうに、社交ダンスが民衆に浸潤してきましたについて、益々教師は教師として立派な対面を作つてほしいものと、痛切に思ひます。

それからダンスホールなどでも何の区別もなく、通り一遍の同じ段階にあるものが、幾つも並べられてゐるやうなのですが、これなどを上中下の差別をつけてやつたならば、理想的だと思ひます、私は強いて欧米あたりの風習をまねよとは云ひませんがあちらなどでは、明らかに、ハイクラス、ロウクラスその中間といふ風に、きちんと区別されてゐますので、たとへどんな下級の労働者にせよ、そのまゝの服装で、ダンスホールで愉快地踊ることが出来ます、勿論チケット制度はロウクラスのホールで行はれてゐる方法であります、その他に家族連れで行つて、踊るホールも大分あります。

こうしてこそ本当に社交ダンスが普及発達され、誰彼のへだでもなく、皆その快い心境に陶醉出来るものと思ひます、だから現在の日本のやうに、まだ社会に理解されないといふ一部の嘆声をきくやうなこともありません、何と云つても我国では、相当の余裕のある人たちの遊び場位にしか、思はれてゐませんがよくロウクラスのダンスホールが出現して、不〔下カ〕層階級の人たちが、ドシドシ〔くの字点〕ダンスを踊つて、之をエンジョイ出来るやうになることを切望する次第であります、

私が抑々ダンサーといふものを作りましたのは、今から十年前のことです、大阪の南のコツテージといふホールに、三人のダンサーと名のつくものを作つたのが、始まりです、そしてこのダンスといふものを、発達させるには先づ何といつても、花柳界から種を蒔かなくてはと、可成苦心もしたのですが、幸ひ今日の進展をみることは、今から往時を考へてみても、誠に嬉しい気が致します

翻刻 編輯後記

■創刊号はきつと素的なものでせうから次号に出させて頂きます、なんてとんだ尊敬を払はれたことは全く恐縮する、それで先づ御意向通りと言ふことにして可成いゝものが次号に廻されたことを申上げておきたい

■記事や写真を編輯部の方へ廻すまでには随分骨を折つた、この際此方の言ひたいことは至極公平な立場を守り、凡ゆる方面のものを載せる希望でどれだけ苦心したかわからないと言ふことだ

■こちらから幾度頼んでも、ちつとも写真も記事も出そうとしない人に限つて変な不平を言ひたがつたり、又言つたり、するがそれらの人の言ふことが正しいかどうか、力めてこちらは誌面をさいて載せるだけの度量をもつてゐるから、平気で投書してほしい、但し住所姓名をはつきりして貰ひたい、誌上の諸名は厳守するから (滯子)

■時日がなかつた事が禍ひして、可成多忙の間に創刊したので色々と編輯上手に手違ひが生じ自分としては満足する処までゆかなかつたけれども、先づやすやす〔くの字点〕安産した訳である

■狐〔呱カ〕々の声を上げた此の子が第一に御礼申上げる事は各ホールの熱烈なる調印を得た事である、それと同時に特に本誌のために筆を寄せて下さつた喜須海、白石、岩佐 水野、里見の諸氏に感謝の意を表する次第である、今のところ孤軍奮闘なので諸君の鞭撻を待つ訳であるが、さし当り原稿や写真を早く送つて貰ふことが一番嬉しい

■記事の一行に亘る効能書きは本誌を見て呉れる方々がちやんと知つて呉れるのだから何にも言はない

■素晴らしい前景の中にも生れたのだから、相当の反映が現はれるだろうと思ふが、それらの記事等も理由がある限り勉めてこちらでは便宜を与へるからどンドン〔くの字点〕編輯部宛送つて貰ひたい、次号からは投稿欄をもうけるから諸君の不平不満が此処で爆発する訳だ、少しも遠慮などしなくともいい、諸君が勝手な熱をあげてくれたらいいのだ (桃咲)

第1巻第2号=第二号・十一月号 1932年10月 (1932年10月19日印刷/11月20日発行)

表紙 ビクター・シルベスター

写真の頁 エキジビジョン第一日出場者 宝塚会館 ダイヤクラブのムーランルージュ
ソシヤルダンスホール キングダンスホール ダンスパレス 中西尚一〔当一〕
浦上六郎 大阪舞踏教師協会

ナンバーワン集 河野銀子 宇根政子 吉田廸子 吉岡操 佐々木君子 吉田あい子 青木君子
美鈴愛子 崎山うた子 花村君子

普通写真 濱ハナ子〔はな子〕(20) キングダンスホール (21) 喜須海利充 (30)
川田光子 (31) 岩佐ふさゑ (40) 吉桑英文 (41) 大本賢策 (50)
アマチュウア出場者 (53) 西山幾太郎 (54)

巻頭の詩〔ダイヤ・ライト〕	1
社交ダンスに関する文献〔邦文の部 其一〕	村岡 貞 2
ダンスプロムナード	桑山 裕 18
真夜中の全景	杉浦 勝 11
上海のダンサーとダンスホール	水野正虹 13
ダンスホールの香ひ	扇田きよ 16
ダンス一家言	國枝史郎 10
凡そダンスを知らない方に〔話しをするには骨が折れるデス〕	11
関西ダンスホール印象記	徳田秋聲〔文責 渡邊〕 22
杭瀬ホールは何処へゆく〔行く〕	本社記者 6
美容の知識	今泉花子 24
ダンスの魅力	ダンサーC子 25
ダンスは私の天職	吉田愛子 26
各地ホール街	24
京都舞踏研究所の窓から	内田雅勝 28

社交ダンスの上達する秘訣	石井 勇	29
〔ダンサー識別法	T・S生	31〕
全関西ダンスホール覗き歩く記〔のぞき歩く記〕(二)	下村滯子	32
益々盛んになる乗馬熱	KO生	55
〔尼崎ホールのビクターレコードコンサートの夕		37〕
踊り子を襲ふ現滅悲哀	本社記者	38
えんま帳 琵琶湖ホール (46) 生駒ホール (46) キングホール (46) パレス (47)		
尼崎ホール (47) ソシアル (49) ダイヤクラブ (49) キヤピトル (49)		
花隈ホール (49) ガーデンホール (49) 西宮クラブ (50) 清和会館 (50)		
短歌	〔選者 桃咲〕	45
今秋のモダン・ワルツ	キスミ・トシミツ	42
〔短歌	岸本武彦	50〕
〔本社主催〕 関西公認ホール専属教師模範ダンス大会短評	黒頭巾	51
〔川柳カ	宇根政子	54〕
吾輩の理想的ダンスホール覚書	岸本武彦	55
拾一月のダンスレコード		53
俳句		58
ダンス界往来		59
編輯後記		60

第1巻第3号=第三号・十二月号 1932年11月 (1932年11月19日印刷/12月20日発行)

表紙	ダンスドローラー	
写真の頁	宝塚会館 ダンスパレス〔よ!〕〔新舞踊〕イバラキヤンナイト〔新町茨木屋〕 〔最新開館の〕琵琶湖ホール 全 高木源三郎 森本豊司 琵琶湖ホールバンド 大鹿實 永井登茂子 藤田とし子 濱ハナ子 山移亮子 藤原ルリ子 吉田あい子 高田あさ子 山中姉妹〔笑子・八重子〕 岩佐ふさゑ 春日麗子 小林春子 原ふみゑ 植田三郎〔氏〕小林春子〔嬢〕 キングホール ダイヤクラブ	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献(二)〔邦文の部 其二〕	村岡 貞	2
〔行状記〕ダンサーの変わり種	水野正虹	6
社交ダンスの上達する秘訣〔訣 カ〕(二)	石井 勇	8
或る日の日記	ダンサーQ子	9
クリスマス〔XMAS〕の話	ダンサーH子	10
ダンスをやめる理由〔ダンスをやめぬ理由〕	S・S・S	12
舞踏触感	濱 花子	15
ダンスの唄	森ひでを	15
各地ホール街		12
踊り子の光彩ある絶望	本社記者	16
関西ダンスホールのぞき歩く記(三)	下村滯子	18
〔ダンスパレスを謳つて		20〕
社交ダンスの理論と踊り方	ビクター・シルベスター著・キスミトシミツ訳	23
ウオークに就いて	大鹿 實	24

エールブルース	森木豊司	25
シーズ〔ツ〕ンス・モダンワルツ	キスミトシMIT	28
創作 タゞちやんの愛	荘司シゲキ	32
〔返らぬ夢	よし子	37〕
教授聯盟秋のエキジビション〔概評〕	黒頭巾	38
〔競馬〕レースを真のスポーツ化せよ	岡竹浩堂	40
〔第一回全国アマチュアダンス競技大会		40〕
〔花隈ホールダンサー純益金満洲派遣軍へ		41〕
〔ピクチャー視聴会		41〕
ダンス春秋		41
えんま帳 生駒ホール (42) パレス (42) キングホール (42) 尼崎ホール (42)		
西宮倶楽部 (43) ソシアル (43) ダイヤ倶楽部 (43) キヤピトル (43)		
琵琶湖ホール (43) ガーデンホール (43) 京都舞蹈研究所 (43)		
拾貳月のダンスレコード		44
ダンス界住〔往〕来		45
編輯後記		46
〔大阪舞蹈教師協会 宣言		47〕

1933 (昭和8) 年

第1巻第4号=第四号・新年増大号 1932年12月 (1932年12月19日印刷/1933年1月20日発行) ※ 附録「社交ダンスの理論と踊り方」=未発見

表紙 ビュウテイ・パリー

写真の頁 美鈴愛子 小林春子 向谷玉枝 岩田蝶子 宇根政子 伊藤よし子 浅路欣也 篠原洋子
 佐々木君子 岩佐ふさゑ 澤井浪子 河野銀子 坪田道子 吉田あい子 竹田小夜子
 横山君子 花村君子 花村欣子 森口平枝 佐藤うら子 川田光子 八木テル子 飛鳥明子
 菊川愛子 吉田照子 篠原露子 満壽水葉子 青柳京子 吉田廸子
 キングホールダンサー (その一) キングホールダンサー (その二)
 キングホールダンサー (その三) キングホールダンサー (その四)
 〔キングホールの三名花〕吉川益江 金子好恵 瀬尾弘子
 島田威光〔神戸東検〕小蝶〔神戸東検〕まんこ 銀座ホールダンサー 大市乙女ダンス
 〔イバラキヤンナイト 大西席〕庄喜代
 〔イバラキヤ、キヤパレー 日本タンゴ 大西席〕庄喜代 小石

巻頭の詩〔光〕	下村等正訳詩	1
ダンス無駄話	國枝史郎	2
社交ダンスに関する文献 (三)〔邦文の部 其三〕	村岡 貞	4
ダンサー読むべし〔お客読むべからず〕		6
〔尼崎ダンスホールの日東レコード新譜発表〕		9〕
協会秋のエキジビション	恒 志	10
代表を辞するに際して	西垣良之助	13

各地ホール街	13
年頭偶感	吉田貞一 14
コクドー・ブルース	縷手馬禮 15
〔俳句	15・31・41〕
モダンデクシヨナリー	16
一九三二年の関西ダンス界の動き	中屋敷岩夫 17
一九三三年は刺戟時代	前田俊三 18
関西ダンスホール寸感	ブラツク・カイト〔述〕〔鈴木一二訳〕 19
松竹キネマの〔オールトーキー〕忠臣蔵	20
プロンドビーナス	21
〔全日本社交ダンスアマチュア競技大会	21〕
リズムとタイム	〔日本レコード取締役〕細川悟的 22
顔見世の印象〔顔見せの印象〕	三谷誠亮 25
関西ダンスホールのぞき歩る記(四)	下村濤子 26
〔新春の豪華版 東亜会館	32〕
〔満洲行のダンサー	33〕
ボストン・ワルツ	大鹿 實 34
初心者への心得抜粹	谷口正夫 36
ぜ シーズンス・スローフオックス・トロット	〔ビクター・シルベスター〕キスミ トシミツ 38
大連会館一九三三年の陣	42
正月のダンスレコード	43
トロイス・アンネス	田添 一 44
〔短歌	45〕
再会	村上貞雄〔芳雄〕 48
〔昭和八年度〕モダン占ひ	48
〔創作〕タキシーダンサー	荘司シゲキ 50
〔年頭の御挨拶	吉岡 操 53〕
舞踏場の床下	下村桃咲 54
大連のダンス界	X・Y・Z生 62
えんま帳	61
編輯後記	65
写真の頁	山本威雄 吉田貞一 中屋敷岩夫 喜須海利充〔吉桑英文〕高木源二郎 〔ミスター・〕ミツチエル〔の独唱〕大鹿實 北村勝 姫野宏亮 青柳武男 内田雅勝 角孝之 高橋實三 尼崎ホール教授部〔ノ陣容〕 キングホール従業員その一 全 その二 大阪舞踏教師協会 大連会館 ダイヤ倶楽部 タイラ〔ジャズ〕バンド〔アツコーデオンバンド〕尼崎ホールAバンド 〔川島エンドヒズノバリテーボーイス〕尼崎ホールBバンド 多田勝 花隅〔花隈ダンス〕ホール 梅澤パレスバンド タンゴバンド 和泉橋舞踏場〔東京〕フロリダ〔ダンスホール〕の雑踏 細井悟的〔細井氏の活躍〕 ダンスパレス〔の匂やかな夕景〕

第1巻第5号=第五号・貳月号 1933年1月 (1933年1月19日印刷／2月20日発行)

写真の頁	松浦フク子 原田雅子 吉田あい子 鎌谷ユキ子 高木源二郎 琵琶湖ホール〔の電気照明設備〕 尼崎ホール〔の陣容〕 中西尚一〔氏〕 角谷秀雄〔氏〕 〔廣田君代〕 花園桃枝 千草みどり 福山恵美子 荒木マヤ子 佐藤うら子 小堀ヒナ 宇根政子 菊川愛子 ダイヤ倶楽部〔の陣容〕 高橋實三 トニー〔アントニー〕 藤井正雄〔氏〕 富井新太郎〔氏〕〔京都〕 舞踏研究所〔のレッスン場〕 パレスパーティ〔規定〕	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献 (四)〔邦文の部 其四〕		村岡 貞 2
1933年に望む〔我等のダンス人へ〕		齋藤人兆 6
毒婦解		月居驪川 8
徳島のダンス研究所		Q・S生 9
〔まんだん〕タイムとリズム		細井悟的 10
各地ホール街		10
ダンサー生活うら表		吉田あい子 12
大阪舞踏教師協会の総会		14
ダンス時代社落書		黙山人 15
関西ダンスホール視き歩る記〔(五)〕		下村澪子 16
大連会館のエキジビション		21
シーズンス・クキック・ステツプ		岡本邦嗣 22
ゼ・シーズンス・タンゴ	〔ビクター シルベスター著〕キスミ・トシミツ〔訳〕	25
〔大連往来〕		29
ダンサーと天理教		岡村はるみ 30
ダンスOK		35
第二回全日本社交ダンスアマチュア―〔選手権競技大会〕		36
〔天草佳子 (銀座) 廣元信子 (ユニオン)〕		37
日本舞踏教師協会エキジビション概評		恒 志 38
二月のダンスレコード		39
えんま帳		40
よろず鏡		41
ボールルーム・セクション		45
編輯後記		46

第1巻第6号=第六号・三月号 1933年2月 (1933年2月19日印刷／3月20日発行)

表紙	美鈴愛子	
写真の頁	吉田愛子〔あい子〕〔「春雨」を踊る〕 岩田蝶子 浅路欣也 久保西美恵子 竹田小夜子 福本俊子 河野銀子 飛鳥明子 松下洋子〔松下年子〕 花村欣子 小林春子 上田愛子 八木テル子 篠原露子 北村ナツ子 谷口正夫〔氏〕 平林春一〔氏〕 内田雅勝〔氏〕 琵琶湖ホール〔の歌〕 高木源二郎〔氏〕 ダンスパレス〔の稲荷神社〕 吉田貞一〔氏〕 西宮ダンスホール〔楽部〕 N・S・S倶楽部 ダイヤ倶楽部 宝塚最〔会カ〕 館タンゴバンド〔リオ・グランド タンゴ・オーケストラ〕 徳島ダンスホール	

ニットレコード 恋慕哀歌 を踊る小林春子 向谷玉枝 岩佐ふさえ 川崎きくゑ〔菊枝〕
横山君子

巻頭の画	鳥海青兒〔画〕	1
社交ダンスに関する文献(五)〔邦文の部 其五〕	村岡 貞	2
シヤムに於ける劇と音楽	アダリン・スターリング著 キヨセ・ユキノブ訳	6
ダンス与太話〔玉置眞吉と語るの記〕	國枝史郎	10
〔これは東京の話〕 早慶戦を作った武坊	水野正虹	12
〔まんだん〕 タイムとリズム	細井悟的	14
社交ダンスは亭主の操縦法	谷口正夫	16
ルンバ雑感	宮本 榮	17
各地ホール街		12
ダンス靴問答	島田靴店主	16
社交ダンスを教へる人々と習ふ人々へ	齋藤人兆	18
京都研究所覗き〔のぞき〕 歩る記	下村澪子	20
三月のダンスレコード		25
〔満洲国新京(長春) 新京会館		25〕
社交ダンスとタップ	中村 滋	26
教師協会〔教師会〕 雑報		27
ゼ・ボール・ルーム・ルンバ	ビクター シルベスター著 キスミ・トシミツ訳	28
創作三篇		
早春の序幕	下村澪子	33
のびやかな或る風景	安井早助	25
ダンサー対哲人	下村桃咲	38
全関西〔ダンスホール 研究所〕 主任教師〔聯合〕 模範舞踏大会寸評	本社記者	41
えんま帳 生駒ホール 宝塚会館 ダンスバレス〔キングホール〕 尼崎ホール 西宮倶楽部		
〔ガーデンホール〕 琵琶湖ホール ダイヤ倶楽部 花隈ホール ソシアルホール		
別府ホール〔別府ホテル〕 徳島〔ダンス〕ホール		45
編輯後記		46

第1巻第7号=第六号・四月〔特輯〕号 1933年3月(1933年3月19日印刷)／4月20日発行)

表紙 藤田敏子

写真の頁 美鈴愛子 吉田あい子 木村喜代 山中えみ子・山中八重子 左海須美子 加島きみえ
古高雪枝 加藤菊恵 浅路欣也 尼崎ホール〔ジャズ〕バンド〔の陣容〕
服部良一〔氏〕 川島良夫〔氏〕 宝塚バンド〔リオ、グランド タンゴ、オーケストラ〕
京都ダンス協会〔岡村行泰氏 播本格一氏〕 琵琶湖ホール〔のエキジビション〕
森木豊司〔氏〕 鶴田浩一〔氏〕
尼崎ホール教師〔日米ダンスホールに於けるデモ後〕
教師会員の東上〔東上の大阪社交舞踏教師会員及見送人〕
〔大阪社交舞踏教師会〕 山本会長の国民新聞社訪問 パレスパーティ〔規定〕

巻頭言		1
ダンス与太話(二)〔玉置眞吉と語るの記〕	國枝史郎	2
社交ダンスに関する文献(六)〔邦文の部 其六〕	村岡 貞	5

シヤムに於ける劇と音楽 (二)	[アドリン・スターリンク著] キヨセ・ユキノフ [訳]	10
社交ダンスを教へる人々と習ふ人々へ (二)	齋藤人兆	12
ヘソからヨーヨーぶらさげて	細井悟的	14
各地ホール街		14
若者よ! 聞いて呉れ	里見 浩	16
東京の歓楽街 [新宿にも涙あり]	水野正虹	18
[川柳		18]
四月のダンスレコード		18
ダンス抒情 (一)	播本格一	21
[ニュー・ファツション ショー・公開		21]
花形ダンサーオンパレード		22
[ダンス小唄] 恋のひとゝき	森ひでを	27
大阪舞踏教師会員の東上		28
宝塚会館のジャズバンド披露 全日本社交舞踏教師聯盟第一回デモンストレーション出演者名簿		
東京・横浜社交舞踏教師会員の来阪 西宮音頭の発表		44
舞踏場規則に就て	吉桑英文	29
東京松竹少女歌劇双曲線	紅二麻久	30
[洋装のレヴュー		31]
ゼ ボール・ルーム・ルムバ (二)	[ビクター シルベスター著] キスミ・トシミツ [訳]	32
輝く望み	井川博光	35
舞踏論	澤村雅昭	35
タンゴのヴァレイション及び [び] フレイジングの研究	岩橋 進	36
杭瀬ホールの春ひらく		42
ダンサーの友情物語		42
ホット・ケーキ・ダンス		43
[東都舞踏界		43]
教授聯盟のエキジビション概評	本社記者	39
えんま帳 宝塚会館 ソシアルホール 花隈ホール ダイヤ倶楽部 西宮ホール		
ガーデンホール 尼崎ホール キングホール パレス 杭瀬ホール 琵琶湖ホール		
清和会館 京都方面 徳島ホール 別府ホール		45
編輯後記		49

第1巻第8号=五月号 1933年4月 (1933年4月19日印刷/5月20日発行)

表紙	河野銀子	
写真の頁	尼崎ホール春のおどり キングホール ダンス・パレス 桂宮子 小林春子 佐々木君子 飛鳥明子・花村欣子 金子好恵・越山華子 里見勇子・村田静子 望月きよ子・藤原千代子 白濱節子 [笑子]・内田節子 植田三郎 [氏]・竹田小夜子 谷口正夫 [氏] 橋田緑郎 [氏] ソーシアル [ホール]・ジャズバンド 石橋政次郎 ダイヤクラブ [教授部の三新進] ダンス・タイガー [教授部の陣容] 清和クラブ [清和倶楽部教授部] 甲子園 [ホテルに於ける] 歓迎会	
巻頭言		1

社交ダンスに関する文献（八〔七カ〕）〔邦文の部 其七〕	村岡 貞	2
廻転運動に於ける Ball と Hell〔Heelカ〕に就て	宇佐見憲雄	7
〔岐阜市にホール許可？		7〕
社交舞踏論（二）	澤村雅昭	8
パブロワ夫人の秘訣		
〔ダンドレ・パブロワ氏 アンドレ・オリベロフ氏談〕キョセ・ユキノフ〔抄訳〕		10
踊りの国—ロシア	ソヴイェト・ロシア四美術社会員 小西謙三	13
感想を問はれて	武田麟太郎	15
各地ホール街		15
思ふまゝ	吉田愛子	16
五月と舞踏場散歩	木村 英	18
僕とダンスとキネマ	安田日出男	19
小西謙三画伯素顔評	紅二麻久	21
漫談『私のダンスは？』	細井悟的	22
五月のダンスレコード		24
〔関西のダンス界〕思ひ出す事ども	國枝史郎	26
花形ダンサーオンパレード		28
タンゴを踊られる方に理論を捧ぐ	岩橋 進	32
Blues new Variation	森木豊司	35
鳥取ふろーりだ・ダンス研究所		37
えんま帳 花隈ホール ダイヤ倶楽部 ソシアルホール 西宮ホール ガーデンホール		
尼崎ホール パレス キングホール ダンス・タイガ〔一〕 生駒ホール		
清和倶楽部 京都方面		38
編輯後記		42

第1巻第9号＝六月号 1933年5月（1933年5月19日印刷／6月20日発行）

表紙 吉田あい子		
写真の頁 加藤菊恵 村田静子 木村喜代子 古賀イツ子 藤井スエ子 淡野久美子		
港智佐子 秋本富士枝 宮邊明子 佐藤うら子 濱口清子		
〔尼崎ホールに於ける「巴里祭」の夜〕谷口正夫〔氏 竹田小夜子嬢〕		
琵琶湖ホール 森木豊司〔バンドマスター〕竹本豊次〔氏〕 尼崎ホール		
〔ガーデンホールジャズバンド〕前野港造〔氏〕 吉田貞一〔氏〕		
パレスパーティ〔規定〕 石橋政次郎〔氏〕		
〔徳島ホール経営者〕阿部浪三郎〔氏〕 正木静夫〔氏〕		
関西アマチュワソシアル〔ダンス〕クラブ〔倶楽部〕		
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献（八）〔邦文の部 其八〕	村岡 貞	2
〔ダンス・タイガ―開く		6〕
社交舞踏論（三）	澤村雅昭	7
パブロワの秘訣		
〔ダンドレ・パブロワ氏 アンドレ・オリベロフ氏談〕キョセ・ユキノフ〔抄訳〕		8
関西のダンス界 思ひ出すことゝも（二）	國枝史郎〔画 堀寅造〕	10

社交ダンス漫筆	鳥海青児	12
新緑ボール・ルーム風景	木村 英	18
〔社交ダンスに〕是非必要な音楽の知識	服部良一	15
各地ホール街		15
レコードのタイム	宇佐美憲雄	18
流行について	下村澪子	19
ダンスホールの社会的〔社会的〕使命		
〔ジャパン・アドヴァタイザー新聞社大阪支局長〕	藤田九臈	20
ダンスは形式にとらわれないで	吉田貞一	22
元ダイヤクラブの三浦ヨシ子の死	水野正虹	22
徳島ホール開場に就て	阿部浪三郎	25
川畑文子〔サン〕と語る	澤村雅昭	26
俳句	徳田秋聲	27
花形ダンサーオンパレード (三)		29
誤れる左手のホールド	岩橋 進	32
ゼスキベルターン	谷口正夫	33
ボール・ルーム・ノーツ	岡本邦嗣〔抄訳〕	35
六月のダンスレコード		35
夜会服作法	前田三郎	36
ダンス・競技会		13
本社主催ソサエター〔ソサエター〕		18
〔本誌〕女子会員募集		19
ダンス教師出張		31
五大都市対抗選手権大会		28
えんま帳 尼崎ホール キングホール パレス 琵琶湖ホール ガーデンホール 西宮ホール キャピトル 花隈ホール ダイヤ俱樂部 徳島ホール 別府ホール 京都方面 東京方面 地方のこと		38
編輯後記		41

翻刻 社交ダンスに是非必要な音楽の知識 服部良一

社交ダンスといふものは、一には音楽をきき、二に音楽につれて歩くといふ、この二つが要素であると思ひます。然るに近頃は踊り方の理論とか、フィギヤとかいふことがやかましくなつて来て、無暗にステップの事ばかり考へて、一位に考へるべき音楽を聴くといふことを、忘れてゐる人が、非常に多くはないかと思ひます。それでは真に社交ダンスを踊るとは云へないでせう。だから少なくともダンスをする人は、音楽に対して、専門〔ママ〕的の知識の必要はなくとも多少の常識は、是非心掛けて頂きたいと存じます。

誰でもまづダンスを始めやうとする場合、ダンス教師に引つぱつて貰ふのは当然のことですが、それと同時に音楽を聴くことも学ぶ必要があります。だからダンス教師の立場としては、又その方々に言論して貰ふことにして、自分はたゞ一演奏者としての立場から、一番解り易い方法で、社交ダンスに関する音楽のみをお話したいと思ひます

音楽の拍子を数学的に誤解するな。

よく二分の二拍子とか、四分の四拍子とかいふ表紙のことを数学上の分数と間違へて、居られる方

がある様に思ひます。

例へばフォックストロットが二分の二拍子といふことがあります、之を決して四分の四拍子といふことに考へてはなりません。何故なら拍子といふものは、数学的にあみ出したものではなく、所謂この分数の分母は音符の分量の種類を意味してゐて、分子はその数を意味してゐるだけです。ですから若しフォックストロットの二分の二拍子の場合、一小節内に二分音符が二つあるといふのです。八分の六の場合には、八分音符が六つあるといふことになります。だから若し之を分数的に考へて、二分の二を四分の四と同じやうに考へれば、四分音符が四つの数になるから、従つてアクセントのつけ方が違つて来ます、然し音符の分量や数は、社交ダンスが盛んになつた現代では、演奏者の演奏の仕方、どんなにでも変更出来ることですから、ダンスを踊る場合、フォックストロットは、二分の二拍子だとはつきり定めてしまふことは大変いけません。若しお疑ひになるならば、四分の二のフォックストロットや、八分の二のフォックストロットを御紹介してもいいと思ひます

大変面倒なことに立入つたやうですが、要はアクセントを聞いて頂きたいのです。皆さんは音楽家ではないのですから、音楽を聴いた場合、音符が頭に浮ぶといふことはありませんでせう。ですから一番いいことは、手拍子です。先づ手拍子を打つて、アクセントのついた部分を知つて、その曲の何拍子かを知る方法です。然し何分の何拍子といふやうなことを全然考へないで。

アクセントのこと（聴き方）

皆さんがダンスを踊つて居られる時、恐らくワルツとフォックストロットの音楽を間違へることはないでせう。それはつまりアクセントの相違です。このアクセントをきこうと思へば、レコードの場合でも、バンドが演奏されてゐる時でも、歌詞やメロデー（フシ）を聴かずに、伴奏の部分（楽器で云へば、ピアノ、バンジヨウ、バス、ドラムのリズム）をよくおき、なれば、アクセントがはつきり分ると思ひます。

ワルツとトロット

ワルツの時には、必ず一だけが強く、二、三と比較的弱くひゞいてゐるでせう。又フォックストロットの時には、一二、一二と、一は二よりも少し強くひゞいてゐるでせう。総てのダンスミュージックは、この一二三や一二、一二を繰返し繰返し〔くの字点〕してゐるだけで、面白いメロデーをのせて、進展して行くのであります。

ブルースとスローフォックストロット

ブルースもスローフォックストロットも、一二三四と四つのアクセントを以つて数へられます。アクセントの強さに双方異つた所があります。ブルースは音楽をきいて受ける感じから表現する踊りであつて、一概にのろいテンポのものばかりではありません。だからスローフォックストロットのやうに、テンポをはつきりと表示したのろいフォックストロットとは、全然意味の異つてゐるものであります。試みに演奏者の楽譜をみても、ブルースと書いてあつて、速度を想はず〔ママ〕に、Slow-Fox-TrotとかFox-Trotとかslowlyとかnot too fastとか書いてあるだけで演奏者に決定的な速度を要求してはみません。つまり音楽から受ける匂ひ、音楽のエクスペッションの相違であります。ですから若し皆さんが、此等をき、分ける際に、ブルースの場合は大体には、ファンシーがかゝつた剽軽がかゝつたメロデーで、然もスローフォックストロットよりは、四つのアクセントの中、二と四がはつきりと聴き取れることが出来ます。反対にスローフォックストロットは、全体に滑らかな感じを与えるべく演奏されますから、ブルースのやうに、二と四のやうな、アクセントはなく、四つ平均したアクセントが聴くことが出来ます。

スローフォックストロットとフォックストロットは、云ふまでもなく前者は、一と、二と、つまり四つに数へ、後者は、一二、一二と数へます。（次号はタンゴについて）

翻刻 俳句 徳田秋聲

徳田秋聲氏がダンスを習ひ初〔ママ〕めたのは我がダンス界の草分け時代からの事であつて氏も亦我が
 舞踏界の恩人である事は言を俟たない。写真〔略〕は氏が全関西のダンスホールをめぐつた時に撮
 影したものである。句は本社の為に特に送られたものである

梅雨ばれの
 草ふめば
 草いきれ哉
 秋聲

第1巻第10号＝七月号 1933年6月 (1933年6月19日印刷／7月20日発行)

表紙 若葉さち子

写真の頁 美鈴愛子 小林春子 河野銀子 武本直美〔河部千代〕園部スマ子〔園川須磨子〕
 坪田道子 吉田あい子 花隈ホール〔正木静夫 加藤菊恵 村田静子〕森口平榮
 眺みさ子〔瀧野君子〕〔若林綾子〕高田富士子 北村なつ子〔ナツ子〕
 〔尼崎ダンスホールジャズバンド〕〔ウエン〕コールマンジャズ
 〔ダンス〕タイガージャズ〔バンドの陣容〕ダンスタイガー
 パレスパーティ〔規定〕〔大連会館〕玉置義一〔花隈ホール〕奥田敏雄
 〔大阪洋楽趣味会〕澤村雅昭〔関門社交舞踏研究所〕津田福子

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献(九)〔邦文の部 其九〕	村岡 貞 2
Theory and Technique of crush Dancing〔by Victor Silvester〕	6
舞踏表現	伊藤敏雄 10
社交舞踏論(四)	澤村雅昭 12
ダンス若返り法	13
初夏・女・私	下村澯子 14
ドレスの正しい選び方	前田三郎 16
大阪を繞るダンス昔噺	水野正虹 18
各地ホール街	18
ガールのプロヒール〔プロフキル〕	藤村美加古 19
ダンス抒情	播本格一 21
東京ダンスホール廻り歩る記〔(一)〕	本社記者 22
〔誌上講座〕The Slow Fox-Trot	キスミ・トシミツ 26
基本ヒイガスに対する疑問と其他に関して	岩橋 進 28
漫画ダンスホール三景	鳥谷白楓〔画〕 31
パソ・ダブル〔by Maxell Stewart〕	森木豊司〔訳〕 33
タンゴオープンプロムナード〔バリエイション〕	谷口正雄 35
教師資格認定試験問題について	植田三郎 36
えんま帳 宝塚会館 タイガー パレス 尼崎〔ホール〕 キング〔ホール〕 西宮〔ホール〕 ガーデン〔ホール〕 琵琶湖〔ホール〕 花隈〔ホール〕 ソシアル〔ホール〕 ダイヤ〔倶楽部〕 生駒〔ホール〕 京都方面〔目次に立項の清和は記述なし〕	38
編輯後記	41

第1巻第11号＝八月号 1933年7月（1933年7月19日印刷／8月20日発行）

表紙	ダンス・パレス 中村榮子	
挿絵	ダンス・パレス 河野銀子	
写真の頁	若葉さち子 岩田蝶子 小林春子 吉田愛子〔あい子〕 山中笑子・山中八重子 伊藤よし子 久保西美恵子 花村欣子 湊智佐子 荒木摩耶子 十倉たつ子 藤田敏子・佐々木君子 加藤菊恵 飛田みさを・伏見稲子 雪井〔雲井〕正子 キングホール・ダンサー一同（四頁） 尼崎ホールダンサー（四頁） 〔大阪京都両社交舞踏教師会の双璧〕 森木豊司 谷口正夫 〔合資会社〕 キヤピトルホール〔キヤピトル舞踏場〕・ダイヤ倶楽部 尼崎〔ダンス〕ホール〔中屋敷岩夫〕琵琶湖〔ダンス〕ホール 西宮ホール・ダンスタイガー ダンスタイガー教授部 吉桑英文 喜須海利充 内田雅勝・和気光男 北村勝・二神一武 植田三郎 正林壽夫・和田芳雄 正木静夫・花隈ホールサービス係 パレスパーティ〔規定〕	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献（拾）〔邦文の部（其拾）〕		村岡 貞 2
ボール〔・〕ルームに於ける美	A・Tエドガード〔エドガー〕述	パレス教授部訳 6
寸劇二題		みつめめ 9
各地ホール街		10
夏に思ふ		中村榮子 10
よろづお客百態		吉桑英文 12
八月のダンスレコード		14
新刊紹介〔森氏の新著「たんご」を読む〕		15
〔ダンス音楽について		15〕
〔尼崎ホール創業七週年記念		17〕
クラツシユ〔・〕ダンス		尼崎ホール教授部〔訳〕 20
〔京都にダンス・ホール設立許可		24〕
Theoriy and Technique of crush Dancing〔by Victor Silvester〕		尼崎ホール教授部訳 25
ワルツのバリエイション〔バリエーション〕		〔ビクターシルベスター七月発表〕 岡本邦嗣訳 25
シーズンスバリエイション〔by Elenor Candler〕		森木豊司訳 26
モダンブルースのバリエイション〔バリエーション〕		宇佐美憲雄 28
モダン・ブルースの一部		谷口正夫 30
ゼ・スロー・フオックストロット〔(二)〕		キスミ・トシミツ 32
〔帝都座のタンゴバンド来阪		34〕
フオックス・トロットのニューバリエイション〔バリエーション〕		井上正一 35
〔大阪社交舞踏教師会定款		36〕
会員へのメツセージ		山本威雄 38
夏期〔夏季〕エキジビション出場〔者〕メンバー〔紹介〕		40
えんま帳	ダイヤ・クラブ キヤピトル 花隈ホール琵琶湖ホール 生駒ホール 西宮ホール ガーデンホール 尼崎ホール〔ダンス〕パレス キングホール 清和クラブ〔清和会館〕 ダンスタイガー〔目次に立項の宝塚会館は記述なし〕	
編輯後記		48

第1巻第12号=未発見

第2巻第1号=十月号 1933年9月 (1933年9月19日印刷/10月20日発行)

表紙	尼崎ホール 小林春子	
挿絵	花隈ホール 村田静子	
写真の頁	河野銀子 有島里江〔さと江〕 宇根政子 美鈴愛子 中村榮子 吉田あい子 田中滋子 古賀イツ子 雲井正子 中谷豊子、千恵子 八木テル子 横田君子 原田雅子 橋本静子 鈴川藤江 依田元常 湊智佐子 青柳京子 山本威雄 谷口正夫 和気光男〔清和会館 清和クラブ教授部〕橋本彌之輔 ダンスタイガー オリエンタル〔ダンスホール〕〔ジャズの王者を集めて〕フロリダ 〔タンゴアルゼンチン・フロリダ オーケストラ〕パレスパーティ〔規定〕 日米〔ダンス〕ホール キングジャズバンド〔梅澤清一氏〕 タイガージャズバンド〔川島良夫氏〕〔ダンスパレス・ジャズバンド〕 尼崎〔ホール アオヤマエンドシヨウ〕ジャズバンド〔アマガサキ タンゴバンド〕	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献 (拾貳)〔邦文の部 (其拾貳)〕		村岡 貞 2
『ダンス時代』一週年記念号に題して		森潤三郎 6
ダンスのA・B・C〔(其の一)〕		川北長年 8
〔ニットーの最近のダンスレコードを見るに		11〕
指導者に忌憚なく言ふ		松田榮吉 12
各地ホール街		12
無題		みつまめ 14
Quickstep Variation	〔by Thompson-May and Marjorie Roberts〕森木豊司〔訳〕	17
Some Miscellaneous Q〔Questions〕and Ans.		
	〔Answers by Victor Silvester〕北村勝〔訳補〕	18
秋にくるもの	〔蝶々こと〕浅路欣也	20
或る日の批評家〔パロン・ムアー氏の踊りを恐懼拝観したABCの対話〕	A・B・C	21
社交ダンスはどもりを矯正する	岡本邦嗣	22
街頭に立ちて	〔パレス〕中村榮子	22
紅茶を啜りながら	丸太木三郎	24
ダンスとコンパス	青木 博	26
〔第二回〕教師会試験		26
Modern Blues	谷口正夫	27
クオーターターンの研究	黒田介二	30
About Tango	宇佐美憲雄	32
〔フロリダ写真ニュース		34〕
ワルツのアウトサイドヴァリエーション	岡本邦嗣〔訳〕	37
ゼ・ウオルツ (誌上講座)〔2〕	キスミ・トシミツ	38
〔ヂグザグ 国防婦人会 京都社交舞踏教授所組合創立		40〕
〔創作〕秋雲を覆すもの	下村澪子	41
シネマ・ランド〔しねま・らんど〕	淀川生	45
国際舞踏教授聯盟会長を辞するの言	〔ダンスタイガー〕高橋虎男	46

えんま帳	タイガー	パレス	キング〔ホール〕	尼崎〔ホール〕	西宮〔ホール〕	
	ガーデン〔ホール〕	〔キャピトル〕	花隈〔ホール〕	ダイヤ〔倶楽部〕		
	生駒〔ホール〕	琵琶湖〔ホール〕	清和〔クラブ〕			48
私達の領分						50

翻刻 シネマ・ランド〔しねま・らんど〕 担当・淀川生

※ 行頭の数字は添付されたスチル写真の番号。ただし写真は略。

ワーナーナショナル特作

12『女囚の生活』（日本版）^レLADIES THEY TALK ABOUT、

監督 ハワード プレーザートン

主演 バーバラ・スタンウィツク嬢 プレストン・フォスター氏

× × ×

ユナイテッド・アーチスト

3『風来坊』

アルジョンソン主演

例のハリーラングトン助演の軽いナンセンスもの

× × ×

フォックス 全発声日本版

4『藪尻み武勇伝』

至つて仲の良い二人ですが女の事となると不倶戴天の仇になる二人、又々女をめぐつて一騒動……

エドモンドロウ……ヴァイクターマクラグレンの顔合せ。

× × ×

フォックス特作

5『カヴァルケード〔I〕』

監督 フランク・ロイド

『国民の創生』以来の大映画で、南亜、世界大戦乱を取扱つた大物 兵士一〇、〇〇〇人、群衆一五、〇〇〇人、衣裳二五、〇〇〇枚 ツエツペリン三、オートバイ二〇〇台、馬車五〇台 大砲五〇台、軍用列車四台、他二〇、〇〇〇人使用。

× × ×

メトロゴールドウイン

6『奥様御寵愛』日本版

ジョン・ギルバートが例の甘い所を見せて女を片端しから籠絡する物凄い……そして奥様方には見せられない映画助演、ヴァージニアブルース

× × ×

松竹キネマオールトーキー

7『想ひ出の唄』

松竹初めての山岳トーキー 監督は島津保次郎、澤蘭子、水原百合子、山内ヒカル、齊藤達雄、島田嘉七の面々

× × ×

松竹キネマ

8『僕の丸髭』

藤井貢、水久保澄子主演

ゝ花嫁の寝言。以上に甘い所を見せようと言ふ……物凄いな新婚教育映画。

第2巻第2号=十一月号 1933年10月 (1933年10月19日印刷/11月20日発行)

表紙 琵琶湖ホール 伊藤よし子

挿絵 花隈ホール 加藤菊恵

写真の頁 [加藤菊恵] [蝶々さん] 浅路欣也 飛鳥明子 山本清子 吉田あい子 [愛子]
 山中八重子・笑子 平林春雄 [春一] 二見政子 西宮 [ダンス] ホール
 西宮 [ダンス] ホールおどり 教師会員 宇都宮英彦 尼崎 [ダンス] ホール
 パレスパーティー [規定] 姫野宏亮 芸妓ジャズ [南地新河芳席ジャズバンド]
 キング [ダンスホール教授部] フロリダ 和泉橋ホール [舞踏場]
 日米 [ダンス] ホール [国華ダンスホール] [祝一週年創刊 高橋壮年 (国華)]
 三橋務 (金港) 太平洋舞踏場 植木康晶 (国華) 津田又太郎 (フロリダ)
 [目次に立項の伊藤よし子・立花京子・湊智佐子は記述なし]

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献 (其の拾参) [邦文の部 (其拾参)]	村岡 貞 2
The Season's Quick Step [by Victor Silvester]	谷口正夫 [訳] 6
ダンスのABC (其の二)	川北長年 8
タイムとステップの関係	北村 茂 10
Variation in Slow-Fox-trot [by John Blair & Phyllis Alderton]	森木豊司 [訳] 12
The Quick Step (誌上講座)	キスミ・トシミツ 14
ワルツ・バリエーション	多田龍三 17
クエツク・ステップ・バリエーション	寺川威・伊藤敏雄 18
上海舞踏場解剖記	藤川園子 22
各地ホール街	20
短歌	水谷玲子 23
ダンス小唄	森ひでを 23
言はれて見れば	恒 志 24
[優良]化粧 [品] オンパレード	26
大阪デパート [・] ニュース	27
[東京だより	27]
[シーズンと流行] 毛皮の話	28
大懸賞	29
シネマ・ランド	淀川生 30
漫画ダンサーアパート風景	HY生 32
婦人帽の正しい冠り方とその流行	市川龍太郎 33
34年型婦人服の流行	[高島屋婦人服部顧問] 奥平貞子 34
ダンス流行に対する希望	TK生 35
キューヴのジャズ	TM生 36
外廓を訪ねて	[新派] 河合武雄 38
	[映画] 牧 美知 39
	[ジャズ] 牧眞一郎 39
	[美容] 梅本文子 40

えんま帳 [びわ湖ホール 宝塚会館 タイガー パレス キングホール 尼崎ホール ガーデンホール 西宮ホール ダイヤ倶楽部 花隈ホール キヤピトル ダンス雀ピーチク]	43
[私達の領分]	47]

翻刻 上海舞踏場解剖記 藤川園子

私は国道筋のホールで働いて居た踊子で御座います 今年三月春將に^{たけなは}酣ならんとする頃花にそむいて西に去り爾來此上海で稼いで居ますが毎月ダンス時代を通じて各地ホールの近況や皆さんの御活躍振りを承り当時のはなやかなりし事共思ひ出して誠にお懐しく存じて居る者で御座います。

内地を離れます当時、上海は勿論、上海の舞踏界に就ても何等予備知識もなく上海の踊子は非常に収入が多いと聞かされ、誘はるゝまゝに軽率にもふらふら〔くの字点〕と来てしまひました。

来て見ればさほどもなし富士の山と云ふ一句を思ひ出しますが、聞いた話と実情とはさほど、〔カ〕ころかあまりに隔たりがありすぎてがっかりいたしました。

魔の都、エロの都と云はれる国際都市上海に参りまして以来、早や半年の月日が流れました 僅か六ヶ月ではありますが、此間に得た浅薄な見聞と貧弱な経験によりまして上海舞踏界の現状をありのまゝ語りたくと存じます。

扱上海には大小百に近いホールがありますが日本人の経営はブリーユード、桃山、パピリオンの三軒で本年六月邦人ダンサー協会に登録された踊子の数は百八十名でありましたが、他に登録洩れの踊子もありますから尠くとも二百名を突破して居ると思ひます。

其勤め先は主として北四川路筋のホールで別に仏蘭西租界方面のキヤバレで稼いで居る人もあります。全部ではありませんが、大部分は前身が女給さん上りが多い様で御座います、何れも二十歳前後の娘盛りを悲壯な決心をもつて雄々しくも単身はるばる〔くの字点〕海を渡つて来た人たちでありまして、海外発展の先駆は吾々からと云ふ意気で活動して居られます。

日本人経営のホールは三枚一弗でチケットを売つて居ますが、踊子の収入はホールでは六枚を一弗で買込んで居ます、内地とちがつて、ドライではありませんから踊子が客に呼ばれてテーブルにはんべつの場合、酒一杯に対して二十仙のチップを貰ふ事になつて居ます、(つまり「ドリンクチケット」五枚で一弗貰ひ受ける訳になります)。

踊子の収入はどれだけあるのかと申しますと大体営業時間は午後八時から翌朝二時乃至三時まで、〔カ〕、ヂヤズの回数は百六十回乃至百八十回であります、仮りに百五十回踊つたとして踊子の収入は約二十五弗であります、休みなしに百五十回踊る事は身体が持ちません、然しお客の中には一回踊つて五弗のチケットを置いて行くウルトラファンとも云ふべき篤志家もあります。

一流ホールの踊子の収入状態は昨年上海事変直後戦争帰りの陸軍々人さんや事変で家族を内地に避難させたテンポラリーの独身紳士が当時唯一の娯楽場であつた、ホールへ毎夜立錫の余地なきまでに集つた、めヶ月六百弗の収入にありつた踊子もあつたさうですが、爾來日に月に深刻化する世界的不況風はホールのフロアにも吹き荒み此二三ヶ月は近來稀な淋れ方で毎夜「ノーチケット」で帰る踊子が数人ある現状で御座います。

三枚一円と云ふと内地に比較して著しく収入が多い様ですが、ナンバーワンと云はれる踊子が三百円内外で、平均した収入は実に微々たるもので、宿料、食費、ドレス等々、出費のみ多く動もすれば赤字になりがちで御座います、然し江南の秋色酣ならんとし、天高く馬肥ゆると云ふダンスのシーズンになりましたから、また待望し得る事もあらうと楽しんで居ます。内地に居た頃は上海帰りの方と聞くと何だか変に色眼鏡で見たものですが、今では私自身が上海娘になつてしまひました。

上海娘と云ふと直にエロチックに見られますが大体に於て内地の踊子と大差は無いと思ひます。

内地とちがつて諸外国人から受ける色々の誘惑を職業柄愛嬌よく巧に押しつけながら、弟妹の学費から父母への仕送りを怠らぬ模範的な踊子が沢山ある事の特筆いたします。

郷に入っては郷に従ふと申しますが、心身共に所謂上海娘にならぬ様大和撫子の心意気を失はぬ様常に警戒して居ます。

最近邦人経営ホールでは不況打開策、お客の吸収策として毎夜八時から十一時まで「フリーサービス」と云ふのが行はれて居ます。

ホールの賑ふのは毎夜十一時頃からですからそれまでが〔でカ〕はお客のテーブルにはんべつてお話し相手からビールのお酌をする、つまりカフェーの女給さんの真似をするわけで御座います。

然し不景気は依然として不景気で、そのためにお客が多くなつた様にもありません。

上海は国際都市と申すだけに、人種、言語、風俗、習慣を異にする四十数ヶ国の人々が居住して居るさうです、従つてホールに出入りするファンもこれ等の人々ですから、黒人、白人等々宛然人種展覧会場の観があります。

上海のホールは前にも書いた通りにドライではありませんからアルコールの廻るに従つて酔歩蹠蹠、ジャズに合して踊つてる（飛び廻つて居ると云ふ方が適当かもしれません）のを見ると如何にも朗かで愉快さうに見えます。

内地の様に一にスタイル、二にステップと真面目にダンス其物を研究してゐるのは大分趣きが変わりまして気分其物で踊る上海ダンスはテンポにはびつたり合いますが、ステップなど軽視され勝て私も当座勝手が違つて尠からずまごつきました、上海ブルース等と云ふエロ的表現の極めて露骨な踊も御座まい〔すカ〕。

上海は共同租界、仏蘭西租界、支那街に分れ夫々行政機関がありますが、内地の様に厳重な風紀の取締はありませんので、踊子なども極めて自由な生活をして居ます。

東洋文化の中心と云はれるコスモポリタンな上海は実に東洋第一の歓楽境で御座います。

凡そセントルマンリーであり、レディライクであつて、帝国臣民としての体面に関する様な事柄をしない限り、誰に遠慮する事もなく、勝手気儘に遊び廻つても他から干渉を受ける事など決してありません。

揚子江の船頭さんは唱はれます。

四千哩の長江の流れ
一万余噸の汽船が通ふ
見せてやりたい

隅田安治川舟漕ぐ人に

上海の踊子は唱ひます。

上海よいとこ遊びにおいて
中でもダンサーの毎夜の情
見せてあげたい

狭い日本で恋する人に

私も上海に来ましたからには出来るだけ多く見聞したいと思ひまして今春来誘はるゝまゝに此処彼処と遊覧致しました。

南京路口に天空高く聳ゆる東洋一と云はれる「カセーホテル」のデンナーダンス、仏蘭西租界のカサノバ デルモンテ等の一流ホール、映画の殿堂グランドシヤタ、郊外のドライブ、ゼスフィールド公園の秋色等々、算へ来れば枚挙に遑なく、何れも内地では味ふ事の出来ない上海踊子生活の楽しくも懐しい思ひ出で御座います。

上海と云へば殺人、強盗等々グロテスクな都会の様思つて居ましたが、案外平穩な処で御座いま

して、排日は依然として継続されて居ましても私共日本人の身に危害を受ける様な事は全然無く、約三万の在留邦人が居ますので外国に居る様な心地は致しません、殊に帝国海軍の軍人さんが厳然として日夜警備して下さいますので少しも不安を感ずる事なく来る日来る日〔くの字点〕を朗かな気分で働いて居ます。

第2巻第3号＝十二月号 1933年11月（1933年11月19日印刷／12月20日発行）

表紙 キング 川崎美子・橋本アキ子

挿絵 キングダンスホール

写真の頁 千種みどり 岩田蝶子 佐々木君子 松下年子 廣田君代 鎌田ユキ子
 〔梅澤清一〕 キング〔ホール・ジャズ〕バンド 吉桑英文 大鹿實 三好賢三
 キング〔ホール〕 サービス係 川端七之助〔上野麗子〕 坪田道子 山本芳子
 香取知恵子 飛鳥明子 大塚一枝 美鈴愛子 青柳京子 湊智佐子 八木テル子
 バレスバンド〔平ジャズメンバー〕 青山冷子〔和気光男〕
 〔橋田線郎 岡田勝弘〕〔若葉幸子〕〔浅野よし子〕〔里見勇子〕
 〔高宮多津子〕 ウサミ〔・〕ノリヲ 坂本種一 吉田あい子 高瀬嘉子
 向谷玉枝 川村香鶴 福森園子 鈴村〔鈴川〕藤枝 和田芳雄
 アマチュアタンゴ〔集会〕 琵琶湖〔ダンス〕ホール 帝都舞踏場
 生駒〔ダンス〕ホール 新橋〔ダンス〕ホール ダンスパレス フロリダ
 ダンスタイガー 和泉橋舞踏場（記事） 桂会館 尼崎〔ダンス〕ホール

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献（其の拾四）〔邦文の部（其拾四）〕	村岡 貞 2
音楽と国民性	森木淑夫 6
ムーチ	谷口正夫 8
ブルース・ウオ〔一〕 ルツ	宇佐美憲雄 10
ダンスと映画	寺井龍雄 11
The Quick Step〔II〕（誌上講座）	キスミ・トシミツ 13
クリスマスを憶ふ	美鈴愛子 15
ゼ・シーズンズ・ワルツ〔by Victor Silvester〕	坂本種一〔訳補〕 16
チグザック往来	21
経営者の立場から見たホール	高橋虎男 22
	吉田貞一 23
	石橋政次郎 23
	中屋敷岩夫 24
色紙	河合武雄 24
非常時舞踏論	喜須海利光 25
大懸賞〔懸賞新題〕	27
しねま・らんど	淀川生 28
漫画	30
微苦笑	30
レビュー〔レビュー〕 総まくり	31
ダンサー〔を職業とする〕 諸嬢に贈る言葉	トキ〔・〕カトウ 34
指輪の話〔結婚指輪 誕生石〕	I・SAKATA 36

宝石の話〔【2】〕	36
写真の話〔写真〕	山本三郎 37
百貨店縦走記〔1〕	38
各国踊り場奇習	〔山田坡丁〕 40
〔優良〕化粧品オンパレード	41
さんま帳〔キングホール 尼崎ホール ダンスパレス ダンスタイガー 西宮ホール ガーデンホール ダイヤ倶楽部 花隈ホール 生駒ホール 琵琶湖ホール ダンス雀ピーチク〕	45
〔私達の領分〕	48〕

第2巻第4号＝新年特輯号・壹月号 1933年12月（1933年12月19日印刷／1934年1月20日発行）

表紙 尼崎 吉田あい子	
挿絵 タイガー 白濱恵美子	
写真の頁 久保西美恵子 坪田道子 美鈴愛子 廣田多津子・志津子 藤田敏子 上田愛子 向谷玉枝 依田千枝子 湊智佐子 橋田縁郎 和気光男 山本〔威雄〕会長 喜須海利光 依田元常 中澤守彦 〔上田耕作〕毛塚一郎 坂本種一 花隈バンド〔芝辻エンド ヒズ・オーケストラ〕 尼崎〔ホール ジヤズ〕バンド ユニオン〔ダンスホール〕ダンサー 小林春子 山口絹枝〔絹枝〕 佐々木ひろ子 吉見芳子 大谷幸江 八木テル子 下村茂子〔茂〕 原田雅子 児玉たか子〔廣元信子〕 橋みどり 敏田〔藤田〕静子 大國すみ子 吉井政子 山路小夜子 平林春一 木村秀雄 尼崎〔ダンス〕ホール 〔ダイヤ倶楽部〕 キング〔ダンス〕ホール 〔ダンス〕パレス 西宮〔ダンス〕ホール 〔ダンス〕タイガー 〔生駒ダンスホール〕 琵琶湖〔ダンス〕ホール 〔ガーデン・ホール〕 ソシアル〔ダンスホール〕 日米〔ダンス〕ホール 〔尼崎ダンスホール カントリー舞踏会〕 中屋敷岩夫 琵琶湖〔ダンス〕ホール フロリダ 西宮〔ダンス〕ホール 武内弘隆 吉田貞一 西山幾太郎 〔ダンス〕パレス 太平洋舞踏場 〔ダンス・〕タイガー 和泉橋ホール〔舞踏場〕 有島サト江 土屋邦子 城野千代乃 川崎菊枝 中川三代子 谷口淳子 西宮〔ホール〕ダンサー 鈴川藤江 村田静子 中西静子 日米〔ダンスホール〕ダンサー 〔西宮芸妓 昌子 勝笑 静彌〕 長松凌 谷口正夫 高橋利併 四谷炳鏘 杉山元紹 山口豊三郎 深津齋太郎〔齋太郎〕 青柳武男 西山茂恭 グランド銀座 銀座〔ダンス〕ホール 新橋〔ダンス〕ホール 太田正太郎 植木康晶 国華ホール〔社交舞踏場〕 桂会館	

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献（其の拾五）〔邦文の部（其拾五）〕	村岡 貞 2
プロムナードの一研究	北村 茂 6
ブルース・ウォールスに就いて	岡本邦嗣 8
The Quick Step（誌上講座）〔Ⅲ（完）〕	キスミ・トシミツ 10
声明書	横浜社交舞踏教師会 12
The Season's slow〔Fox〕trot〔by Victor Silvester〕	坂本種一〔訳〕 13

投書欄	14
ニッソーのダンス陣	16
Blues waltz [John Herbert and Ella Spowart]	宇佐美憲雄〔訳〕 18
1934年 春は朗らか〔ダンス界を繞る人々〕	
邦人ダンサー〔ダンサア〕	水野正虹 20
洋装とキモノ	村岡 貞 21
ダンス界風紀問題	高橋桂二 22
舞踏漫筆	小鹽高弘 24
欧洲ダンス界を語る	大賀國男 25
東京ダンス界異変	小川一人 26
新刊紹介	28
〔折にふれて	宮邊明子 28〕
〔踊りの面白さ	トキ・カトウ 28〕
カラー・セクション	
大懸賞〔懸賞新題〕	29
しねま・らんど	
漫画マーケット	
大懸賞	
〔J・A・〕アンドリユー氏の踊りを見て	恒 志 31
1934年度の踊風	伊藤敏雄 32
犬のコンテスト	32
現代舞踏教師の地位	武藤過夫 33
社交ダンス〔偏側の発達〕是非論を讀みて〔吉田貞一氏に与ふ〕	トキ・カトウ 34
〔桂会館開く	34〕
クリスマスとシャンパン	中田政三 36
流行のページ	38
〔新しい髪的技巧と〕近代美容	43
新春の〔新春を彩る〕ファツション・シヨウ	42
モダニズム美容科学	〔阪急美容室 久米仲子〕 43
あんま帳〔尼崎ホール キングホール パレス タイガー ガーデンホール 西宮ホール	
生駒ホール 宝塚会館 琵琶湖ホール ダイヤ倶楽部 キヤピトル ソシアルホール	
花隈ホール 清和会館 桂会館ダンス雀ピーチク〕	48
〔私達の領分	51〕

1934（昭和9）年

第2巻第5号＝貳月号 1934年1月（1934年1月19日印刷／2月20日発行）

表紙 西宮ホール 廣瀬嘉子

口絵 尼崎ホール 飛鳥明子

写真の頁 橘イリス 山本清子 吉田あい子 川崎美子 勝美稲子 雲井正子 小幡春子
 片岡瀧子 橋本静子 上野麗子 服部初枝 山本絹子 小林美千子 高橋嘉子

昭和戦前期ダンス・音楽関係雑誌目次総覧 (7) (永井)

川村香鶴 橋本あき子 瞳俊子、高宮多津子 笠井よし子 山路小夜子
 原より子 原田久子 宮城光子 田房君子 桂会館ジャズバンド
 桂会館教師 坂本種一 正林壽夫 西宮〔ダンス〕ホール 山本正二、川端七之助
 尼崎ホール タイガー パレスパーティ〔規定〕 和泉橋ホール〔舞踏場〕
 フロリダ〔グラフ〕 日米〔ダンス〕ホール

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献 (其の十六)〔邦文の部 (其拾六)〕	村岡 貞 2
国民性に基ける舞踏音楽	森木淑夫 6
スロー〔フォックス〕 トロットに於ける〔リヴァース・ウェイブに対する〕或暗示 〔テイモシイ・パルマ述〕 恒志〔訳〕	8
ダンス映画〔は)?	牧 美智 8
The Charleston Blues〔by Victor Silvester〕	尼崎ホール教授部〔訳〕 10
Some Variation in Vogue〔To=day〕	坂本種一〔訳〕 13
〔優良〕化粧品オンパレード	14
The Tango (誌上講座)〔1〕	キスミ・トシミツ 18
投書欄	19
李起東論	小川一人 20
ダンストピック 歌舞伎座の窓から	花柳正太郎 24
	英 太郎 24
	河合武雄 24
只野凡兒の夕	23
〔京都教師会、大阪教師会に合流〕	23〕
〔晩秋の歌〕	宮邊明子 23〕
シネマランド	〔YODOGAWA〕 27
〔34型〕 婦人靴の流行と知識	31
ホールとカフェの道徳革命〔を唱導す〕	中田政三 32
〔ダンスタイガー 表彰される彼の女達〕	34〕
〔明治二十年に於ける〕 鹿鳴館仮装舞踏会	36
舞踏室化粧講座	〔ミニヨン美容室・神戸そごう美容室〕 梅本文子 37
流行のページ 時計 ステツキ 煙草 競馬	38
〔非常時風景〕 キヤバレー・レビューを排撃す	41
ゑんま帳 〔桂会館 タイガー パレス キングホール 尼崎ホール ガーデンホール 西宮ホール 生駒ホール 花隈ホール ダイヤ倶楽部 ソシアルホール キヤピトル 琵琶湖ホール ダンス雀ピーチク〕	42
〔私達の領分〕	47〕

第2巻第6号=三月号 1934年2月 (1934年2月19日印刷／3月20日発行)

表紙 桂会館 橘イリス

口絵 花隈ホール 荒尾はつ子〔初子〕

写真の頁 美鈴愛子 浅路欣也〔蝶々さん〕 吉田あい子 小林春子 鈴川藤江 小西三四子
 藤田敏子 淡野よし子 藤井夏子 玉越絹子、岩田つる子 湊智佐子 花村欣子
 向谷玉枝 瀬野信代 松波洋子 伊藤多榮子 廣田君代 河部千代子

[ダンス] タイガー [ジャズ] バンド 佐海すみ子 新井千恵子 照井繁子
 ダイヤ [倶楽部ジャズ] バンド 臙脂しのぶ キング [ダンスホール タンゴ] バンド
 アマチュア [・ソシアル・タンゴ・] ソサイテイ 西宮 [ダンス] ホール
 花隈 [ダンス] ホール 和泉橋ホール [舞踏場] 折茂英治 キング [ダンス] ホール
 ダンスパレス 太田正太郎 新橋 [ダンス] ホール 中澤守彦 [氏] 四谷炳鏑 [氏]
 木野勲 [氏] フロリダ [・グラフ] 琵琶湖 [ダンス] ホール
 尼崎 [ダンス] ホール

巻頭言	1
社交ダンスに関する文献 (其の十七) [邦文の部 (其拾七)]	村岡 貞 2
タンゴの特性的な動作 [タンゴに於ける特性的な動作に就いて]	植田三郎 6
スロー [・フオックス] トロツトのバリエーション	中村利一・加藤博 9
The Tango (誌上講座) (二) [1]	キスミ・トシミツ 10
投書欄	12
Ran Chera [ランチェラ]	小野朝雄 13
五百字コント [厚司姿・ダンス踊れぬ訳はなし]	牧 美智 14
三つのヴァリエーション [ヴァリエーション]	岡本邦嗣 16
酒・タバコ・女	中田政三 18
国辱的なカフェー・レビュー	18
[国道ホールの精神講和]	20]
[私の生活感]	吉田治代 20]
[1933年度 全横浜プロフエツシヨナル模範競演大会開催さる ダンサーに与へる十誠 [(その一)]	20] 高橋虎男 22
雑感	[花隈ホール] I・K 生 23
社交ダンスの将来	吉桑英文 23
舞踏室化粧講座 (二)	梅本文子 26
しねま・らんど	淀川生 27
関西アマチュア・[ソシアルダンス] クラブ員 [諸氏] へ	大道秀雄 31
流行のページ [自動車 温泉 写真機]	32
春の話題	
ダンス映画とレビュー映画	有賀文雄 34
青島ダンス漫筆	餘田勇三 35
ダンスの趣味	恒 志 37
舞踏の社会的存在	小鹽高弘 38
或る踊子への追想	水谷 滋 40
ゑんま帳 [ダンスタイガー ダンスパレス キングホール 尼崎ホール 西宮ホール 生駒ホール 桂会館 琵琶湖ホール 他ホール]	42
[ダンス・レコード]	45]
[私達の領分]	46]

翻刻 青島ダンス漫筆 餘田勇三

船が青い波を馳つて港に入る。税吏の検査を終つて上陸すると、先づ第一に目につくのは露西亜人である。青島の約七〇%はこの白系露西亜人がメめて居る。

つゞいて独逸人、支那人、日本人であるが日本人は至つて少ない 上海事件前迄は二万五六千人居たが、今では二万人内外、それも皆満洲へモーションをかけて居るのだから至つて心細い次第である。縦〔ママ 従カ〕つて日本人は肩身が狭い。

さて——僕はダンスが好きだから、先づダンスホールへ出掛けやう。

先づダンスホールの一番たくさんある冠縣路へ足を向けるデス。冠縣路にはチャールストン、カルトン、花月、アポロ、等があり何れも盛大に、そして何れもエロつて居るから非常に面白い。

チャールストンは冠縣路に在つて、露人経営、同じカルトンも露人経営だが、花月だけは、流石名前に相応しく日本人が経営して居る 此処等では、ダンサーは何れも十五人内外、たつた十五人ですぞ、それでも都落ちの武者揃ひだけに、内地の三十人の女性には匹敵する勇気と、サービスを持つて居りますが、悲しいかな、ダンスは一对一でなければ、都合の悪い事です。

日本人の経営して居るもので、凡そ青島にその覇を誇るものに、マウント、フジがあるのは、何と愉快ではありませんか。こゝには約三十人のダンサーが居ります。その設備と言ひ、構造と言ひ、全く青島に冠たるもので、流石はフジヤマ、しつかりやれと言ひ度く成るデス。

マウント、フジと同じ、夏津路にキングがあります、こゝは少々落ちますし、ダンサーも十五人から二十人程度、こゝも日本人経営になるもので、相当の成績は挙げて居る。

聊城路にはプラタンがある。これも日本人経営に成るもので、あまり大きくはないが、一寸したものの、その他(Ehafaro.)には、キヤバレ、ニューヨーク、アドジヤステス、ブラックキヤット等がある。

ニューヨークとアドジヤステスは、露人経営のもので、ブラック、キヤットは(米支)の共同経営になるものだが、その代り規模も大きく、百人からのダンサーを備へて、宣戦を布告して居るあたり、可成り雄大なものである。

大体あまり広くもない青島に、これ丈のホールがあり、これに相当するダンサーが居るのだから、その生活戦線にも、仲々異状が多い。ダンサーの大半は、上海人で、春から夏への書入れ時には、比較的金儲けの多いホールで、ジャンジャン騒いで、秋に成ると、何処かへ行つて仕舞ふ。何処へも行かない又は好きな男でも出来て、遠くへは行けない者は、カフェで働く。随つて此処のカフェの女給は皆踊る事にかけては一人前でアル。

五月から九月までは踊り踊るなら猫でも欲しいと言ふ時で、この時には冠縣路には臨時ダンスホールの市が立つ有様——冠縣路の表通りは申すに及ばず、裏通りに至る迄、全部ホールになる。薬屋も、洋服店も皆、臨時のホールに借りられる。昨日の法律事務所が今日のホールと言ふ訳で、市中至る所にホールが出来た。これは、この五月から九月迄は、アメリカの東洋艦隊(The Oriental fleet)が入港するからで、兵卒は、勿論軍艦から、通ふのだが、士官はホテルで宿泊する。随つてこの間が、最もエロ道華やかな時代である。

この時には、あちらこちらのカフェで、冬籠りをして居た娘子軍は、いざ鎌倉と、冠縣路又は聊城路へ馳せつける。

何しろ三十隻から成るアメリカ艦隊を向ふに廻はしての合戦だから事が大きい。

ホールでは酒を飲ませる。だから、乱痴気騒ぎは、更に高潮に達する訳で、内地に居られなくなつた莫蓮娘と、港々に女ありのアメリカ士官とでは、どうあつても、唯では治まらない。

そこで、博愛主義に基ぐ〔ママ〕短期契約が至つて簡単に結ばれる。

青島の女はすべて金である。アメリカ士官の飲む酒の中にも、彼女等のコミッションは入つて居る。半分以上も氷の入つたウオッカを飲んで、これが一杯一ドル、最も水でも、ウイスキーでも、ビールでも、何でも一杯一ドルなのである。

(神戸の××にも、こんな店はあつたが)そしてその一弗の六〇%が彼女の収入になる〔の〕だから、

彼女は一杯でも多くの酒を飲ませやうとする。男はあまいから飲む、そして酔ふと、例の話になる。

爾你給我酒好不好

(妾にお酒を飲ませて下さらない)

と言つた調子から

我很愛爾怎!

(妾、貴方が好きになつたわ)

となり

爾今晚一魂息大飯店去不去

(今夜ホテルへ行きますせんか)

更に

我給爾便宜!

(安くしときますわ)

となると、もうおさまらない。

其処で、太平路 (Grand Road) にある青島大飯店 (Grand Hotel) へ車を飛ばせる事になる。

グランド・ホテルは青島でも一流のホテルで、頗る宏大なものである。

青い目をしたアメリカ士官は、桃色の夢を結んで五弗を払ふ。彼女達のサービス料は、一夜三弗乃至五弗が見当で、グランドホテルへ車を飛ばすに少々物足りない連中の為めには、近所に円タクホテルがあつて至つて、簡便に一泊出来る様になつて居る。

金離れのいゝ、随つて男らしいアメリカ士官に惚れるダンサーもある。数々の夢を残して、秋まだ浅き頃アメリカの艦隊は本国へかへる時、雨降る中に、妊娠数ヶ月の身体をハトバに現はして、来年来る可き恋しい士官を見送るダンサーの目に涙の溢れて居る光景も少ない事ではない。

これが所謂。「明けりやダンサの涙雨」つて訳です。

第2巻第7号=四月号 1934年3月 (1934年3月19日印刷/4月20日発行)

※目次では三月号と記載

表紙 琵琶湖ホール 梶原千代子

口絵 生駒ホール 藤江夏子

写真の頁 吉田あい子 中村榮子 湊智佐子 山路陽子 菊池るい子 麩山ならゑ 八木テル子

湯川絹子 加藤菊恵 ダンスタイガー 白濱恵美子 早川美子 山本千代子

加藤英子 古高雪枝 大島かづ子 佃華子 帝都舞踏場 深津齋太郎〔齋太郎〕

喜須海利光 坂本種一 杉山元紹 橋田縁郎 花隈〔ホール〕ヂヤズバンド

花隈〔ダンス〕ホール 生駒〔ダンス〕ホール キング〔ダンス〕ホール

〔ダンス・〕パレス・〔・〕ヂヤズ〕バンド 琵琶湖〔ダンス〕ホール

〔ダイヤ倶楽部ヂヤズバンド〕日米〔ダンス〕ホール〔ボール・ルーム〕フロリダ

和泉橋〔舞踏場〕西宮〔ダンス〕ホール

〔大阪〕アマチュア・タンゴ〔・ソサイエテイ主催関西選抜アマチュアダンスクラブ

デモンストレーション〕尼ヶ崎ホール〔尼崎ダンスホール〕

久城長太郎〔氏・田中滋子嬢〕北村勝〔氏・飛鳥明子嬢〕

〔本社主催全関西〕タンゴ〔・オープン〕選手権大会

巻頭言

社交ダンスに関する文献 (其の十八〔邦文の部 (其拾八)])

1 村岡 貞 2

タンゴの秘訣〔タインゲートスミスのテキストブックより〕

6 植田三郎 6

SocialとBall Roomの文字〔“Social Dance”と“Ballroom Dancing”と云ふ文字〕	村岡 貞	8
気の利いた変型	阪本種一	11
東京支局だより		12
〔春は美人から		13〕
〔A〕Waltz Variation〔by John Herbert and Ella Spowart〕	森木淑夫訳	14
The Rumba (誌上講座)	キスミ・トシミツ	16
尼ヶ崎ホール春のおどり主題歌	〔作詞 下村滯子〕	17
東京のエキジビション禁止	小川一人	18
投書欄		18
Tango Variation〔Musically Variation		
A Simple Tango Variation by Ken Storm and Phyllis Alderton〕	森木淑夫訳	22
東山ダンスホールを訪ふ〔開場旬日に迫る〕		24
〔前田不二夫(琵琶湖) 浅路欣也(ダンスパレス)		26〕
しねま・らんど	淀川生	27
ハリウッド通信	雑津應桂	27
利権教師(寸劇)		31
流行のページ〔香水 洋服 ポータブル〕	本社記者	32
流行語	H・Y生	32
春の話題		
青楼とダンスと堀江	松本 實	34
春の音楽映画	六甲右門	36
関西ホールの今昔物語	餘田勇三	37
ダンサーに与へる十誡(その二)〔教養について〕	高橋虎男	40
全横浜春季選手権大会	高橋利併	41
〔本社主催〕全関西オープン・タンゴ選手権大会	本社記者	42
社交ダンス術語〔現代社交ダンスの一般に応用されてゐる術語並に略号及びその解説〕	K・OKAMOTO	45
〔紳士服作法	大賀國男	45〕
蚤んま帳〔関西方面 尼崎ホール キングホール ダンスパレス タイガー 神戸ホール		
他ホール 東京方面 新橋ホール ボール・ルーム フロリダ 和泉橋ホール		
日米ホール 銀座ホール 其他		47
〔私達の領分		51〕

翻刻 青楼とダンスと堀江 新町九軒神崎屋 松本 實

堀江と言ふ所に、ダンスを初めて起こしたのは自分だと言つていゝ位である。

大正十三年から十四年にかけて、北浜から東京の兜町方面で自分は盛んに株をやつて居た。其の頃の玉突は現代のそれと違つて非常に高踏的なものであり、上流階級特有のものでつた関係上、私は株をやる傍ら堀江に玉突場を初めた。それも他所の玉突と違つて、外観共に凡そ日本趣味のもので、入口から表構共全部日本風で、格子作りに、御神燈あげて と言ふ様な構へだつた。勿論大きな看板一つあるではなし、知つて居る人は兎に角、知らない人は、何所のお茶屋かと間違つた位だつた。随つてお客の全部は、お馴染みばかりで、一現のお客様なんてなかつた。さうして居る内に玉突氾濫時代が来て、あちらでもこちらでも玉突場が出来ると言ふ有様なので初めて、お客様のすゝめに随つてダ

ンスホール建設を思ひ立つた。

けれども、その当時には、ホールに関するよい指導者がある訳ではなし、各自、自分独特の構造に依つて設計並びに方針を立てるの外はなかつた。

自分は、それで玉突台を二階に持つて上つて、床のリノリユームの上から、寄木を張つて、周囲をビロードのカーテンで張りめぐらして、どうやら現在のレッスン場の様なダンスホールを拵へた。それからさてそれから教師であるが、別に（現在の事と違つて）良い教師などある訳ではないので自分自身その教師に当る事にした。現在から考へるとステツプと言ひ、その他の事と言ひ、非常に至らぬ点も多かつた事と思ふが、その時代では、充分それでよかつたし、又その上に来る人もなかつた訳である。——と言ふと一廉上手に聞こえるが——

自分は鎌倉の海浜ホテルへ良く行つて、その当時、可成熱心にダンスを練習したものだし、その後横浜方面で大分やつて居るから可成り歴史は古いわけなのである

音楽は勿論、レコードで、ダンサーも六人より居なかつた。けれどもその当時六人のダンサーを集めると言ふ事は、可成りの困難な事であり、同時に相当センセーショナルな事であつた事は争はれない。

だからと言ふ訳ではないが、当時のダンサー諸嬢は、現在では、ダンサーとして或ひは、他方面に於ても立派な席をしめて居る。

今××××レコードに吹込んで居る常盤静子もその一人だつたし、現在、日米ダンスホールで教師をやつて居る小川文子なども、その当時、ダンサー席に座つて居た一人であるし、他に曾つてのダンスパレスのNO1（現在では止めて居るが）河野銀子、キングのNO1、佐々木君子なども居た。佐々木君子の如き、これが将来、一人前のダンサーに成れるだらうかと、他人事ながら、随分心配した位だつた。その他に山本が居た、山本は後に上海に渡つて甲野銀子と名乗り、パレスの河野銀子と名前争ひをした様な有様だつたが当時は仲良く椅子を並べて座つて居ただし、山本は舞踏界の第一人者、陸襟茂〔襟茂都〕陸平氏の弟子だつたのだから、どちらに甲乙をつける訳にも行かなかつたが、後に甲と河と争ひをするなんて甲（河）乙の見境がつかないだらう。漸く陣容が整つたので、ホールを開場した。ダンサーには何れも揃ひの海水着を着せて、ジヤンジヤンやつたから堪らない、堀江演舞場の役員連は旧套打破だと言つて騒ぎ立てるし、お茶屋の主人連は、^アアラマア。と言ふ訳だつた。其の中に立つて孤軍奮闘して居る内に客もついた、その時分の客は現在の様なモダンボーイと違つて、年寄が多かつた代りにはよく使い良く遊んだ。アドミツション五〇銭、チケット、一円五十銭でやつたのだが、玉突場から、ダンスホールへ改築した費用が僅か一週間程で取りかへせたと言ふのだからその時分の豪勢さが分る訳である。

その内に、アマチユア、オーケストラがレコードの代りに出来た。これは、踊りに来る御客様の中から、音楽のうまい人達が寄り合つて、毎週土曜と日曜の二日間会社が退けてから、ジャズをやつたもので、ハーモニカあり、ヴァイオリンあり、マンドリンありで、とても今から考へると風変りのものであつた。その内にダンサーも増へて、三十人あまりとなるし、御客のすゝめもあり、本式のジャズバンドを入れる事にした。最初のメンバーは六人だつたが、その中には現在松竹のオール、トーキーを受持つて、世界にならして居る土橋君の弟も混つて居て当時洋服屋をして居たが、ヴァイオリンの名手で、いゝ所を見せて居た。それからバンドにも相当の変遷はあつたが、今、生駒ホールに居る成田七五三夫君、前野君など、或ひはバンドマスターとなり或ひは音楽部員となりして居たものである。

中原君、山口君、高橋君、橋爪君などの顔も当時見えて居た、山口君は何所やらで教師とかをして居るし、高橋君はタイガーのマスターとして押しも押されもせず、又橋爪君、神戸ダイヤのマスターとして納まつて居る。

何しろ、当時のダンスは各方面から、邪道扱ひにされた事は事実だつたが、ましてや廓からは、キリシタン、パテレンの様に思はれて居た。

その中に在つて、ダンスのうまい芸者としてうたはれたのが、今はもう死んで居ないが代議士、西尾末廣の落胤と言はれる東席の稲奴、丸三席の梅鶴などが居た、いづれも大正十五年から十六年〔ママ〕頃へかけその時代の芸妓なのだが、その当時、洋装なんかして、皆を驚かせたものである。

ダンス芸者夏子がうたはれたのもその当時である。

堀江ダンスホールでは、芸妓に限りてれくさくない様に無料にてダンス教授しますと赤字に白ぬきで出したものだが、その当時に、習ひに来るものは指を折る程もなかつた。けれど、時代は進んで、今や昭和九年、新町廓中にダンスを知らぬ芸妓なく、二十人のダンス芸妓と、全数百の内、優に十軒のホールを持つ御茶屋を生むなど新町廓のダンスは今や全般的なものとなつたが、往時のキリシタン扱ひされた当時と思ひ較べる時、更に感慨無料なものがある。

翻刻 関西ホールの今昔物語 餘田勇三

今ちやホールと言へば、ダンスホールを聯想するしホールで結構、通用するが、その時代には、ホールと言へばビアホールを聯想したものである。

大正十年頃——今からざつと十四、五年以前デスゾ、その当時、今の御堂筋の所に在つたのが、コッテージ、ダンサーは五人程、音楽は勿論、レコード使用、カフェを改造したもので其処には藤村浩君が居た。

場内と言つても、西洋に在るカフェの様なもので、その机の前に僅かな空間を作つて狭い思ひをしながら踊つたもので、最近映画などで、パーチャーとか、社交会とかに出て来る様に、片方では卓子を囲んでお酒をのんで居るし、片方では踊つて居ると言ふ具合だつた。従つて現今よりも遙かに気分の出で居たのは事実だが、その代りお金の方も高くついた。その時分のお客は今と異つて(おつと失礼)随分派手だつた、ボーイにスリーキャツルか何かを買つて来させると、一寸一本抜いて残りは皆なで吸つて呉れとか、ウキスキーをバンドに吞ませて、ジャズの調子を浮かせたり、華やかな一面、非常にブルジョア気分を發揮したものだつた。

其所には、西洋人の女性が居て、レッスンとも、ダンサーともつかぬ事をして居た。

その時分の人達には、そのダンスがよいのか悪いのか、見分けもつかなかつたのだから、その女性(惜しい事に名前を忘れて失舞つたが)がどの程度迄踊るのか覺へて居ないのが残念である。

そこには岡田嘉子の先夫、服部亮君も居たし、その他、英文毎日のウイルソン、川邊孝二君、当時大倉組に勤めて居た藤村浩君、山本博君吉岡威夫君などの顔も見えて居た。

山本博君が、ユニオンの秋子と難波新地の大工さんの二階を借りて居たのも、其当時だし、現在花隈ホールで光つて居る荒尾初子君もその当時は、十五六歳の小娘で、よくホールへ顔を見せて居た。

服部君が主となつて、川邊君などのとりまきで、生駒へホール建設の機運の動いたのもこの時代だつたが、これはうまく行かなかつたらしい。

その頃、戎橋にパウリスタが出来たのだつた。この時には、稍ホールらしい気分は出て居たが、それでも室をカーテン(衝立)で仕切つた簡単なものだつたのであるぞ〔ママ〕。

こ〔こ〕にはフリリツピン人のジャズバンドが居た、そして選曲も可成り上手になつて居たし、ダンサーも稍揃つて居た。川邊君がダンサーと問題を起して、米山マネージャーと一悶着を起こしたのも此の時代である。よく悪い問題を起す男だつた。

此所のNO. 1は現在、神戸上筒井でバーを開いて居る初ちやんだつたが、その他に現在猶、阪神間に謳はれて居る、菊地るい、白濱笑子の諸君なども居た。

稍ダンスの社会化を見せたのは此の時代で当時のワンサガール歌川八重子君が彼氏と良く踊りに来

ては、ダンサーに成らうか女優にならうかと、迷つたのも此の時代である、其の歌川八重子君、現在では新興キネマの重鎮と納り、時折は桂会館に、鈴木澄子君と姿を見せて居るが、往時を想ふ時、又懐かしからずやと思ふ。

続いてユニオンが生れた、其の時、帰朝した（〔ママ〕加藤兵治郎〔兵次郎の誤り〕君は（加藤君の渡米話はいづれ稿を改めるとして）北海道とかで喫茶店式のものをやつたが思はしからず、北浜ホテルでレッスンを初めて居た。

主として上流社会に出入りして居たらしく、梅本伊三郎君の大阪踏華倶楽部の出来たのも丁度この頃である。このバンドは可成りいいものが揃つて居たもので、現在では一方の旗頭となつて居る人が多い。井田一郎君、山口豊三郎君、平茂夫君、高見君、前野君等でわざわざ外国からジャズ楽器を取り寄せた位だから、相当なものだつた。

現在の教師とか、ダンサーとか、バンドマスターは大抵〔ママ〕この時代に育つたと言つても過言ではない位ひで、当時の洋品居〔屋カ〕さんの大村計雄君、自働車屋の田尾繁夫君など、皆ユニオンのお客様だつた。

ソシアルの大澤よし子、他に小林みよ子、勝見などは、全部ユニオンから巣立ちした、ダンサーである。

その頃からホールの輩出となつた。

心齋橋筋に山口武雄君がパリジヤンを起こした。松竹の楽劇部少女を連れて来て売り出したものでダンサーは十人あまり居たが、勿論音楽はレコードで、チケットも十銭か十五銭だったか〔ら〕とても安かつた。

苦境時代だつた事は事実で、室が狭くつて椅子を並べて寝る人さへある位ひだつた。

続いて姫野君が北浜ビルの四階にシヤンレーホールを開いたが、これは一ヶ月ばかりで閉鎖になつたと覚へて居る。

続いて太平ビルに村田健君のパリジヤンが生れ、大江ビル一階ホールには、中央クラブが出来た。

然し此頃になつて警察の弾圧が殊の外に強くパリジヤン、中央クラブ、シヤンレーと続いて閉鎖され、僅かにユニオンとパウリスターが残つたに過ぎなかつた。

個人のクラブは、大阪踏華クラブの外に、泉谷武泉君の北浜ダンスクラブ、大阪ダンスソサイエターなどがな〔あか〕り、新町では九軒に堀江ダンスホールが出来た、これは九軒の松本君が、玉突屋を改造して出来たもので、相当な成績をあげたが、ユニオンやパウリスターと相前後して閉鎖して仕舞つた。

京都の宮川町には、タチバナと言ふダンスホールがあつて、ダンサーは三四人より居なかつたが、和やかな気分が面白かつたので、自分等はよく行つたものであつた。

総体にその当時のダンサーは現在のダンサーと較べて、遙かに美しかつた様に思ふ、それは、自分等にダンサーと言ふものが珍らしかつたので、その近代的な所に、迷はされて居た傾向は確かにあつたが、それでも今から考へると、矢張りその時分のメーカーは、現在程には発達して居なかつたので、自然と日本風の親し味が加はつて居たのかも知れない、だからこそ私はその当時、よくダンサーに恋をしたものである。

第2巻第8号＝五月号 1934年4月（1934年4月19日印刷／5月20日発行）

表紙 ボール・ルーム・フロリダ

口絵 ダンス・タイガー 美鈴愛子

写真の頁 湊智佐子 荒尾初子 浅路欣也 吉田あい子 中濱喜久子 小柳貞子 鈴木君子
小林春子 加藤菊恵 村田静子 キヤピトルホール〔舞踏場〕 小池四郎・笠原寛

キング〔ダンス〕ホール 尼崎ホール〔ダンス〕タイガー 西宮ホール	
キング〔ダンスホール〕國澤・石橋 キング〔ホール〕梅澤〔清一〕	
花隈〔ダンス〕ホール 金木静子〔ダンス〕パレス	
〔ダンスパレス ダンサー・エキジビション〕琵琶湖〔ダンス〕ホール 加島ざん子	
銀座〔ダンスホール・〕オーケストラ	
銀座〔ダンスホール・〕タンゴバンド〔タンゴ、オーケストラ〕	
国華バンド〔バン、エ、ソン、タンゴ、アンサンブル〕	
巻頭言	1
社交ダンスに関する文献(其十八〔十九カ〕)〔邦文の部(其拾九)〕	村岡 貞 2
ダンスホールの経営法〔は?〕	中屋敷岩夫 6
オールド・ボイス・ダンス競技会私見	細井悟的 8
ボール・ルーム雑感	トキ・カトウ 10
Rumba〔Ⅲ〕(誌上講座)	キスミ・トシミツ 12
ビギンヌに就て〔(一九三四年の流行兒)〕	谷口正夫 14
所謂スミス・スタイルのウォールズの秘訣〔(第二)〕	植田三郎 16
気の利いた変型〔(其の二)〕	阪本〔坂本〕種一 19
シネマ・ランド	22
服装について〔ダンサーに与へる十誡(その三)〕	高橋虎男 24
宝塚会館の日仏親善〔宝塚会館に於ける日仏親善舞踏競技会の優勝カップ〕	25
開館ダンサー	下村濤子 26
〔全関西〕ダンサー自由型選手権〔大会〕	28
ダンス時代社落書後日之譚	黙山人 29
ダンスホールのサービスに就いて	前田不二夫 30
尼崎ホールの〔に於ける〕オールド・ボイス競技会	31
流行の頁〔ページ〕	ネクタイ 32
	口紅〔唇紅〕 帽子
	婦人帽子
長松と折茂	小川一人 36
カフェーの営業政策と新建築の著者と語る	
〔「カフェーの営業政策と新建築」の著者中田政三氏に聞く〕	38
えんま帳 琵琶湖ホール 宝塚会館 国道四ホール 尼崎ホール キングホール パレス	
タイガー 西宮ホール ガーデンホール 生駒ホール 東山ホール 桂会館	
京阪ホール 花隈ホール キヤピトル舞踏場 帝都舞踏場 ユニオンホール	
和泉橋舞踏場 フロリダ 日米ホール 銀座ホール 国家舞踏場 新橋ホール	40
私達の領分	47

第2巻第9号=六月号 1934年5月(1934年5月19日印刷/6月20日発行)

表紙	キングホール 浦川ヨシ子・松下とし子
口絵	尼崎ホール 吉田愛子〔あい子〕
写真の頁	高瀬嘉子 有島さと江〔サトエ、アリシマ〕 ミツコ・イワサキ 岸のぶ子 桂宮子
	山本清子 湊智佐子 藤井とみ子 服部八重子 久保西美恵子 小堀かづ子
	勝美稲子 谷口正夫 キスミ・トシミツ〔喜須美利充〕 坂本種一 和田芳雄

正林壽夫 竹久あい子〔愛子〕 速水千恵子 若林正雄〔キングホール〕
 尼崎ホール 東山ホール〔ダンス〕 タイガー〔京阪ホール〕 平バンド
 ダンス・パレス 西宮〔ダンス〕 ホール 日米ホール〔舞踏場〕 東横会館
 ユニオン〔ダンス〕 ホール

巻頭言		1
社交ダンスに関する文献(其二〇)〔邦文の部(其貳拾)〕	村岡 貞	2
タンゴのリズムに就いて〔就て〕	金森義雄	6
気の利いた変型〔(其の三)〕	阪本〔坂本〕種一	8
所謂ミス・スタイルの〔スロー、〕フロックス・トロツトの秘訣	植田三郎	8
最近の英国ボール・ルームの記事	シスターアウト〔シッターアウトか〕 パレス教授部訳	11
Oligment〔Alignment〕	ビクター・シルベスター 栗谷寛訳	14
〔初夏断片	小鹽高弘	17〕
〔Croon	創案者チャールス・スクリムシヨウ氏 谷口正夫訳抄	18〕
東西ダンス界の権威者に物をきく〔聞く〕会	原 潔 川邊孝二 加藤兵次郎 玉置眞吉 谷口正夫 中屋敷岩夫 岸 正治 岩佐忠朝	本社記者 20
シネマ・ランド		24
裏からそつときく〔聞く〕ボールルームのさゝやき		26
ダンサーに与へる十誡〔(その四) ファンを多く持つこと〕	高橋虎男	28
あづまだより		28
巴里回想	中田政二〔政三〕	30
川口と日米(東京〔ダンス〕ホール接戦異状〔戦線の異状)〕	小川一人	33
〔ダンスタイガーに於ける〕全関西ダンサー社交ダンス選手権大会		34
〔宝塚会館に於ける〕日仏親善〔全日本〕オープン舞踏競技会		35
流行のページ〔メロン エブロン・ドレス ピアノ レコード〕		36
えんま帳〔西宮ホール ガーデンホール 尼崎ホール キングホール パレス タイガー 東山ホール 桂会館 京阪ホール 生駒ホール ダンス雀 フロリダ 和泉橋ホール 日米ホール ユニオンホール 新橋ホール 川崎会館 帝都ホール 川口会館 銀座ホール〕		40
私達の領分		47

第2巻第10号=七月号 1934年6月(1934年6月19日印刷/7月20日発行)

表紙	花隈ホール 加藤菊恵・村田静子	
口絵	ダンスパレス 橋本静子	
写真の頁	吉田あい子 栗山あきの 青木君子 弓岡シヅエ 原田久子 前田幸子 湊智佐子 矩三枝 三條公子 宇都宮英 栗尾弘義 山本正二 笠原寛 西宮〔ダンス〕ホール 花隈ホール 東山ホール 尼崎〔ダンス〕ホール〔琵琶湖ダンスホール〕 〔ダンス〕タイガー〔ダンス〕パレス	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献(其二十一)〔邦文の部(其二十一)〕	村岡 貞	2
〔K・B・K・Rのエキジビション		5〕
バンドブル〔バンドヴレ〕(誌上講座〔その一)〕	深津齋太郎	6

ドイツに於ける競技用ヴァリエーション	金森義雄	10
気の利いた変型 (其〔の〕四)	坂本種一	8
東西ダンス界の権威者に物をさく〔聞く〕会 (つゞき)〔続き〕		
原 潔 川邊孝二 加藤兵次郎		
玉置眞吉 谷口正夫 中屋敷岩夫		
岸 正治 岩佐忠朝	本社記者	14
所謂スミス・スタイルのクエツク〔、〕ステツプの秘訣〔(四)〕	植田三郎	18
僕の見た上海・雰囲気〔われ等は何を取入るべきか?〕	津田又太郎	19
最近の英国ボール・ルームの記事 (つゞき)	パレス教授部〔訳〕	22
踊り場の話題	小川一人	24
客の好きなダンスホールは?	トキ・カトウ	26
流行の頁 海水着・熱帯魚 園芸・パナマ帽 扇子		28
ダンサーに与へる十誡〔(その五) スターになるには〕	高橋虎男	30
金森氏に放送後の所感を聞く		31
七月の運勢		32
シネマランド		34
ダンス界往来〔舞踏界往来〕		36
ゑんま帳 [タイガー パレス キングホール 尼崎ホール ガーデンホール 西宮ホール 神戸方面 京都方面 和泉橋ホール フロリダ 新橋ホール 日米ホール ユニオンホール 帝都ホール 川口会館 ジャパン 銀座会館 国華ホール]		37
私達の領分		43

翻刻 僕の見た上海・雰囲気〔われ等は何を取入るべきか?〕 津田又太郎

上海は東洋の歓楽強であるが、一面謎の都でもある。五月下旬約三週間の予定を以て私は上海視察の旅を志したが、たまたま〔くの字点〕東京で人気を博したベンリット・レビウ (マークス・シヨオ) の一団も同船し、船内は常に湧くがごとき歓語に包まれてゐた。

一概に上海の踊り場と言っても大中小とりまぜ二百五十軒からある。詳しく言へば、キヤバレー式のものゝ五六軒、クラブ式のものゝ五軒、他はすべて我国と同様のシステムによるものである。支那人経営の代表的なものゝうちには「デヤナ」があり「アンパシア」があり「マゼステイツク」がある。何れも三百坪近くのフロアと約三百人のダンサーを擁し日に平均二千四五百人の踊り客を送迎する。そうして酒も飲めればダンサーを客席に呼べもする、一日の売上高三千円乃至五千円といふことになつてゐる。わが国で言へば、銀座のカフエー街のごとく、ホールは殆んど盛り場軒並に櫛比し、名実共に歓楽都市にふさはしい全盛を示してゐる。キヤバレー式のものゝ、ジャズが三回演奏すれば、次はシヨオを演るといふ仕組で余興費だけに一夜二千円を払つてゐるものゝさへある。

上海で最新を誇るパラマウント・ドツクレーズの経営するキヤンドラム・上海最高級ホテルの経営するキヤシエウ上層階級の人の集まるリットルクラブ、やゝ下つてカサーバ等はこれに層するが経営者はロシア人、フィリッピン人、アメリカ人等雑多である。

四川路のビーナスはオールナイトとして知られ、各ホールでラストを踊つた人たちが、尚こゝにも集つて徹夜踊りぬく。

チケットはメキシコの一ドル (一円二十銭) で二枚、三枚、四枚で一様ではない。この点からも日本のホールが差別なく料金を一定にせしめようとするのが如何に不自然かといふことが判るであらう。

キヤバレーはアドミツション (大体二円位) だけで何回でも踊る。飲物はビールが一円、洋酒が一

円二三十銭位、チップは大体二十銭か三十銭が普通だが、キャバレーでは今少しはずむ。

ホール経営で、日本人は多く落第だ、西洋人のキャバレーがこの点断然光つてゐるが、支那人もなかなか〔くの字点〕ぬけ目がない。サービスを見ても西洋人は非常によく行届く。言葉は丁寧だし動作も機敏であるが、日本人はとかく短所ばかりを学んでゐるやうに見える上に、客扱ひも上手でない。

上海のジャズバンド〔ママ〕は皆腕達者揃ひであらうと私は平生考へてゐたが、来て見ると案外で、フロリダのオーケストラま〔よカ〕りもいゝと考へたのは、全体で僅か二組しかなかつた。

ジャズ音楽は万国共通の言葉である以上、従来のごとく人種によつてその給料を上下する偏見も甚しい、これからは須らく本人の腕如何によつて決定すべきであると思ふ。

日本のダンサーは商売意識に乏しいが、上海に居る西洋人のダンサーは日本人以上に商売意識がない。風紀の点の悪いことは、全く日本人などの足許にもよりつけない。ステップに正しさはないが柔軟で踊りよいことだけは特徴と言へるであらう。

ダンサーの衣裳は、西洋人の多いことゝ、裁縫賃の安いこと等から必然相当進歩してゐることゝ思つて居たが、実際は進んでゐない。上海のダンサーはまじめに稼いでゐれば月二三百円位にはなるが、間代、被服代、化粧費等を差引くと結局わが国と大差がない。

客の誘惑も無論相当に激しいから上海にゆく日本人のダンサーは結局売笑をも厭はないつもりで出掛けなくては勤まり難いかも知れぬ。チケットは一枚五十銭、西洋人のナンバーワンの中には月々一千元も稼ぐ豪のものがあつたが珍らしくない。

室内装飾は日本人のホールと大差がない。建物もビルが多いため、外観上とり立て、言ふ程のことはないが、パラマウントだけは、東京の日比谷映画劇場式の作り方で、それに銀座パレスのやうな豪華なネオンを燦然と屋上に輝かせ、ボーイの服装もまことに堂々たるものである。

フロアにはスプリングも相当あるが、パラマウントは渦巻張り、この外グラスフロアの華麗なものもある。日本人経営のホールを見て感じたことだが、彼等は造花を矢鱈に使ひたがる。支那人は風船を用ひる。西洋人のは無装飾に近い上品さでゆく。パラマウントは五千燭光位の電気を使用してゐたが、好感もてた。フロリダでは植木に力を入れてゐるが、上海ではその必要を知つてゐても、フロリダほどにフレッシュな気分を盛つたものは一つもない。最後にわたしは上海の踊り場を見、次に東京の踊り場のゆき方を較べるとき、東京のホールはフロリダを初め余りに堅苦しいのに気がつく。これは東京の街がもつ感じ、即ち首都としての特殊なパーソナリティーもあらう。然し娯楽場にふさはしいゆとりと柔か味とからは、余りにもかけ離れてゐる。これは東京のダンスホールにも、カフェーにも見るやうな乱雑さと俗悪さとを、とり入れろといふ意味では決してない。照明、客席、音楽等に対するより以上の配慮、ダンサーの服装、客に対する態度、特に朗らかな社交場として踊り客の心すべきエチケット、人の踊りを批評しないこと、不快な態度を示さぬこと、自由で肩のこらない自由型のダンス、縦にフロアを広くせしめた感じと、気分本位につとめること等に力を入れたならば、東京のダンスホールは更に数倍愉快で気持ちよい場所となる筈である。

然し、わたしの見た上海ダンス界は以上の如き私感であり、結局雰囲気とダンサーと音楽、この三つの問題であるが、それを如何に生かして用ふるべきかは、私の悩みとする処であり、上海の長所をたゞちに東京に取入れ果して十全の効果を上げ得るかは各々経営者の利用考察に依つて相違する事は云ふまでもない。私は今度の旅行から帰つて来てこれ等の調和に大なる疑問を最も切実に感ぜざるを得ない。

第2巻第11号＝八月〔特輯〕号 1934年7月（1934年7月19日印刷／8月20日発行）

表紙 桂会館（近江琵琶にて写す）

口絵 湊智佐子〔チサコ、ミナト〕（尼崎ホール）

写真の頁	美鈴愛子 久保西美恵子 藤田敏子 吉田あい子 藤井夏子 湯川絹子 小林春子 照井繁子 飛鳥明子 前田富美子 大賀文子 衣田千枝子 下村茂子 呉竹里代 瀧野君子 橋本静子 西宮〔ダンス〕ホール 伊達ミチル 中島洋子 石原〔基義〕・橋爪〔源三郎〕 中屋敷〔岩夫〕・小池〔四郎〕 青木君子〔藤田静子〕 岩田蝶子 生駒ホール キヤピトル 川口会館 川崎〔ダンス〕ホール 帝都舞踏場 ユニオン〔ダンス〕ホール キング〔ダンス〕ホール 花隈ホール ガーデンホール〔ダンス〕 タイガー〔水を恋ひて〕 和気光男〔夏を讃ふ〕 大阪社交ダンス教授所 東山ホール 尼崎〔ホール ジャズ〕バンド 西宮〔ダンス〕ホール	
巻頭言		1
社交ダンスに関する文献(其二十二)〔邦文の部(其二十二)〕	村岡 貞	2
パソドブレ〔パソドヴレ〕(誌上講座...其〔その〕二)	深津齋太郎	6
Alignment〔(続き)〕	ピクター〔・〕シルヴスター 栗谷寛訳	10
ダブルリガーススピンの詳説とその応用〔ダブルリヴァーススピンの解説と其応用〕	濱井 弘	12
カリオカ・ダンス〔「カリオカ」社交ダンスに応用出来る〕	坂本種一	49
近代人は求むタップ〔・〕ダンス	中村 滋	37
偶感	中屋敷岩夫	16
ダンサーに与へる十誠(その六)〔恋愛について〕	高橋虎男	17
舞踏手を医学上にみて	加藤時也〔談〕	20
ダンサー嬢へ	岩橋 伸	21
お客の声	中山英夫	16
夏の〔ダンス〕ホールへ要求す	XYZ	19
二人で(詩)	サン・ナリタ	17
ダンスレコード		19
たまきはる	照井繁子	14
或日の詩人〔或る日の詩〕	桂 洋子	15
ダンス道場見学記(A)	SM生	30
ダンスホールが行く	浅見 薫	27
短歌	瞳 吟子	18
華子の寝言	小林華子	28
シネマランド		22
ダンス界を斬る	小川一人	34
〔実話小説 モダン怪談〕踊る白衣	下村澪子	24
ボール・ルーム展望		40
流行の頁〔魅力 キャンプ 流行〕		42
えんま帳〔国道四ホール 西宮二ホール 神戸四ホール 宝塚会館 京都三ホール 生駒ホール フロリダ 日米ホール 帝都舞踏場 新橋ホール 銀座ホール 和泉橋ホール 国華ホール 川口会館 ユニオンホール 川崎ホール〕		44
私達の領分		48
〔別冊附録〕全国ダンスホール一覧表		
〔生駒ダンスホール 花隈ダンスホール 阪神会館ダンスパレス 西宮ダンスホール 桂会館		

ダイヤ倶楽部 ダンスタイガー 宝塚会館 ガーデンホール 京阪ダンスホール
 尼崎ダンスホール キヤピトル キングダンスホール 琵琶湖ダンスホール 東山ダンスホール
 和泉橋舞踏場 日米舞踏場 東横会館 千葉ダンスホール 市川ダンスホール
 ボール・ルーム川口会館 花月園ダンスホール カルトンダンスホール 川崎ダンスホール
 太平洋舞踏場 ウラワダンスパレス フレンド・ダンスホール ボールルーム・フロリダ
 ファロスダンシングパレス 国華ダンスホール 帝都舞踏場 金港舞踏場 銀座ダンスホール
 ユニオンダンスホール メトロポリタン舞踏場 新橋舞踏場 新京会館
 ボール・ルーム ジャパン その他18のホールの情報あり]

第2巻第12号=九月号 1934年8月(1934年8月19日印刷/9月20日発行)

表紙 尼崎ダンスホール(グランドレビューウ)

口絵 麩山ならゑ(ダンスパレス)

写真の頁 村田静江 三條公子〔矩三枝〕 八木テル子 松本千代喜 野村啓子 湊智佐子
 梶原千代子 加藤菊恵 吉田あい子 河村香鶴 渡里絹子 尼崎〔ダンス〕ホール
 〔最近の〕西宮〔ダンス〕ホール〔御紹介〕 田中鈴子 山本久子 藤本とし子
 ダンスタイガー キング〔ダンス〕ホール 原夏江 緒方テル
 OATS〔大阪アマチュアタンゴ・ソサイテイ〕 岡本時旺〔平井初子〕
 琵琶湖〔ダンス〕ホール 東山〔ダンス〕ホール 〔ダンス〕タイガー
 西宮〔ダンス〕ホール 大阪社交ダンス教授所

巻頭言

社交ダンスに関する文献(其二十三)〔邦文の部(其二十三)〕	村岡 貞	1
タンゴ談議	森潤三郎	6
パソドブレ〔パソドヴレ〕(誌上講座…其〔その〕三)	深津齋太郎	10
ニュー・ダンス〔カウンター リズム(一名裏リズム)〕	阪本種一	30
ダンス界を斬る〔(二)〕	小川一人	14
無遠慮に申上ぐ	不鳴河鹿	16
東京ホール見聞記	安原疏之助	18
ダンサーに与へる十誠〔〔その〕七〕	高橋虎男	20
実地見聞	N投稿生	21
〔ダンサー〕お喋り欄		22
踊子服毒自殺後日譚〔しにそこなつただんさあのはなし〕	赤井花子	24
白日抄	下村濤子	26
秋のひろひもの	默然人	26
流行の頁〔ナイトキャブ パフステック ダンスバック ダンス、ファッションワード〕		28
御挨拶	石橋政次郎	33
若草物語		34
カイエ・ダムール寸評 〔大阪松竹少女歌劇スターデビュー〕	〔H・S生〕	36
僕の作った珍問答	柏 晴江	36
レヴユウ楽屋の四年の途を見て	國友和歌子	37
小鳥が羽をひろげました	雲井八重子	38
姿達に楯を与へて下さい	美鈴あさ子	39

〔本社主催 一九三四年度 クキツクステップオープン競技大会	39〕
〔オール〕 関西婦人社交ダンス選手権大会	40
マーカス・シヨウ〔の来演〕	42
えんま帳〔国道ホール 神戸四ホール 京都三ホール 噂とりどり(くの字点) 帝都舞踏場 ユニオンホール 日米ホール 新橋ホール フロリダ 和泉橋舞踏場 国華ホール 川崎ホール 川口会館 ジャパン 横浜各ホール〕	44
〔チグザク欄 アルゼンチン行 キングのオープン 新京会館 明星ホール 大連会館 営口会館 東亜会館	46〕
私達の領分	

第3巻第1号=十月号 1934年9月(1934年9月19日印刷/10月20日発行)

表紙 加藤菊恵(ハナクマ)	
口絵 藤田和子(敏子改め)(アマガサキ)	
写真の頁 久保西美恵子 中村英子 湊智佐子 吉田あい子 廣田君代 小幡春子 山下徳枝 細田きみ、林美佐、長谷川都志子 花隈〔ダンスホールジャズ〕バンド 梅澤〔清一〕バンド 谷口幹夫〔(正夫改め)〕 尼崎〔ダンス〕ホール キング〔・ダンス〕ホール ダンスタイガー 北浜〔ダンス〕倶楽部 玉置義一 ユニオン〔ダンスホール〕バンド 寺田文雄、〔末廣威雄〕 穎原美継 田中勉、宇都宮英 高橋虎男 石橋政次郎 中屋敷岩夫 石原基義 宝塚会館 西宮〔ダンス〕ホール 橋爪源三郎 小池四郎、笠原寛 生駒〔ダンス〕ホール 琵琶湖〔ダンス〕ホール 吉桑英文、坂本種一 帝都舞踏場 〔キヤバレー・〕フロリダ 新橋〔ダンス〕ホール ユニオン〔ダンス〕ホール 川崎〔ダンス〕ホール 川口会館 和泉橋ホール〔舞踏場〕	
巻頭言	1
〔ダンス界時評〕 現時の舞踏界の諸問題	小川一人 2
ダンス界を覗く	濱井 弘 4
審査員は何を求めてゐるか	坂本種一 6
バンドブレ〔バンドヴレ(誌上講座その四)〕	深津齊〔齋〕太郎 11
タンゴ談議〔(二)〕	森潤三郎 16
乳	月岡 直 18
ペン先ひかる〔光る〕	不鳴河鹿 22
秋とワルツ	丸太木三郎 22
〔北浜ダンス倶楽部発会さる	23〕
流行の頁	永田逸修 24
毛皮の話	マキタ毛皮店 26
シヨール	大丸洋傘〔シヨール〕部 27
〔キヤバレーマルタマ舞踊団 交純社のパーティー	27〕
辻往来	28
ワンダー・バー	28
夏川静江嬢に捧ぐ「京三の死」	進藤英太郎 30
川畑文子と山路文子の社交舞踏	渡邊紅文 34
OSSKの彼と彼女等の時代を劃す	小貞十九一 35

社交ダンス初期の思出	住田冬和	36
秋六大学リーグ、スケーヂユール		36
在奉教師エキンビシヨシヨシ〔模範ダンス会〕		37
社交舞踏の大衆化と教師団体	山口武雄	38
ダンサーに与へる十誠〔(その八) 婦人美の養成〕	高橋虎男	39
全関西ダンス水上競技大会		40
ドレスの色調と化粧法	梅本文子	40
〔学生の取締 東京各ホールバンド新編成〕		41〕
ダンスマニアの喫茶店を歩く記	H・S生	42
青春の花束	鳥江鉄也作	44
〔文芸欄〕泥沼への舞踏娘	守安麗之助〔守安俊 画〕	54
秋と女	原阿佐緒	57
〔イタリー カーニバル 匈国が新令〕		59〕
〔奉天便り〕		60〕
えんま帳〔国道ホール 京都三ホール 神戸ホール 生駒ホール 大連会館 奉天各ホール 東京 川口会館 和泉橋 ユニオン 銀座ホール フロリダ 帝都舞踏場 西宮ホール タイガー〕		61
編輯後記		66
〔尼崎ダンスホールに於ける加藤兵次郎氏の送別舞踏会〕		67〕

第3巻第2号=十一月号 1934年10月(1934年10月19日印刷/11月20日発行)

表紙 久保西美恵子(ハナクマ)		
口絵 美鈴愛子(タイガー)		
写真の頁 山本徳枝 吉田あい子 山本清子 野村タミ子 小林春子 飛鳥明子 向谷玉枝 田中綾子 川邊澄子 キングホール 中本マサ子〔マサエ〕 西宮ホール〔スター 吉田喜代子 池田貞子 小島ヤス子 香月信子〕 木村みね 城野千代乃 木村壽賀子 〔水の江瀧子〕 キング〔ホール〕 少女バンド キング〔ホール〕 教授部 キングホール 花隈〔ダンス〕 ホール 琵琶湖ホール 越智千枝子 大町弘子 タイガー〔代表的ダンサー〕 〔全日本〕クキツクステツプ競技〔大〕会 尼崎〔ダンス〕ホール 西宮〔ダンス〕ホール〔ダンス〕タイガー 衣田元常 東亜会館バンド〔シズメ・ウヌ・アニーモ・タンゴオーケストラ〕 芝園クラブ〔倶楽部〕 帝都舞踏場〔川崎ダンスホール〕 川崎ジャズバンド〔モリカワ・ヒサオ〕 〔ボール・ルーム〕川口会館		
巻頭言		1
ダンス随想	國枝史郎	2
前髪〔若き日の歌〕	原阿佐緒	3
〔奉天舞踏界〕		3〕
〔創作〕歪んだ風景	宇都宮英	4
〔故郷を追はれて〕	サン、ナリタ	7〕
〔ナンセンス読本〕恋愛技術説法	守安麗之助〔麗之介〕	8
ダンサー諸嬢へ〔! 私は何を望むか〕	トキ・カトウ	12
秋空の下で〔(コント)〕	林 道雄	13

ダンサーに与へる十誠 [(その九) 女の花時は十日]	高橋虎男	14
ダンスホールと余興	四谷炳鏘	15
黒騎士		16
勝利者 [勝利の朝]		16
ダンス界を斬る	小川一人	18
舞踏場と教師団体は何処へゆく [行くか]	西 榮光	21
エルステ・タンツ [・突如] 現はる	夏目吉之助	24
[ダンス問答]	濱井 弘	26]
テンポ・ルバートとシンコペーション	金森義雄	29
ブルースの研究	上田敬三	32
タンゴのヴァリエーション	笠原 寛	35
[1934年度の] シーズンスクエツクステップ	阪本種一	36
[一九三四年に於ける] タンゴの標準ヒガー [ヒイガ]	上田耕作	40
[全日本オープン選手権大会]		43]
流行のページ [一九三五年 流行の予想 (御婦人服)]	永田逸修	44
[錦繡の秋・豪華版 本社主催全日本] クエツクステップ [競技] 大会後記		46
OBクラブ [関西オールドボーイ倶楽部]		48
[三部合同エキジビション]		48]
ダンス界消息		49
北浜クラブ [北浜ダンス倶楽部会則]		50
[宇都宮英後援会生る]		50]
えんま帳 [(東京の部) 帝都舞踏場 新橋ホール 和泉橋ホール 川口会館 川崎ホール 銀座ホール フロリダ ユニオンホール 日米ホール 芝園倶楽部 ジャパン (関西の部) 国道六ホール 琵琶湖ホール 京都三ホール 神戸ホール 生駒ホール]		51
[タインゲイト・スミス著 `新興社交舞踏教程、発行さる		57]
[ダンス往来]		59]
編輯後記		59

第3巻第3号=十二月号 1934年11月 (1934年11月19日印刷/12月20日発行)

表紙 浅野久子 (ニシノミヤ)

口絵 幾井鶴枝 (ガーデン)

写真の頁 瀧野君子 小島ヤス子 [やす子] 瀧野珠子 加島きみゑ 馬嶋好子 丘弘子
吉原美代子 樋口君江 吉田あい子 隅田登志子 麩山ならゑ 飛鳥明子 三原義子
市原政恵 中島洋子 原依子 田中綾子 加藤英子 膳脂しのぶ 榛名せい子
ダイヤクラブ [倶楽部] 石橋政彦・吉桑英文 尼崎 [ダンス] ホール
キャピトル [舞踏場] [ダンス] タイガー キング [ダンス] ホール
[ダンス・] バレス 花隈 [ダンス] ホール [ダンス] タイガー
ブロードウェイ [・ダンスホール ジャズ] バンド [の陣容] 田中勉
岩本三郎 川崎 [ダンス] ホール 川口 [会館ダンス] ホール
和泉橋ホール [舞踏場]

巻頭言

1

〔連続小節〕 踊る舞踏娘	北林透馬	2
恋愛特急	宇都宮英	6
〔連載小説（第一回）〕 蒼白い青春	大塔寺謙	12
〔クリスマスローマンス〕 港の雨	下村澪子	17
社交ダンスの正しき発達を阻害する勿れ	水上嘉一郎	22
〔ダンス界時評〕 1934年を送る	小川一人	26
クリスマスの詩	麩山ならゑ	48
ボストンエジタシオン考〔(其の一)〕	森潤三郎	30
ダンスチャーターリズムに躍る人物〔藤村浩作氏小論〕	林 道雄	34
朱金昭		36
歓呼の嵐		36
これがアメリカ艦隊		38
ハリウット〔ド〕パーティ		38
星に祈る踊子〔の話〕	水谷 滋	40
クリスマス	美鈴愛子	40
ダンサー警視庁へ陳情		42
ブルースの研究〔(その二)〕	上田敬三	43
ルンバ	岡本時旺	46
ダンサーに与へる十誡〔(その十) 総論〕	高橋虎男	49
〔想ひ出	上田宇一	50〕
えんま帳〔尼崎ホール キングホール パレス タイガー ガーデンホール 西宮ホール 花隈ホール キヤピトル舞踏場 ダイヤ倶楽部 桂会館 京阪ホール 生駒ホール〕		51
編輯後記		56

第3巻第4号＝新年特輯号 1934年12月（1934年12月19日印刷／1935年1月20日発行）

※奥付は第3巻第3号と誤記。

表紙 タイガー 美鈴愛子

口絵 花隈ホール 久保西美恵子

写真の頁 藤田和子 山本清子 藤田静子 宇根政子 吉田愛子 中島きみ子 小島やす子
青柳京子 小林春子 湊智佐子 永谷文子 廣田君代 前田富美子〔富美子〕、佐々木静子
一木恭子 望月静江 野村好男 ジョニージャズ〔オーケストラ〕 宇都宮英
吉桑英文、石橋正彦〔政彦〕 梅澤清一 上田耕作〔谷口幹夫〕
尼崎ダンサーズ・ハワイヤン・ジャズ〔ジャズ〕バンド 尼崎〔ダンス〕ホール
ダンスタイガー キヤピトル〔舞踏場〕 キング〔ダンス〕ホール 中屋敷岩夫
〔ダンス〕パレス〔生駒ホール〕 ガーデンホール 橋爪源三郎 西宮〔ダンス〕ホール
高橋虎男〔大連会館〕 依田元一 帝都ホール〔舞踏場〕 銀座〔ダンス〕ホール
和泉橋ホール〔舞踏場〕 川口会館〔ダンスホール〕〔ボールルーム・〕オリエンタル
西宮〔ダンス〕ホール

巻頭言		1
ジゴロを廻る	宇都宮英	2
〔連載小説（第二回）〕 蒼白い青春	大塔寺謙〔米田貞喜画〕	8
〔モダンナンセンス読本〕 恋愛技術説法	守安麗之介	12

〔秋の徒然	上田香月	16〕
流行の頁	永田逸修	17
ダンスに於ける婦人の役割	濱井 弘	19
ダンス随感	高松太郎	20
生れつきと宝石〔生れ月と、身につける宝石について〕		20
興廢の岐路に立つダンス界	中屋敷岩夫	21
チクザク〔チツクサツク〕の情	小幡康吉	22
年頭の感	吉桑英文	23
批評的精神を論じ村岡氏に与ふ	川北長利	24
デイム〔泥酔夢〕		28
銀嶺に帰れ		28
ボストンエジタシオン〔〔其の〕二〕	森潤三郎	30
シーズンワルツ〔by Victor Silvester〕	坂本〔阪本〕種一	34
1935年度のシーズンス・スロー〔by Victor Silvester〕	坂本〔阪本〕種一	38
桃色事件ありやなきや〔在るや無きや〕	西 榮光	40
京都ダンス界の危機	保利 須	42
審査員は何を標準〔?〕	岩橋 伸	46
正しき社交ダンスの發達を阻害する勿れ〔(続篇)〕	水上嘉一郎	48
有閑マダムよ、ご自愛あれ〔御身御自愛あれ〕	竹田節子	51
えんま帳〔横浜 東京 関西〕		52
編輯後記		54

1935 (昭和10) 年

第3巻第5号=貳月号 1934年1月 (1935年1月19日印刷／2月20日発行)

※奥付は第3巻第3号と誤記。

表紙 尼崎ホール 吉田愛子	
口絵 ダンスタイガー 湊智佐子	
写真の頁 土井淺子 森小夜美 麩山ならゑ 島岡〔嶋岡〕久子 大野あき子 金丸絹江 森千代子 川崎とし子 川邊澄子 中田勘次郎 キング〔ダンス〕ホール 西宮ホール 光田悦之扶 ダンスタイガー 尼崎ホール 西宮〔ダンス〕ホール	
巻頭言	1
〔三百代言的遁辞を駁し〕川北長利氏の珍説を難ず	村岡 貞 2
国道の異変と誤まれる経営策	西 榮光 6
ダンス界の時評	小川一人 8
ダンス否認論批判〔主として高島米峰氏所説を論ず〕	濱井 弘 10
ダンス界アラベスク	林 道夫 12
業界展望〔(一)〕	藤山於菟路 14
〔中原氏の尼崎入り〕	15〕
舞踏界の明朗性をこそ	柴田重孝 16
〔ダンス〕教授所は何処へ行く〔?〕	長谷川重文 18

〔川崎ホールの活躍	19]
朝鮮ダンス異風景	R生 20
ゼ・シーズンズ、タンゴ〔by Victor Silvester〕	坂本〔阪本〕種一 23
〔各地ホール街	25]
タンゴのオープンプロムナード〔プロミナード〕の研究	上田敬三 26
急告	下村澪子 29
ボストンエヂタシオン〔・エジタシオン〕考〔(其三)〕	森潤三郎 30
〔連載小説(第三回)〕蒼白い青春	大塔寺謙〔作 米田貞喜画〕 34
〔尼崎ダンスホールを継承	西宮ダンスホール 安原疏之助 38]
〔キャバレー赤玉にデビュー	39]
ホットドッグ〔ドック〕ナンセンス	宇都宮英 40
〔尼崎ホール引退御通知	中屋敷岩夫 41]
〔入社御挨拶	坂本三藏 42]
舞踏の声	45
〔寒牡丹	46]
編輯後記	46

翻刻 朝鮮ダンス異風景 R生

(一) この拙ない一文を以て関西唯一のダンス時代の或る頁をさいて朝鮮のダンス界の大略を述べる、社交ダンスは一九三〇年以後我国に再度のダンス熱を起し今や社交裡における一つのエテイケットではなくして常識と考へられる迄なつた。殊に東都においては川口、川崎等の新築ホール、関西においては京都の三ホールの公認、又別府のホール等、而してどのホールを眺めても殊に尼崎ホール、パレス等、その他にしても(最も僕は学生時代からこゝによく行つたものだが)改築増築と云ふこの現状は不言のうちにダンス熱の興隆を物語る、殊に近年このダンスの研究心が盛んになり書籍等も多く出、又団体(例へばMW、東京公認又教師団体或ひは大阪A、T、S、エルステタンツ)等が出来各レッスン場その他では多くのコムベチターが来るべきコムベチションをねらつて居る。

又最近では映画からのシヨウ化されたダンス(ボレロのラフテロ、クカラチャ、カリオカ、ザ〔ママ〕ンバ、スパイツシユ、タンゴ)を盛んにやつて居る。

(二) 官治行政の本案たる総督府が京城に北漢山を背にしていかめしく存在して居る、治安取締の大元締池田警務局長はかつて京都大阪等において警察部長として敏腕をふるひ活躍した人だ。

当局のダンスに対する政策は厳然たるもので之れを絶対禁止だ。

公認ホールは勿論レッスン場等は勿論駄目だ。

而らば如何なる方法で朝鮮においてはダンスが行なはれて居るか。

昨年(十月)東京の市村氏がボレロのラフテロを以て来鮮し番外にルンバの曲をかけて、クカラチャとブラクボタム、フリスコカップ、其の他のクラスシユダンスをまぜて踊つて見せた。

舞台が活動写真館なので床が悪く又せまかつたので気の毒だつた。

これは朝鮮における初めてのデモンストレーションと云ふてよからう(たとへそれがシヨウ化されても)

この時見に行つた四五人の連中が僕にこんな質問をした、「君は踊る時姿勢を正しくなるべく足を真直ぐにするのだと云つたが市村氏の番外の踏りは全然異ふぢやないか?〔J〕「あれは独特なクラツシユな踏みだよ」と僕は答へた。

(三) A、朝鮮においてダンスをやる連中、四大都会、京城、平壤、釜山、大邱だが他の慰安娯楽機関

はかなり発達して居るがダンスは対立的に進歩しないのは不思議だ。

だが非合法的に、喫茶店、料理屋、カフェー等において盛んにやつて居る。

サラリーマン連中、所謂モダンボーイ連中は喫茶店に集つてダンスをやる、こゝにおいてダンスが論じられ踏るのだ、パトナーは其処に居合せた妓生がなる、朝鮮においては未だ在来の道德観念から決して素人の婦人等はあまり喫茶店に来ない、京城の鍾路(朝鮮人街の最もにぎやかな道)の喫茶店、モナミ、メキシコ、シックスナイン等の喫茶店、大邱では百合喫茶店等がその代表的なもので、カフェーもある、現在朝鮮のダンス界は総じて初歩の段階否曲げられた即ち朝鮮独特のダンスが盛んに行はれて居る、

上海奉天あたりのクラツシユダンスと日本で行はれて居る理論的な正確なダンスの混合だ。

これは東都あたりに留学して居る学生達が休暇に帰鮮し短日の間彼等の踏りを妓生や女給に教へる、この曲解から生れたダンスだ、又京城あたりになると比較的上海あたりの人々がよく来るので従つて混合になる、僕も先日上海のブルーバードに居「ママ」つてダンサーと踏つて見たがかなり勝手が異ふ、所謂キヤバレエ式の踏りだ すぐなれた踏る様になつたが、喫茶店で踏るのだから床(ホールで見る)はないのだ、コンクリートで踏るか或るひは靴をぬいで畳の上か温突の上で芸者や妓生を呼んで酒場の興として蓄音機をもちだしてやる。

せまい場所だからウオークは出来ず、ワンステツプの曲をかけてボックスを踏む位が関の山だ。

それで彼らはダンスはこんなものだとのみこんでしまふ、かへつて僕たちが踏ると異端視される傾向がある。

主に行はれて居るFigは図の如く〔挿図は省略〕

これで上体をうんとふる、クラツシユダンスで方向線などととんちやくない。スローは全然踏らず、ワルツでもブルースでも皆これで解決する、場所がせまいのでホットトロット、クイツクステツプは想像できない、而し昨今においてはタンゴ、其の他を踏る人も出来て来た、又レツスン場のないこと、パトナーのないことが一番朝鮮において社交ダンスが「ママ」発達に有害だ。

一般に独特の形を以て進んで行き正確なボールルームダンスに対して認識不足の状態にある、而し全部とは云へない僕の知合の人で立教出だがA氏と云つて東劇でかなりならした人、又学生連中で昔うまかつた人が居る、これ等の人がまゝ指導的な立場にたつてやつて居る、クルーン、ランチエラー、ニュールンバ等をアレンジしたらこの朝鮮の現在の状態において面白いダンスが出来ると思ふ。

パートナーでは沈君と云つて銀座ホールでダンサー生活をやつたが現在京城において妓生をやつて人気をあつめて居る、男の人でも旨いと思つた人はかなり居る 釜山にはステージをかつてやつた人が内密で教へて居る相だが僕もいつて見たが悲観した、僕もダンスをやりだして足掛六年になるが高校、大学が京都だつたのでよく国道あたりに出かけて踏つた、卒業後帰鮮して家の手伝をして居るがこんな状態では唯々妓生相手では二三回踏ればこちらから御免蒙りたいものだ、年に二三回は東都、関西に(家と学校関係の)用事を出かけて行くがこんなときは毎晩おどつて日頃の憂憤「ママ」を晴す、厄ヶ崎ホール小林春子や藤田、飛鳥君等の様な踏り手が一度朝鮮まで遠征してはどうかね 皆んなが大歓迎、驚くだらう、先日安田銀行に勤務の京大同窓生が僕の家遊びに来た序に料理屋でダンスをやつたが席に出た芸妓曰く「私し尼崎でダンサーだつたの 当地は皆下手で困るね、タンゴは踏らないの」僕達内心の笑ひに腹痛を起しさうなのをこらえて「タンゴは何が一番むつかしいかね」と「ママ」皮肉に友人が聞いたなら「さあね!!、ナチュラル、タンゴが一番むつかしいでせう」とナチュラルターンでなくてタンゴですぞ、ワンステツプを二三回朝鮮式に踏つて酒をのんでかへる 正式に出来るのは年に一度、京城の朝鮮ホテルでクリスマスイブの時にホールでやる、主に外人が多い。今度昨年十二月銀座ホールで見た、山市太平氏の踏り、宝塚でやつた国際舞踏教授聯盟のデモ、パレスのMWのデモは見ばえがあつた、こんな随筆的なことをかきながら三月渡日迄踏れないのを考へるとち

よつと淋しい、陽春には又パレスのバンドネオンでも聞きながら踏れるだらう。
終りに玉置真吉氏に「ダンス用語邦訳の完成をいのる」

(自宅にて昭和十年一月四日)

第3巻第6号=未発見

第3巻第7号=貳月号 1935年3月(1935年3月19日印刷/4月20日発行)

※奥付では昭和9年3月19日印刷と誤記。

〔目次〕

表紙	尼崎ホール 藤田敏子	
口絵	ダンスタイガー 美鈴愛子	
口絵	ダンスパレス 向谷玉枝	
写真の頁	花岡三枝 吉田愛子〔あい子〕 湊智佐子・中島洋子 坂元まさ子 三浦義子 加藤久子 中島きみ子 川崎奈良子 金木静枝 渡里絹子・木幡春子 琵琶湖ホール・京阪ホール〔喫茶〕タイガー 岡本時旺〔平井初子〕 八尾清〔川邊澄子〕 田中秀幸〔前田啓子〕 尼崎ホール〔名花群像〕 キング〔ダンス〕ホール 花隈ホール〔ジャズバンド〕 ミヤケ・タンゴ・アンサンブル ガーデンホール 帝都舞踏場 尼崎ホール 花隈ホール ダンスパレスジャズバンド 西宮ホール〔のヤンチャ四優士〕 ダンスタイガー 田端薫 東山ホール	
巻頭言		1
ヘンリージャック〔ジアック〕氏よりの警告〔(同氏よりの直接私信に依るもの)〕	緒方正克	2
ダンス界時評	小川一人	6
ボストン・エジタシオン考〔(其の)五〕	森潤三郎	9
ダンス界アラベスク〔(その三)〕	林 道雄	12
帝都舞踏場情報		12
フレテーション・ウオーク	上田耕作	14
業界展望〔(二)〕	藤山於菟路	16
舞踏諸問題	西 榮光	18
焦燥と焦慮を清算して	柴田重孝	20
〔テケツト〕特別勸興税を何と見るか		24
佃二郎論	XYZ	28
四ホール聯盟のこと等々	阪本〔坂本〕美津雄	30
〔京都〕別府ホールを廻りて〔訪れて〕	〔本社記者〕	32
舞踏の声		32
全日本オープン英国風タンゴ競技会〔選手権大会記〕		34
〔連載読物〕競技〔大〕会の前後〔(一)〕	下村澁子〔米田貞喜画〕	36
えんま帳		39
編輯後記		45
〔奥付のあとに、アルゼンチンを訪問した加藤兵次郎とロムートらの記念写真あり。〕		

第3巻第8号 = No.5 1935年4月 (1935年4月19日印刷 / 5月20日発行)

※奥付では昭和9年4月19日印刷と誤記。

表紙 タイガー 湊智佐子

口絵 西宮ホール 丘弘子

写真の頁 小林春子 隈田登志子 松風波子 西川寅之助〔山中八重子〕 梅澤清一
 芝辻賢三〔ジャズバンド〕 ソシアル〔ホール〕バンド 高橋虎男〔氏的美徳〕
 〔ダンス〕タイガージヤズ〔バンド〕〔シヤンクレール経営者〕森敏雄
 〔ダンス〕タイガー 〔ダンス〕パレス 尼崎ホール 花隈ホール
 〔東山ダンスホール〕シヤンクレール 西宮〔ダンス〕ホール 東亜会館

巻頭言		1
山市太平氏対シー〔・〕ムーア氏		緒方正克 2
ダンス界アラベスク〔(その四)〕		林 道雄 4
帝都舞踏場情報		4
〔金沢だより		5〕
ダンス界白眠〔白眠〕抄		榛名静夫 6
東都舞踏〔人雑感〕		國枝史郎 10
業界展望〔〔第〕三〔稿〕〕		藤山於菟路 12
ダンス界時評		小川一人 15
〔東京の噂 (一)		17〕
ボストンエジタシオン考〔(其の六)〕		森潤三郎 18
〔連載読物〕競技〔大〕会の前後〔(二)〕		下村滯子〔米田貞喜画〕 20
ダンス漫画		24
ダンサー殺人事件(1)〔(禁上映上演)(其の一)〕		國枝史郎〔龍造寺膽画〕 26
〔東京の噂 (二)		27〕
舞踏へ〔人カ〕の足跡		28
〔人気のある訳		芹澤志馬 28〕
〔恋とはこんな物		高木吞平 29〕
信仰に関する座談会	〔出席者 文学士 大河戸龍秀師 ダンサー タイガー 前田静枝 パレス 宮下富三子 同 坂元まさ子 キング 丘はるみ 尼崎 吉田あい子 同 小林春子 ガーデン 中島きみ子 本社記者〕	30
東京の噂〔(三)〕		35
〔特別〕勸興税の波は渦巻く		36
舞踏の声		39
編輯後記		39

第3巻第9号＝六月号 1935年5月（1935年5月19日印刷／6月20日発行）

※奥付では昭和9年5月19日印刷と誤記。

表紙 吉田あい子（アマガサキ）

口絵 中島洋子（タイガー）

写真の頁 飛鳥明子 橋本アキ子 村田美津子 島田初枝、木幡春子

ガーデンダンサー〔三好タイ子、城野千代の、中島きみ子、中西静子〕

照井繁子 東城チサオ 土井光子、阪口悦子 青木マリ子 中元當枝

鳥居久榮 佐々木君子 津川〔さかゑ〕、三好〔絹枝〕 桑原次子 竹川アサ子

丘ますみ 辻ちゑ子 武田〔武内〕 忠雄 エルステ、タンツ〔の優勝記念〕

村岡咲子 辻川夏子 アマガサキ〔尼崎ダンスホール〕 石橋政次郎

懸賞 タイガー〔・ジャズ〕バンド 西宮ダンサーバンド〔西宮麗人楽団〕

キャピトル〔舞踏場〕 鈴蘭〔ダンス〕ホール〔ダンスタイガー〕

西宮〔ダンス〕ホール 花隈〔ダンス〕ホール 東山〔ダンス〕ホール

巻頭言

近世舞踏家気質〔ひとのまねをするおどりで〕	緒方正克	2
バンドマンの内幕は斯うだ	榛名静夫	4
タンゴのヴ〔ア〕リエイション	大鹿 章	6
東都舞踏人雑感（二）	國枝史郎	8
〔京都ニユウス		9〕
〔泉都〕別府ホールを訪れて（二）	〔本社記者〕	10
〔満更でなし	赤木好天	11〕
〔女なればこそ	田中健坊	12〕
フオートニュース		14
ジヨーテラフトのルンバを観て	市村讓次	14
我國民性の優越さと社交ダンス	吉桑英文	16
信仰に関する座談会〔(二)〕	〔出席者 文学士 大河戸龍秀師 ダンサー タイガー 前田静枝 パレス 宮下富三子 同 坂元まさ子 キング 丘はるみ 尼崎 吉田あい子 同 小林春子 ガーデン 中島きみ子 本社記者〕	18
〔連載読物〕競技大会の前後〔(3)〕	下村澪子〔龍造寺膽画〕	21
ダンサー殺人事件（2）〔(禁上映上演)（其の二）〕	國枝史郎〔龍造寺膽画〕	24
舞踏界の神経をつく〔(神経に触れる)〕	今井留次	28
えんま帳〔タイガー パレス キング アマガサキ 西宮二ホール 神戸四ホール 宝塚会館 生駒ホール 桂会館 鈴蘭台ホール〕		30
ダンス界企業の清掃〔(改革の急務 業界展望 第四稿)〕	藤山於菟路	34
〔俄然！ダンス界の寵児 サンブラチナの流行		35〕
グランドデモ〔(インストレーション)〕の印象記	柴田重孝	36

龍舌ラン・編輯後記	38
漫画のページ	15

第3巻第10号＝七月号 1935年6月 (1935年6月19日印刷／7月20日発行)

※奥付では昭和9年6月19日印刷と誤記。

表紙 中濱喜久子 早川美子 (タイガー)	
口絵 吉原美代子 (ニシノミヤ)	
写真の頁 川崎美子 木村喜代子 吉本藤枝 京阪ホール [の名星] 大八木一正 生駒 [ダンス] ホール [依田元常] キング [ダンス] ホール [ダンスパレス] [ダンス] タイガー 西宮ホール [ノンタイ ノンコート 気楽に踊れるニシノミヤ] 尼崎 [ダンス] ホール [ダンス] タイガー 花隈 [ダンス] ホール 東山 [ダンス] ホール [※目次に立項のフロリダバンドは記載なし]	
巻頭言	1
東都舞踏人雑感 [(三)]	國枝史郎 2
銷夏抄	朝島 香 5
ダンス界時評	小川一人 6
怖ろしき認識の二三の札	榛名静夫 8
龍舌欄	8
ブルースと皮肉	緒方正克 10
アトラクションの企画の問題 [業界展望 第五稿]	藤山於菟路 12
英帝国舞踏教師協会公認ニウ・バリエーション [解説]	山市太平 14
ダンサー殺人事件 [(禁上映上演) (其の三)]	國枝史郎 [龍造寺膽画] 20
[連載読物] 競技大会の前後 [(4)]	下村澁子 [岡本ときを画] 24
極彩色の舞踏娘	金澤平馬 28
[そねめそのめ]	羽田猪之吉 29]
ダンスパレスのデモ概評 [ダンス・パレスに於けるデモンストレーションの概評]	32
ダンス往来	32
[オール関西] 婦人社交ダンス選手権大会	34
[パレスの清涼 華族の令嬢が舞踏教師に ほか]	35]
舞踏うらおもて	西 榮光 36
編輯後記	38

第3巻第11号＝夏季特輯号 1935年7月 (1935年7月19日印刷／8月20日発行)

※奥付では昭和9年7月19日印刷と誤記。

表紙 小林春子 (アマガサキ)	
口絵 [水都 大阪]	谷口氏撮影]
写真の頁 [ワーナーのレヴュー映画に出演せる] ローマン・エンド・ロジタ 澤田千代子 尾原綾子 中島きみ子 飛鳥明子 中島洋子 久保西美恵子 小林華子 茅崎潮 南城 [東城] チサオ 瀧薦子 原田久子 小島ヤス子・瀬尾信代・渡邊静江 東山早苗 曾我直子 キン・セイ 太平洋舞踏場	

アマガサキ〔尼崎ホール〕 教授部 西宮〔ホールのダンサー〕 競技会	
踏交社〔上野洋太郎〕 生駒〔ダンス〕ホール〔ダンス〕パレス	
花隈〔ダンス〕ホール 西宮〔ダンス〕ホール 東亜会館〔ダンスホール〕	
〔ダンス〕タイガー ガーデンホール〔京阪ダンスホール〕	
尼崎〔ダンス〕ホール キング〔ダンス〕ホール キヤピトル〔舞踏場〕	
東山〔ダンス〕ホール 琵琶湖〔ダンス〕ホール 鈴蘭〔ダンス〕ホール	
巻頭言	1
ダンス界時評	小川一人 2
舞踏街の眼目を打診す〔る〕	西 榮光 4
〔街の〕虚栄が生んだメイ・牛山〔の場合〕	野 茨子 6
ルンバ〔(RUMBA)〕の語源	緒方正克 8
狐歩舞〔フオックス・トロット〕	〔朝鮮〕村松丸 8
〔スロー、〕フオックストロットの誤謬に付き〔ついて〕	〔ヘンリー・ヂヤックス〕布村清〔意識〕 10
〔八月名ホール〕アトラクション	10
〔ソーシャルホール経営者杉野氏の従弟駒井氏近く故国へ	11〕
住〔往カ〕時舞踏界追憶譚〔むかしのホールのおもひでばなし〕	中屋敷岩夫 12
踏界G・P・U	志賀 彰 14
ダンサー〔・〕海〔・〕チケット〔・〕舞踏場〔鈍刀の錆（第一稿）〕	藤山於菟路 16
ペエテルの歎び 火の鳥 映画欄	18
舞踏界の向上に邁進したい	高橋虎男 20
業者の立場から	石橋政次郎 21
歪められた恋	安原疏之助 22
〔変つた催し物	22〕
舞踏娘の生活スナップ	24
レコード界	26
夏の空と水	27
〔連載読物〕競技〔大〕会の前後〔(4)〕	下村滯子〔岡本ときを画〕 28
ダンサー殺人事件〔(禁上映上演) (其の4)〕	國枝史郎〔龍造寺膽画〕 32
郊内〔郊外〕案内	36
人生案内〔家庭教師ノ巻	中江正美画 37〕
ゑんま帳〔尼崎ホール キングホール パレス タイガー ガーデンホール 西の宮ホール	
生駒ホール ジヤズバンド 宝塚会館 京阪ホール 神戸ホール太平洋ホール	
メトロポリタンホール ファロスホール オリエンタルホール 金港ホール	
花月園ホール シヤンクレール 東京の噂 ユニオンホール 帝都舞踏場	
新橋ホール〕	38
龍舌ラン	49
〔編輯後記	49〕

第3巻第12号=九月号 1935年8月(1935年8月19日印刷/9月20日発行)

※奥付では昭和9年8月19日印刷と誤記。

表紙 川崎美子 都問百合子(キング)

口絵 吉本藤枝 (キング)

写真の頁 小林華子 佐々木君子 大村美代 橋本アキ子 嶋田ヒサエ 浦川ヨシ子、マサエ
 城木ナ、子 萩原順子 山口茂子 キングホール〔創業五週年記念〕
 石橋政次郎 吉桑〔英文〕、石橋〔正彦〕〔キングホールジャズバンド〕梅澤バンド
 〔キング〕ジャズシンガー〔丘ますみ 瀧美知代〕キングホール 中川たつ子
 明石孝榮 渡邊静江 大連会館〔東恒次 玉置義一 市村譲治・山市太平招聘特別公演〕
 西宮バンド〔シゲヤマ&ヒズ ニシノミヤ トラバドアーズ ナカガハ&ヒズ タンゴ
 アンサムブル〕尼崎ホール〔西宮ホール〕〔ダンス〕タイガー 花隈ホール
 〔帝都舞踏場〕〔大鹿實〕

巻頭言	1
ダンス界時評	小川一人 2
芥川賞を受けた石川〔達三〕君	4
〔社会時評〕翠川秋子の情死事件	野 茨子 5
〔踏界人事	7〕
キング創業五週年〔を迎へて〕	石橋政次郎 8
キングホール沿革史	吉桑英文 9
キングホール印象記	本社記者 12
〔鈍刀の錆2〕音楽家アトラクション芸術家に申上げ〔ます〕る	藤山於菟路 14
和泉橋の名花二輪	17
ワルツ合戦	18
踏界雑感	濱井 弘 20
踏界G・P・U	志賀 彰 22
〔秋窓漫筆〕足と女と恋愛	小林華子 24
〔連載読物〕競技大会の前後(5)	下村澪子 28
〔人生案内2 家庭教師ノ巻	中江正美画 27〕
〔帝都舞踏場情報	28〕
ダンサー殺人事件〔(禁上映上演)(其の5)〕	國枝史郎〔龍造寺膽画〕 30
〔(郊外案内)〕秋色を探ねて	35
〔流行歌詞	35〕
〔舞踏界往来	36〕
編輯後記	36

第4巻第1号=拾月号 1935年9月(1935年9月19日印刷/10月20日発行)

表紙 吉田アイ子(アマガサキ)

口絵 中島洋子(タイガー)

写真の頁 明石孝榮 前田静江 市原千恵子 小林春子 高橋隅子 十倉艶子 木本マサエ
 伏見美子 泉千枝子 キング〔・ダンス〕ホール〔ダンス・〕パレス 尼崎ホール
 帝都舞踏場 琵琶湖〔ダンス〕ホール 岩見泰 〔ダンス・〕タイガー
 〔ミス・キヤウト・舞踏教授所〕北野澄子 〔ボールルーム〕シヤンクレール
 大連会館 安原疏之助 高橋虎男 石橋政次郎 キヤピトル舞踏場 橋爪源三郎
 〔ダンス〕パレス 石原基義 生駒〔ダンス〕ホール

巻頭言	1
-----	---

ダンス界時評	小川一人	2
踊場憤慨録	榛名静夫	4
続特別勸興祝問題	西 榮光	6
〔六号事評〕近代女性の心理	野 茨子	8
昭和十年前半期の帝都舞踏界〔帝都舞踏の回顧〕	栗谷 豊	10
最近の関西舞踏場の風景	点猫人	14
〔鈍刀の錆3〕企業批判一〔へ〕打診の小論その他	藤山於菟路	16
大連方面のホール現状	XYZ	18
〔人生案内3 家庭教師ノ巻〕	中江正美画	19]
踏壇 GPU	志賀 彰	20
流行歌詞		22
タイガーダンサーニツクネーム〔の御紹介〕		23
〔コント三題〕		
結婚と踊り子	アイ、ヨシダ	24
婦人客とダンサー	シズ公	26
食慾と踊り子	石川初子	28
踊子噂聞書帳〔おどりこのわるぐちをかく ほーるのーむ・けいはんの巻〕	左方一夫	30
〔映画〕ロバータの踊り	大鹿 章	32
〔歩けば踊れる〕社交ダンスは平易なもの	中原恒男	34
〔ダンス〕京阪ホール懸賞		35
今〔秋〕流行の紳士用品		36
帝都舞踏場情報		37
創刊四週年を迎へて	下村霽子	38
ゑんま帳〔国道四ホール 西宮二ホール 生駒ホール 桂会館 京阪ホール 東山ホール 琵琶湖ホール〕		40
異国情緒の空気	〔齋藤一坊〕	43
龍舌ラン		44
編輯後記		44

翻刻 大連方面のホール現状 XYZ

内地のダンスホールと、大連方面のダンスホールとの差違一を寸述べて〔差異を一寸述べてカ〕見ます。

まづ第一にホールで酒が飲めるといふことが、大きな相異〔ママ〕点であります。こういふと皆さんはどんなにか酔つぱらひが多くて、ホールも混乱を呈すかも知れない位にお考へになりませうが、決してあちらの人はそんなことはありません、だらしなない態度などしてゐる人はありません、大体踊るといふのが目的で来る以上、そんなに沢山飲んで踊ることは出来ないでせう。酒でだらしなない人の程度は国道あたりのホールに出入りする数と大差ないといつてもいゝ位です。

次にホールの隅に、何処でもタイムキーパーといふのが一人づゝゐます。これはダンサーが客と踊る時、現金をもらつたり、ノウチケツトでないかなど見張つてゐるのですが、果してこんなことが徹底的に解るかどうか怪しいもんですが、これは一種の予防策位にやつてゐるんぢやないかと思はれます。

ダンサーの風紀について意外に思つたことは、あちらの彼の女等は非常に厳格で、学校の寄宿舎と

いつたやうな厳しさの中に訓練されてゐます、むしろ国道あたりの彼女の女等の方が、或ひは緩慢ではないかと思はれることがある位です、海を渡つて大陸の踊り場に流してゐる彼女の女等を如何にも墮落してゐるかの如く見ますのは大変な認識不足で、このことは私も痛感したもので、あちらの彼女の爲めにも大いに明らかにする次第を感じました。

何といつても新開地といつた感じのある満洲方面のことゆゑ、新しがりの多いわけでダンサーなども、内地から新人ダンサーが非常に受けて、一寸踊りと顔がよかつたら忽ちNo.1になつてしまひます。その代り又ぢきに飽きられるといふのか、新しい娘が入ると落ち目になります、だから永住するといふ気でなく、一寸稼ぎにいくといふ位ならまことにいゝ所だと思ひます。何処のホールへ行つてみても、京都、神戸、或ひは国道から行つたダンサーが、二分の一、又は三分の一は居りました。ダンサー席なども組分けできめて、毎日異動します、だからNo.1など、いふ定つた席はなく、常に異動してゐるわけです。遅刻した場合など罰金をとられ、その上に一番悪い席にやられます、だから席が定つてゐないので、こちらのやうに席を空けておくといふやうなことはありません。

収入はNo.1からビリまで、内地と大して変りはありません。チケットの都合も四分六です、客の出は一寸おそく八時九時からでラストは十二時半といふことになつてゐます。日曜日は特に一時からで、五銭ダンスをやつたり、一円五十銭で二十回或ひはコーヒー付とか、いろいろ〔くの字点〕サービス法を考へてゐますが一般の夜券は十枚二円八銭で、ペロケホールが二円五十銭だつたと思ひます。

客筋は、内地よりよく、主に満鉄、三井物産の社員などの青年紳士が多く、最も目立つて多いのは医者です。ペロケなどでは日本人と外人の客とは四分六分の割で、建築も内地では見られないやうな異彩を放つてゐます。

ジャズバンドは概して悪く、又演奏回数も一時間に二十回、或ひは廿一回位ですから、一回の時間も大変良いことになります。

以上はまづ大体に於ける内地ホールとの相違点であります、共通点で、然かもあまり面白くないといふのは、こゝも亦催し物の氾濫状態を呈してゐます。内地のホールが何処も此処もチャチな催し物を続けざまになつてゐるのを見て、何時も営業者の浅ましい焦燥といつたものを感じさせられます、まして期限を切つての催し物など、次には何を、又次にはと、つまらないことを追求め、あくせくしてゐる有様は、如何にも馬鹿馬鹿〔くの字点〕しくさへ思はれます、そんな果敢ないのぞみを追つてゐるより、もつともつと〔くの字点〕改善しなければならぬ場内の急〔1文字空白 務カ〕があります、即ち照明を素晴らしい気分的のものにするとか、ステージに異つた趣向をとるとか、若し催し物をするにしても、年に二三位大きな者をもつてくるやうに、こうした方が踊る客には永遠性の魅力を与へるものではないかと思はれます。

内地をはなれて大連にまでいつて催し物責めに会い、この度はしみじみ〔くの字点〕考へさせられました。私一人でなく誰でもこの種の催し物には食傷させられてゐること、思ひますから、ついでに書き添へた次第です。

翻刻 創刊四週を迎へて ダンス時代社 下村澗子

本誌創刊して、茲に四歳の秋を迎へますに際し、愛読者諸氏、並びに業界の皆様方に感謝を捧げます。

生れ出た子が、どうやら独り歩きの出来るやうになりましたのは、ひとへに皆様方の深甚なる御後援の賜と、當時を記憶しつゝ、歩み来し今日に思ひ迎へる時、何か臉の熱くなるのを覚えます。

どうぞこの上は、善きに歩むか、悪しきに傾くか、育てる者の指導の如何によるものでありますれば、ひたむきの正への努力をつまますれば、何卒何卒〔くの字点〕御指導御鞭撻の程謹んで御願ひ申上ます。

四年前の創刊号を繰る時、たまらないなつかしみがこみあげて来て、かくも短日月の中に発展をとげた現ダンス界に対して、躍如たる喜びを感じます。ずっと創刊以来、毎月一回の休刊もなく今日を経ましたことは、数多い業界の機関誌中でもダンス時代唯一つのみと、私の誇り得る点であります。

雑誌は単にその報道のみならず、指導的使命あることを思へば、決して浮薄な観念では出来ないもので、重大な責任を感じるものであります。私は飽くまで奮闘努力を決心してゐますれば、何卒何卒〔くの字点〕益々御力添へ下さいますことを一筋にお願い申し上げます。

昭和十年十月

1936（昭和11）年

第4巻第2号＝壹月号 1936年1月（1935年12月19日印刷／1936年1月20日発行）

表紙 中島洋子（タイガー）

写真の頁 魅山ならゑ 藤田和子 美鈴愛子 花村君子 久保西美恵子 中濱喜久子
吉田愛子〔あい子〕 小林春子 服部初枝 吉田治代 阪口悦子 中西静子、城野千代乃
佃華子、竹村艶子 照井玲子 三好タイ子、川崎奈良子 大國すみ子 林あや子
アポロセルビアンタンゴバンド〔、レビュー団〕 帝都舞踏場 キヤピトル〔舞踏場〕
大鹿實 谷口幹夫 山本正二 梅澤清一 ガーデンホール 上田耕作
キング〔ダンス〕ホール 西宮〔ダンス〕ホール 尼崎〔ダンス〕ホール
〔ダンス〕タイガー

巻頭言〔画のみで文章なし〕	1
歎き〔歎き〕のジゴロ	榛名静夫 2
姿勢のヒント	〔紹介文 濱井弘〕 櫻田節朗 5
なつかしの歌声	井川博光〔作詞 水木利夫作曲〕 6
社交舞踏此頃の傾向	上田耕作 8
人生案内〔4 家庭教師ノ巻	中江正美画〕 9
舞踏の面影	田尻宗夫 10
〔鈍刀の鎗4 ダンス界1935年〕興亡以前	藤山於菟路 12
踏壇 GPU	志賀 彰 14
当り年子の吉振り〔掛合万才〕	子の〔之〕吉〔猫之助〕 16
B・O〔円満〕解散〔す〕	19
横浜舞踏場散見地	奥田政男 20
街の花嫁	26
関西ダンサーの見た東京のホール	吉田愛子 28
H・S・D・S〔瞳社交舞踏研究会〕発会式	34
シーズンス・クエックスステップ〔(by Victor Silvester)〕	正林清英〔訳〕 36
編輯後記	41

第4巻第3号＝四月号 1936年4月（1936年3月19日印刷／4月20日発行）

表紙 吉田愛子（アマガサキ）

写真の頁 天野蘭子 小林春子〔千代子〕 飛鳥明子 志賀あけみ 小林華子
中谷千恵子、中谷豊子 山中八重子、山中笑子

百々師〔雪枝〕、芦原〔洋子〕、田中〔豊子〕 米田美津子 金原〔つた子〕
 角崎〔弘子〕 錦〔愛子〕、辻〔チエ子〕 尼崎ホール 杉村千恵子 大鹿章
 松川歳久 キング〔ダンス〕ホール〔ダンサーの一日〕〔ダンス〕タイガー

巻頭言	1
〔ダンス夜話〕 Bull dance と Hen dance	村岡 貞 2
Party は愉しからずや	榛名静夫 5
情熱の伊豆	井川博光 6
タップの名手〔中川三郎氏の出現〕	6
ダンス一家言	國枝史郎 8
ガラス床のダンス場	8]
〔珍しい小鳥の話	8]
〔別府ボールルーム オリンピック	9]
競技者に対する暗示	和田省三訳 10
〔ダンサーの噂	12]
人生案内	13
優美〔で便利〕なダンス〔用の〕コンパクト	13
ネグロからきた音楽〔ジャズ音楽は何時頃起つた?〕	14
趣味のページ	18
〔アトラクションの概略	19]
海ゆかば〔海行かば〕	20
映画に於けるダンス場面	21
舞踏展望	21
関西〔各ホール〕ジャズバンド新メンバー〔紹介〕	22
編輯後記	

第4巻第4号=六月号 1936年6月(1936年5月19日印刷/6月20日発行)

表紙 瀧薫子(タイガー)

写真の頁 藤田和子 草岡潤子 隅田登志子 竹田好江 平塚のぶ子 小林春子 村岡咲子
 小林千代子、三好タイ子、田房貴美子 群司桂子
 アサバンド〔アサ、タンゴ アンサンブル〕 ジョニー〔ジャズ〕バンド
 京阪ホール〔京阪娘明粧譜(けいはんのだんさあいろとりどり) 左方一夫〕
 國松静子、ダイヤ 梅澤〔ジャズ〕バンド 前野〔港造ジャズ〕バンド
 少女バンド〔キングホールのO. R. G. リズムガールズジャズバンド〕
 キングホールダンサー〔名星〕〔コニイ エス〕サムソン
 安井〔清士〕バンド〔ヤング メロデヤンス・ダンスオーケストラ タンゴバンド〕
 山本〔Yamamoto et son Tango Ensemble〕、東バンド〔Azumanias Palace Orckestra〕
 〔ダンス〕パレス ガーデン〔ホール〕 尼崎〔ダンス〕ホール 西宮ホール
 生駒〔ダンス〕ホール 〔ダンス〕タイガー

とびら	1
最新ヴァリエーション〔スローフォックストロット〕	三輪綾二 2
新緑閑話	榛名静夫 4
ホールと私	下村澪子 6

さつき空	江里 久	8
趣味の頁		8
MADE IN JAPAN [English Joke コクサン チャンボンノ シヤレ]	QQQ	10
アベック考現学	志賀 彰	12
フォトページ		15
ジョージ・イチムラ・ダンシング・チーム [近代舞踊研究所開設] ダンサー新人紹介		
ダンス試験の珍問答 [珍答案のダンス試験] ショウダンス競演 リズムクラブ組織		
パラマウント・シヨウ来朝 [尼崎ホールの歌手コンクールの夕]		
[社交ダンスがオリンピックへ!] [外人ジャズ] 流行歌手引抜戦 写真グラフその他		
浜ダンス [研究所 ダンスホール]	高橋利併	18
今月の主題歌とダンスレコード		19
人生の流れ	藤山於菟路	20
ダンスと音楽	中原恒男	20
妾達のジャンル [蟹]	小林華子	
[はつ夏]	麩山ならゑ	23
舞踏娘の変遷	北林透馬	24
ミッドナイトシヨウ		25
映画、青春の抗議		26
音楽のある映画	西方 健	26
ハリウッド通信		27
ホールの音楽 [ボールルーム・ミュージック]	[S.] UMEZAWA	28
[金魚バンドの弁]		29]
ゑんま帳		30
ナ、[奈々]の欲び	豊原富美子	31
リズム [ツ] ム・ダンシング	本社 [正林清英] 解釈	34
頂門一針 [録]	鈴木美和	37
[次号予告]		38]
編輯後記		38

第4巻第5号=七月号 1936年7月 (1936年6月19日印刷/7月20日発行)

表紙 瀧薦子 (タイガー)		
写真の頁 飛鳥明子 麩山ならゑ 花村君子 岸本好美 宮垣清子 日出光子 湯川清子		
東美佐を 桂バンド [NARITA AND HIS BOYS]		
ソシアルバンド [TANAKA ET SON TANGO ENSEMBLE]		
サムソン [Connie S. Samson] キングホール ガーデン [ホール]		
ダイヤ [倶楽部] 尼崎ホール 花隈ホール ダンスタイガー 西宮ホール		
とびら [恋の夢酒]	於菟路]	1
リズムダンシング [リズム・ダンスに就て]	本社 [正林清英] 解説	2
[大衆化したパーマネントウエーヴ]		4]
ホールの裏を覗く座談会	人物 ダンサー 教師 新聞記者 ボーイ 客	
	場所 阪神国道ホール	
	時日 昭和十一年六月	5

〔三六年の海を飾る〕サンマーベエジングスーツ (流行の頁)	石井三郎	8
〔1936年の〕夏のバリーから	〔松坂屋デザイナー〕マダム・エレーヌ	35
油紙のフロア [-]	榛名静夫	11
今月の主題歌とダンス、レコード		13
映画 (艦隊を追つて)		14
明日の映画	HDO	15
〔ハリウッド通信		15〕
ダンサーを女房に持った男の打明 [け] 話		16
MADE IN JAPAN [English Joke]	QQQ	17
浜ダンス [キヤバレー チヤブ屋]	高橋利併	20
人生のながれ [人生のながれ (二)]	藤山於菟路	21
〔タップダンスの踊り方		22〕
パラマウントシヨウ [といふものは?]		23
関西婦人競技会 [婦人社交ダンス選手権大会] [クイン大阪を募集 キヤピトルの争議と大難 武内忠雄氏のリズムダンシングの提唱 ホールのアトラクションオブジューン 若きゼロの名手ピアチゴルスキイ氏 露都ではダンスが流行 古賀、藤山の名コンビ再現 テイチクレコードの巨弾]		24
頂門一針録 [(二)]	鈴村美和	27
ゑんま帳		28
京都 [四] ホールの噂 [談]		30
舞踏界の第一人者を訪れる [(一) 武内忠雄氏]		32
編輯後記		34

第4巻第6号=八月号・夏季特輯号 1936年7月 (1936年7月19日印刷/8月20日発行)

表紙 北村仲子 (ガーデンホール)		
写真の頁 吉田あい子 山口茂子 隅田登志子 小林春子 田井久代 志賀あけみ 藤井夏子 吉本藤枝 前田静枝 照井玲子 北野恵子 小野千代子 川崎奈良子 吉田春代、日出光子 小川勝之助 大鹿實 平林春一 青柳武男 片山、富矢 ダイヤ倶楽部 [クラブ] 帝都座 [帝都舞踏場] 西宮ホール ナリタバンド [成田圭造] 生駒 [ダンス] ホール [ダンス] パレス キング [ダンス] ホール 尼崎 [ダンス] ホール [ダンス] タイガー ガーデン [ホール] 花隈 [ダンス] ホール 〔琵琶湖ダンスホール〕 [祝改築] 尼崎ホール		
とびら [巻頭言]		1
リズムダンスの普遍性	玉置眞吉	2
レコード、オブ、オーガスト		4
ミュージカルは退歩する	コオル・ポオタア	4
〔近時雑筆〕人生のながれ [『人生の流れ』その他]	藤山於菟路	6
極く初心者のため [ための] のダンス	ミス、ファイリス、ヘーラー	10
都会の夜	江里久	12
踏界閑話スケータースワルツのことゝも	〔大阪時事新報貴社〕小竹松雄	16
夢なれば	〔藤山〕於菟路	17
秋の大作 (映画) [秋の映画 超大作の洪水]		18

頂門一針録〔3〕	鈴木和美	19
ワルツヴァレーション	〔水曜会〕南幸夫	22
映画の頁		26
フオートニュース〔フオートページ レコード歌手今秋の新人 ダンスホールの税金問題解決 舞踏場組合結成 アマチュアータンゴ競技会 ファイリッパ・ゴオベエル式の大曲新盤完成近し！ アルフレ・デュボア健在！ モーツアルトのピアノ協奏曲新盤成る！〕		29
〔1929-1935 Official Ballroom Basic Step		32〕
ボール ルーム ダンシング	ビクター シルベスター	36
えんま帳		39
妾達のジヤンル		40
リズムダンシングの提唱〔娯楽型社交舞踏〕	竹内忠雄	41
〔海外時報〕情熱の舞姫 アルヘンチナ〔アルヘンティナ〕の死		46
踏界のことゝも		47
編輯後記		48

第4巻第7号～第4巻第?号=未発見

第5巻第1号=十一月号 1936年10月（1936年9月19日印刷／10月20日発行）

表紙 藤田和子（アマガサキ）

写真の頁 北村仲子 高須賀禮子 吉田あい子 飛鳥明子 杉野久美子 花村君子 小林春子
 桃谷幸江 生駒ホールダンサー〔生駒ホールのスター 三宅光枝 大塚一枝 吉田治代〕
 板倉慶子 西宮ホールダンサー〔西宮ホールの新人 中西静子 村岡咲代 關屋佐登子
 井田秀子〕 瀬川富美子 尼崎ホール〔の花形〕ダンサー〔林奈津子 浦川ヨシ子
 加島きみゑ〕 ガーデンホール 長谷川バンド〔Hasegawa and Lon Valley Dance Music〕
 東バンド〔Azumanias Palace Orchestra〕 タイガーバンド〔サム・カトウ〕
 平林春一 生駒ホールダンサー〔生駒ホールのスター 藤本君子 御影園子 日出光子〕
 花隈ホール〔だんすほをる〕 メリー〔ダンス〕ホール

巻頭言、五週年を迎へて	下村澁子	1
ダンス界は何から肅正？	金森義雄	2
批評について	玉置眞吉	4
頂門一針録	鈴木和美	5
ダンスホールを検討する座談会	〔大阪日日新聞社 村上芳雄 大阪日日新聞社 岩佐忠朝 関西中央新聞社 戸波恒郎 大阪時事新報社 小竹松雄 本社 下村澁子〕	6
想ひ出のダンス日記	竹内忠雄	12
〔踏界戦線〕奔馬縦横記〔ヤツアタリノページ〕	飛鳥井雅夫	14
オリピックと社交ダンス	村岡 貞	16
〔今様蘭蝶〕暗い日曜日について	榛名静夫	18

極く初心者のためのダンス [(その二)]	[ミス・フキリス・ヘーラー] 上田敬三 [訳]	23
モダンボールルームダンシング	KBK 舞踏教授所	25
ボールルームルンバの基本ステップ [マーシヤーピエル氏]	KBK 舞踏教授所	26
タップダンスの研究 (執筆中) より	松井 博	30
[1936年-37年] 婦人服秋冬のモードに就いて	[松坂屋婦人服部] マダム・エレス	32
今月の主題歌とダンスレコード		34
[女性にとっても魅惑的な毛皮]	堀部毛皮店談	34]
ダンスホールの装飾宣伝その他	左方一夫	36
踏界便り		36
彼の女 [彼女] への抗議	ヒロ・キウジ	38
[連続小説] 虚栄の波止場	緋呂泣兒	40
[短篇] 合鍵を持つをんな	田中秀實	44
[ダンスホールの取締 ホールの税金の問題その他 神戸のダンサー優遇法 献金		47]
ゑんま帳 [ガーデンホール 生駒ホール 京都方面 国道方面]		48
編輯後記		50

第5巻第2号～第5巻第3号=未発見

1937 (昭和12) 年

第5巻第4号=五月号 1937年5月 (1937年4月20日印刷/4月25日発行)

— 目次 —

表紙 北村仲子 (ガーデン)		
写真の頁 飛鳥明子 加藤菊恵 木下春江 [キヤピトルダンスホール ジャズバンド] 沼忠男		
山本俊二 中原恒男 石倉正二 山下バンド [ヤマシタ、ジャズ オーケストラ]		
クルミバンド [クルミ、エンド、ヒズ、キャンパス、ボーイズ]		
西宮 [ダンスホール タンゴ] バンド [西宮ダンスホール ジャズバンド]		
花隈 [ホールジャズ] バンド 京阪 [ホールジャズ] バンド		
田村バンド [タムラ、エンド、ヒズ、フレッツシユマン タンゴマニアス]		
前野 [港造 ガーデンホールジャズ] バンド 琵琶湖 [ダンス] ホール		
西宮 [ダンス] ホール 花隈ホール 宝塚会館		
巻頭言	下村澁子	1
舞踏ジャーナリズム [ジャーナリズム] の指導性		
〔一東京オリンピックと社交ダンスに関する一つの覚え書一〕	小竹松雄	2
類似のムーヴメント [ロック、バランス、チエック等々]	北村喜多子	4
タップダンスの執筆 (研究中) より [続]	松井 博	5
懐かしい国道ダンス街の思ひ出 [(前号よりのつゞき)]	服部良一	7
踏床私語	竹内忠雄	9
ザ・シーズンス・トロット [ヴィクターシルベスタ氏]	KBK 舞踏教授所	11
パリス洋服 [洋裁] 学園の開設		14

酩酊放談〔ヨツチャイネーズ〕	昭元潤彌	14
〔流行の頁〕春の婦人洋装	〔松坂屋〕マダム・エレス	16
独逸のジャズ		17
偽はらざる彼〔の〕女等の解答〔ABC順（つゞき）〕		18
ゑんま帳〔琵琶湖ホール 京阪ホール 生駒ホール 宝塚会館 神戸ホール ガーデンホール 大阪日日新聞社、恒例社交ダンス競技大会 世界的ジャズオーケストラ公演 春の踊り 台湾便り〕		21
ドロシイ〔、コール、〕タンゴ競技会に使用された〔せられたる〕4大流行のヴァリエーション		
	岩崎美和子	28
〔御報告 編輯後記〕		32〕

翻刻 懐かしい国道ダンス街の思ひ出〔(前号よりのつゞき)〕

コロンビアレコード会社作曲家 東京にて 服部良一

勿論国道の人々もそれぞれ〔くの字点〕、物凄く勉強して居られますと承りますが東西相対して大いに勉強すべきです。あの当時から僕等の大先輩として君臨して居られ今尚ほ国道又は其の他のホールにいらつしやる人々は、かのサックスの第一人者前野港造さん、ピアノ並に作曲編曲の秀才形生駒の成田七五三夫氏、等、ほんとうにどうして東京へお越しにならないかと思ふ程の実力のある人です（そんな事を云ふとガーデンや生駒のホールから、しかられそうだが）其の他にも、僕の知つた大家ではパレスの東氏、キングの胡桃氏、最近国道の人気者として評判の梅澤御大、等、皆んな東京の連中でも評判のよい人ばかりです。

僕はもう大分長い間、サックスを吹きませんし、ホールのステージへもお別れして居ますが今でも時々ホールへ行くとき懐しい昔を思ひ出して何んだかステージへ上つて皆と一緒に演奏したいと思ふ事があります。今も尚ほ国道のキングで川島氏や菊池氏と一緒に過した日が忘れられません、あの愉快なキングのマスター、いが栗頭で、時々突拍子な大声を出してびつくりさせる当り全く国道ホールの変り種の一つ、それにくらべて、支配人の吉桑さんのおとなしさ、何でもヘイヘイと云へそうな、あの御面相、一寸、面白いコントラストですね。キングに居た頃、丁度、何かでマスターが旅行をされた事がありました、そしたら旅行先から毎日二通三通の激励電報が飛んでくる、曰く『カクインイツソウフンレイドキョクセヨ、マスター』とか『ガンバレキング、マスター』とか、まるで、東郷元帥か秋山参謀の様なつもりで居られるらしいです。笑へぬ思ひ出ではありませんか、名物男と云へばあの吾作のおぢさんはどうして居られますか、お客さまをあつかふ事の上手な高橋虎男先生がパレスのマネジャー当時の物凄い人気の好き。ダンスファン社の八木さんの男らしい風貌等も国道の大きな存在ではありませんか よく、八木さんも僕を可愛がつて下さつた事を覚えて居ります。

それにダンス時代社の下村さんがあのアパートの一室で僕にダンス曲のテンポと曲の話を書いて呉れと云はれて、僕の話の記事にして書いて下さつた事。喜久の茶屋の二人娘の芳枝さん富枝さんの思ひ出、優しかつた御姉妹（と申しても決して国道の皆様へんに悪く誤解なさらない様にね）、思ひ出はまるで走馬灯の如くになって現はれて来ます。ダンサー諸君もあの当時は仲々面白い人が居ました、何んとなか面白かつたのは国道のあの当時です、勿論こんな僕にもロマンスも多少はあつたから面白かつたんでせうが、今も時々用事で大阪へ帰ると必ず国道へ一度は出掛けないと気が着かない、踊れもせないのに各ホールを覗いて見ないと大阪へ行つた気がしません、あゝ国道は僕の一生に大きく咲いた思ひ出の所です。人も建物も皆、国道と名が附けば、ホール街と思へばなつかしいです。

機械があればもう一度国道のホールで、好きなサックスを吹いて見たい、そしてあの当時の夢を再

現させたいと思います。

国道の皆さま、僕は今まで何を書いて来たのか此の稿が何を書かうと思つて書き出したのかわからなくなりました。元来、オタマジヤクシばかりを扱なれて居る僕が、今更かしこまつても何も書けません、たゞあまり懐しいので思はず筆を取つたのみです。御健康と御多幸を祈りつゝ、今日の通信を終る事に致します。

第5巻第5号=九月号 1937年9月 (1937年9月1日印刷／9月5日発行)

— 目次 —

表紙 花村君子 (尼ヶ崎)

口絵写真 渥美智子 [とも子] (ダイヤ)

隅田登志子 丘弘子 小林春子 美鈴陽子 重田百合子 廣田君代 中川芳子

麴山ならゑ [麴山江美子] 吉田治代 花井民子

[琵琶湖ホールの花形] 山口 [小夜子] 園田 [松枝] 遠藤 [代之子] 友岡 [美保子]

松浦武男 田村 [昌久] バンド 沼忠男 桑原稔明 澤井正明

キングホール [花形ダンサー] ダンスパレス 尼崎 [ダンス] ホール

花隈 [ダンス] ホール 生駒 [ダンス] ホール キヤピトル [ダンスホール]

[ダンス] タイガー 台湾第一 [ダンス] ホール

巻頭言	[ダンス時代社]	1
踏界のこと [事] ども	下村澪子	2
舞踏界近況		2
海外踏界通信 [スクラップより]	KS 生	4
ダンス界時評		4
横浜舞踏界近況	高橋利併	6
踏界思ひ出の人々		6
横浜通信		8
慰問袋に添えて	麴山ならゑ	9
横浜東京 ダンスホールある記	下村澪子	10
日本舞踊雑感	小島操次	12
ダンサーゴシップ		14
僕のダンサー人名簿	左方一夫	14
関西各ホールのトップダンサー		16
椿姫 (映画の頁)		18
コント3題 I	丘はるみ	20
II	さかたかずを	20
III	田村美沙	20
九月のレコード		22
クキツクステップのヴァリエーション	大鹿 實	23
えんま帳		26
編輯後記		30

翻刻 踏界思ひ出の人々〔無署名〕

ダンス尤〔ママ〕も華かなりし頃、今から五、六年前の踏界人の消息を――

△大阪、京都社交舞踏教師協会会長山本威雄氏は、現在大阪北の新地にダイヤなる喫茶店を開き、本業の油の事業に健闘されてゐる。

△尼崎ホールの経営者中屋敷岩夫氏は実業方面に進まれ、種々の会社を起したが、今は日本金山の大会社を起すべく大運動してゐる。尚また花隈ホールの株多少は握り KBK 教授所の出資者でもある。

△尼崎ホールの支配人なりし喜須海氏は、大連に渡り、その後消息遙〔杳カ〕としてなし。

△タイガーの支配人なりし岡田利典氏はレコード会社に関係してゐる。

△久森義雄教師は某代議士の娘と結婚して電気事業に没頭してゐる。

△川邊孝二氏は洋品店大阪屋も人に譲り、山口武雄氏は酒場パリジヤンを経営してゐる。

△西宮ホール支配人野々山正夫氏は難波附近にて大衆食堂を経営がてら保険会社に勤めてゐる。

△キングの加茂君はホールの隣りで喫茶店を出してゐるし、タイガーの中島君はカフェーライオンの支配人になるし、尼崎の井上君は洗濯屋になつた。

△宝塚会館の教師中村孝二氏は靴屋になり上京して「ダンスと音楽」誌を発行してゐる。

△ダンサーでは尼崎の吉田愛子は淀屋橋にて美交社といふ喫茶店を出し、傍ら洋裁に通つてゐる。タイガーの中島洋子は南でスタンドタイガーを経営してゐる。パレスの若葉幸子は医者と結婚して三児をあげ幸福な家庭生活。美鈴愛子は南洋方面に某富豪と共に渡つた。

ダンサーの消息は数限りないが、まづ之等がうまくやつてゐる方で、中でも彼の女等の羨望の的になつたのは松波洋子。

彼の女は振出しは生駒ダンスホール、それから尼崎に来て、神戸ダイヤに入り、或外人の情人を持ち、堂々たる風姿をよく元町あたりに表してゐたが、間もなく横浜にいき、バアに働いてゐる中に又金持の外人に見込まれ彼が病気で帰国し、遂に死去したが、その遺言によつて一獲二万円の遺産をそのまゝに渡され、今横浜で豪華な生活をしてゐる。

※ 松波洋子の写真は省略

第5巻第5号～第5巻第7号＝未発見

1938（昭和13）年

第6巻第1号＝新春特輯号〔新年号〕 1938年1月（1937年12月30日印刷／1938年1月1日発行）

目次

表紙 隈田登志子（タイガー）

写真の頁 重田百合子 花村君子 小林春子 照井玲子 藤田和子 キヤピトル舞踏場
松浦武男 松本妙子〔台湾第一ダンスホール〕山崎バンド 沼忠男
キング〔ホール〕バンド 山本俊二 琵琶湖〔ダンス〕ホール ダイヤクラブ〔倶楽部〕
生駒〔ダンス〕ホール〔ダンス〕タイガー〔ダンス〕パレス キング〔ダンス〕ホール
尼崎〔ダンス〕ホール〔西宮ダンスホール〕花隈〔ダンス〕ホール
台湾第一〔ダンス〕ホール

巻頭言		21
新しき年を迎へて〔一三十八年踏界への希望一〕		下村濤子 22
〔ホール界便り		22〕
非常時〔局〕の踏界に寄す	〔大阪時事新報社〕	小竹松雄 24
舞踏場経営者の立場から〔非常時下の社交ダンスとは?〕		高橋虎男 26
シャンデリヤ〔水久保澄子さん 清水美子さん〕		28
ニュース〔オプ ニュース 国道四ホール聯盟国防婦人会成立 パレスのコロンビア芸術家大会 琵琶湖ホール十社参拝武運長久祈願 台北女子報告団結固まる 献金及慰問袋 西宮ダンスホール キングホールダンサーの旗行列 天津会館大盛況 台湾第一ダンスホール 東横会館の女流ダンス競技会〕		29
僕のダンサー人名簿〔【二】〕		左方一夫 32
お正月コント	まついまさを〔まつだ・かずを〕	36
踊る不夜城(映画の頁)		38
新春に贈る気のきいた変型	足立勝太郎〔四ツ橋舞踏教授所〕	40
ゑんま帳		44
〔空中戦譚〕死のスピン		〔幾井太郎〕 47
編輯後記		50

あの一ひこのひとおもひだすひとたち
翻刻 僕のダンサー人名簿【二】 左方一夫

コテツヂ コテツヂのテーブルによつて、踊る人の幾群かを羨望に似たまなざしでちつと見てゐたのはもう十四五年も昔のこと。その頃、まだ中学生の、生意気盛りであつた僕、悪友(?)に誘はれて、いやひよつとすると、僕の方から誘ひ出してゐたのかも知れない。制帽をハンティングにかぶりかえて、飲めもせないビールをあけて確か五六度はコテツヂに通つたことを憶えてゐる。

さういえばその頃のダンサーはダンサーであると同時にまた女給さんでゝもあつた。ビールのお相手もするし、同時に踊りのパートナーでもあつた。長方形のあまり広くもないルームの両側にテーブルがあつた。勿論音楽はレコードであつて、その真中の、ほんの三坪か四坪の処が踊り場だつた。通つたとはいへ、さて僕にはどうしても踊つて見やうといふ元気は出なかつた。はにかみやで、その癖妙に気取り屋の僕だつた。とうとう〔くの字点〕一度も腰を上げなかつた。或ひはそれ程にまだ善良だつたのかも知れない。さうしてお坊ちゃんだつた僕を、可愛がつてくれた女給さん即ちダンサーもあるにはあつたけれどその頃のこと、みんなもう名前も顔も忘れてしまつたしそれ以上の記憶もない。

パーリスター それから戎橋のパーリスター、今のキリン食堂の二階にホールのあつた頃、階下は食堂だつたし二階半分もカーテンの衝立で仕切つて踊り場と食堂に仕分けてあつた。その衝立の影からコーヒを啜り乍らやつぱりみんなの踊るのをよく見てゐたものだつた。兎に角コーヒを五銭で飲ませてくれたその頃だつたし、此処へは殆ど毎日のやうに通つた。それにしても、その頃にはもうダンサーと食堂の女給さんとは全然別な存在でもあつた。

今ちつと考えて見ると大正十三年頃だつたか知ら。もう中学生でもなかつたし、同人雑誌などやつてゐた頃だつたかも知れない。確かに僕が萩の茶屋に住んで、ステージダンスの研究などやつてゐた頃だと思ふ。パヴロワが来朝したのが大正十一年だつた。さうしてパヴロワの踊りに感激以上のまなこで接して以来、その他色んな動機から舞踊に対する興味をもつようになつたとはいへ、ソシアルダンスよりはむしろステージダンスに非常な憧れをもつてあちらこちらの雑誌などにその頃始まり始めてゐた所謂新舞踊運動に対する感想や希望めいたものなどを書いてゐた頃の僕だつたと思ふ。

百鬼夜行

だからある意味からはソシアルダンスに対してはむしろ軽蔑に近い気持ちをもつてゐたことも争はれない事実でもあつたが、その反面にまた自由主義的な僕の思想的立場から、それに反する風の見解も持たぬわけでもなかつた。矛盾といへばそれまでではあるが、正直なところの僕の気持ちはこれだつた。それだから、夜中おそく、戎橋筋や道頓堀に行くダンサー達を評して「百鬼夜行」などある雑誌だつたか新聞紙上で皮肉つたこともある。シヨツトスカートの流行した頃だつた。今にして思へば感慨無量の感なきにしもあらず——てな言葉も想ひ浮ばされるのでもあるが、百鬼夜行の言葉は確かに、今日でも国道あたりの深夜にいまだ適切に言い得られるものがあると思ふ。

余談にはなつたが、もう一昔以上も以前である。さうして、このパリスターの、僕達コーヒ党の鼻眞してゐた女給さんのひとりがダンサーへ転向したのである。名前も、どう考えても思ひ出せない。矢張り萩の茶屋から通つてゐた女である。ダンスらしいものを始めて教つたのが彼女からであつた。といつてたゞ単に歩くだけ、さうして処々でツーステツプといふものを入れるのである。その時は右手の指でパートナーの背中へかう合図をせねばならない。つまりサインなのである。サインをして足を合せて、今日いふシヤツセをやるのである。彼女から教つたダンスといふものはこれだけだつた。しかし正直な話が、ホールでは一度も踊らなかつた。その中にキツトホールで踊るよ踊るよ〔くの字点〕といつてゐる間に彼女は北浜のシヤンレーダンスホールに變つてゐつたし、従つて彼女との交渉もその僕僕のダンスもそれきりだつた。

(註——北浜ビルの四階か五階かにシヤンレーダンスホールガ〔ママ〕あつた——筆者)

松竹座 それから大正十五年の春だつたと思ふ。松竹座が客席と舞台とを開放して破天荒の新年会をやつたことがある。勿論開放といつて誰彼なしに開放したといふ意味ではないがパートナーは楽劇部の女生徒、しかも松竹座の管弦楽で踊つたのであるから全く豪壮(?)素的〔ママ〕な愉快なものであつた。たゞ惜むらくは僕のツーステツプではあまりにもこの席上、僕の心臓が弱過ぎたことである。しかし、将来、社交舞踏史とでもいふべきものを、誰かゞつゞるからにはこれだけは忘れずに書いておいてほしいと思ふのである。可成り古い人であつてもこれだけは一寸知つてゐる人も少からうと思ふのであえて書いた次第である。

ダンス 尚書き忘れたがその頃、「ダンス」〔『ダンサー』カ〕といふ雑誌が発刊されてゐたことである。菊版で確かに三号位までは出たと思ふ。これも社交舞踏史上忘れてはならないこと、思ふ。

坂上白枝

澤奈緒美

ところで——

僕が本当に、といふと可笑しいかも知れないが、腰を落着けてレッスンを始めたのがダンスパレスが出来てから間なして、宝塚少女歌劇にゐた坂上白枝クンが僕のその頃の先生である。白枝クンとは宝塚時代からのお馴染みである。さういへば澤奈緒美という娘も白枝クンにつく僕の先生なのである。**ダンス時代** その次の先生が、実はダンス時代なのであるといひたい。

最初二回、白枝クンの家で教つたのである。彼女もやつぱり僕にツーステツプとサインとを教えてくれたのである。さうして僕のサインが何時もステツプよりもおくれるといつて叱りつけたのである。それから澤クンはこれは大阪式の踊りで、もう一つ東京式の踊りもあるといふことを僕に教えてくれた娘さんである。考えて見ると、この澤クンのいふ東京式の踊りとは実はイングリツシユ、スタイルの踊りであつたらしい。ほつほつ〔くの字点〕と英国風舞踏にわが国の社交舞踏で統制されやうといふ頃である。

英国風舞踏 さうしてイングリツシユスタイルの踊りを本当に僕に教えてくれたのは実にダンス時代の社交ダンス講座であつた。

麩山ならゑ

麩山華子

今のパレスのベストテン麩山ならゑくんなどはその頃の僕のよきパートナーといふよりよき友達であつた。いやそれよりもパレスであいつ、何処かで見たやうな顔だが——と考えさせ、さて踊り乍らシミーを教えてくれたのがならゑくんの姉麩山華子くんだつた。見たやうな顔だつたのも道理、阪急百貨店の売子だつた彼女、阪急で度々出会はした顔だつた。さうして僕の右肩に口紅を最初につけてくれたダンサーもまた彼女麩山華子くん——。

小畑しづゑ

小畑しげの

それから僕のダンス時代で覚えた踊りを実際にホールで踊らせてくれたのはシイちゃんこと小畑シヅエくんとその姉小畑シゲノくん。ダンサーつて何となよなよ〔くの字点〕と触れば折れさうにばかり繊細であつて綿の如く軽きものかなと、僕をして三嘆四嘆せしめたものは小畑シゲノくん。

想えば彼女等よ今頃は何処でどうしてゐるのやら——。それにしても僕のダンスも古い。古い割には一向にうまくもならないでゐると思ふ。

吉田廸子

亀岡喜美子

そして、僕が一番最初に好きだつたダンサー。今だから正直に白状する。何れも片想ひには過ぎないが目玉の廸ちゃんこと、吉田廸子くん。次に亀サンこと亀岡喜美子くん。養成ダンサーだつたカメラさんそれから先にもいつた麩山ならゑくん、共に未だよちよち〔くの字点〕歩きだつた僕には恰好のよき友といふべきであつた。

だが、考えてみるとパレスにもよく通つたものだ。精勤賞位出ていゝものなど彼女等と話したことも二度や三度ではなかつたが、これは一度も貰つたことはない。貰つたといえば旗の形をしたバッチ一個だけだつた。しかしそれはズツ後のこと。兎に角毎日の如く通つたのは本当。この間も書棚の引出しを整理してゐるとその頃の珍写真が出てきた。僕と亀さんの踊りのポーズだ。パレスの二階のレッスン室でその頃の踊り仲間のデブさんことU君が撮つてくれたもの。僕がベレエ帽をかぶつて写してゐるし。亀さんは春の踊りの和服姿ときてゐる。下手同士（亀さん！ 失礼）が組んだ珍ポーズときてゐるので余程その写真を下村さんに頼んで雑誌にのせてもらほうかとも思つたがやめた。

武村綾子

武村富美子

九條須磨子

かう書いてくると亀さん、まだ当時は女学生タイプの抜けきらない、いゝ処があつた。それからパレスの前のながす屋といふ食堂のことも思ひ出す。竹村綾子くん、それから彼女の姉武村富美子くん、九條須磨子くん、それに亀さん、この人だけははつきりと覚えてゐる。まだまだ〔くの字点〕あつたと思ふが……。さうしてラスト後のながす屋で朝の二時ごろまでファン下馬評からパレス楽屋話が飛び出す。可成り辛辣に——。

この頃はパレスへもトント御無沙汰である。さうして時たまにいつでも滅多に亀さんとは踊らない。久し振りで武村綾子くんと踊つたら、あんた踊り方が變つたね、といはれたが、綾子くんもうまくなつたもの、それにしても亀さんも随分うまくなつたさうだから是非一度踊りたいものだと思つてゐる。

翻刻 編輯後記（抄）

△次号社交界と銘打つてデビューすると共に、全国ダンスホール一覧表の別冊附録を作成して、その記念に致したいと準備して居ります。

翻刻 予告!! ダンス時代社

小誌「ダンス時代」は、第六年の歩みを続けて参りました、今度は七度の春を迎えて、この新年号を終末号として、こゝに名残りを止め次号、二月号より、「社交界」と改題して発行する予定であります、それは廿八年度への飛躍を旨として凡そ社交と名付く総ゆるの方面に進展したく、何卒層一層の御愛顧を願ひ申上ます。

〔作業にひとまずの区切りをつけて フィールドワーカーの文献探し〕

コラムニストが書く短い文章は雑誌にしか載らない。雑誌は切り刻まれて、捨てられる運命にある。それでよいと思っていた。――戦前戦後を通じてダンス評論家として多くの記事を書き残した川北長利さんは生前、そう、よく述懐されていた。

川北さんに会っていないければ、私はこの研究をつづけてくることはできなかっただろう。『社交ダンスと日本人』（晶文社 1991年）に太い骨組みを与えてくださったひとりだ。『につぼんダンス物語』（リプロポート 1993年）では、川北さんの半生を短いながら書くこともできた。だが、恩返しはこれでは不十分だ。だから私は、川北さんが編集にかかわった古い雑誌を探し、執筆された新聞・雑誌の記事を集めた。

川北さんと私との関係は、インフォーマントとフィールドワーカーという関係にはとどまらない。私は、湘南地区の高齢者のダンス・サークル活動で、講演などのかたちでお手伝いをしたが、経験豊かで説得力のある川北さんの文章を直接、多くの読み手に届けたいと考えた。そのために刊行したのが『川北長利 社交ダンス評論集 1932-1995』だった。大手出版社から出すめどは立たず、関西大学の学部共同研究費を活用して世に出した。当時、収集しえたかぎりの川北さんの文章を載せたものだ。

できあがった本を手にした川北さんが、次のように書いている。

私の評論はすべて雑誌に寄せたものばかりです。新聞記事と同じで、時日がたてばくず紙処理される定めです。たまたま永井氏に史料価値を認められ、書冊の形にまとめて頂けるとは思ってみなかった幸いでした。

永井氏は編集にあたり、私の序言と肖像写真を入れるようにアレンジをして下さいました。私はこの厚意ある配慮をいずれも辞退しました。なるべく資料集としての形を残したかったからです。

〔『ダンス情報』1996年5月号初出 『川北長利 社交ダンス評論集 続集』に再録〕

明治生まれの知識人らしい、合理的で、しかし謙虚な考えに感服した。川北さんからは

ダンスについて教えていただくことも多かったが、雑誌記事の運命に関しても考えさせられることがあった。社交ダンスやダンスホール、ダンサーについての記事。それらは一般の新聞雑誌にはあまりあらわれない。ダンスの専門雑誌が刊行されたあとは、その雑誌を見ればよいはずだが、その冊子そのものが残されていない。幸運にも冊子を手に入れたのに、肝心な部分が切りとられていることもある。いや、重要な記事だからこそ、その冊子をもっていた人は、ページを切りとって別に保存したのだ。他の記事がくずだというのはないが、それでも穴の開いたページを見るとせつなくなる。

古い雑誌の記事を確認するという作業は、そういうせつなさつきあい、それでもあきらめずに長くつづけることだ。そして、作業の成果は、検索可能なかたちにして後世に残さなければならない。デジタル化やデータベース化の技術が高度なものになり、かつ簡便につかえるかたちで提供されているいまこそ、研究分野の情報に簡便にアクセスできる環境が構築されていくことを望む。私が何十年もの時間を費やした基礎的な作業——人を訪ね、図書館や古書店をめぐり、毎日毎日、何時間もマイクロフィルムを読み、山のように複写をする——そういう時間のつかいかたを、のちの研究者たちにしてもらいたくはない。

けれどもそのいっぽうで、古雑誌のページに開けられた穴を探し求めるような経験こそが、フィールドワークで話を聞くときに可聴音域をこえた言葉を理解することにつながるのかもしれない、とも思う。

—2021.6.30受稿—

